

食慾がなかつたり、便通がわるいやうなときには、平生好きなた物を與へると効果のある場合が少くない。分量は胃腸に障礙のない限りは、食べられるだけ與へてよく、水も吐氣のないときは、飲みたがるだけ飲ませるのが普通であるが、病氣だからといって、泣くのを與へず手段として、不規則に食物を與へることはよくない。殊に食欲のわるい場合は、なほさら規則正しく食物を與へなくてはならぬ。

病氣によつては牛乳とか豆腐とかを與へねばならぬこともあるが、消化のよいものならば、何を與へても支はない。要するに營養の衰へないやうに注意すればよいのである。

どんな熱の場合でも、仰向きにばかり寝かせて置くと、肺血性肺炎を起したり、褥瘡を起したりするから、いくら安静ならしめねばならぬからといって、仰向きに寝かせたきりでは困る。一日に數回は體の向きをかへてやらねばならぬ。

微熱の永くつづく場合、安静を保つてゐても熱が下らなかつたならば、一度起して見るのもよい。さうしてもし熱が高くなつたら、再び安静にせねばならぬが、起して見ても熱其他に悪い影響がなければ、次第に歩かせたり散歩させたりすることが、却つて好結果を得ることになる。

體温の計り方 外國では肛門や口の中に體温計を入れて計る國もあるが、日本では普通の腋の下で計ることになつてゐる。尤も帶物を脱がせなくては體温計の入れられないときには、股で計つても差支ない。先づ腋の下で計るとして、汗でもかいてゐたら能く拭いてから體温計の水銀のところを、腋の下の中心部の

一番高いところへ入れるやう、腋の方から斜に上向きにさし込むのである。



方り計の温體

の部分の短い體温計を使用した方がよからう。

前から真直に體温計を入れると、水銀の部分の腋の下の中心より前に出て居つたり後にずれて居つたりして巧く行かないものである。

計る時間は體温計をはさんだまゝで水銀の上るのを眺め、それが上り切るまで入れて置くので、この間に要する時間は、十分から十數分が普通となつてゐる。

水銀を湯の中に入れたとき計る時間の長短により、體温計には一分計とか五分計とかいふ種類があるが、五分計は水銀の部分が長いので、充分腋の下にはさまつてゐない場合が多いから、素人は成るべく、水銀

運動した直後は体温が上つてゐるから、このとき計つた体温は平温ではない。運動の後は少くとも三十分間くらゐ置かなくてはならぬ。赤坊の場合は体温計を入れたら、落ちないやう胸を外から軽く押へた方がよいが、その間に胸を動かしたりすると、驟然によつて体温が上がるから、胸は成るべく動かさないやうにすることである。熱を計る回数は少くとも一日四回とし、その時刻は朝八時、正午、午後四時、夜八時と定め、成るべく食前がよいが、食後ならば三十分ぐらゐ経つてから計るのである。熱の上り下りの激しいときは、三時間置きか二時間置きに計る必要がある。

第三節 赤坊と寒胃

皮膚の抵抗力の弱い赤坊は、寒暑共にその影響を受け易いが、殊に寒いときには能く風邪をひき、それがいろいろな呼吸系統の病氣の原因となるのだから、寒い間は特に風邪をひかさぬやう注意せねばならぬ。大體大人でも子供でも、絶対に風邪を引かないといふ人はないが、よく風邪を引く人と減多に引かない人と、重い人と軽い人との違ひがある。年齢の上からいふと、幼いときほど能く風邪を引き、年を取るに従つて引かなくなるものである。

嬰兒の寒胃の原因 今日の進んだ醫學でも、風邪の原因は何んであるかハッキリ判つてゐないが、これを引き込む動機は殆んど決つてゐる。一つは寒さに違つて自ら風邪を引き込むのと、もう一つは他人から傳染するのと

であるが、赤坊では他人から傳染する場合が多いのである。両親とか、兄とか姉とか、其他の家族から傳染されるので、傳染した當人は鼻風邪か咽喉の風邪くらゐで済むが、傳染された赤坊の方では氣管支加答兒や肺炎まで進む場合が少くないのである。

自分から風邪を引き込む場合は、寒い外氣に當つただけで起ることもあるが、暑い夏でも引くことがあるから、必ずしも寒氣が風邪の動機とはいへない。母親の不注意の下に、寒い目に逢はせると風邪を引くといつた方が適切であるかも知れぬ。例へば暖かいとき餘り厚着をさせて、汗のため肌着が濡れたのを其まゝ放つて置くとか、風呂から出て裸體のまま、永い間遊んでゐるとか、暖かい晩着をはいだのに氣がつかず、そのまま眠らせてあつたとか、さうした場合によく風邪を引くものである。

殊に汗をかいた後や、入浴して濡れたまま、でゐるときなどは、皮膚の表面の水分が蒸發するため、同時に全身の表面から熱を奪ひ去るから、非常に冷える關係上、大人でも風邪を引く場合が甚だ多い。昔から理窟は判らぬながらも「湯冷めに風邪を引く」といつてゐるのはこれである。だから赤坊を湯に入れた後とか、汗の出るほど暖かいところに置いた後とか、寝て起きたときとか、おんぶから下したときなどは、直ぐ汗を拭いたり、肌着を取りかへた後でなくては、外氣に當てないやう取扱はねばならぬ。

嬰兒の體質と寒胃 赤坊は風邪を引くと、氣管支加答兒や肺炎を起しやすいが、中には咽喉だけで嘔ひ止める體質の子供もある。これは扁桃腺に關係があるので、大體赤坊の扁桃腺は初めは極めて小さく、年と共に次第に

大きくなつて、満一歳くらゐでは平生でも見えるやうになり、満四五歳で一番大きくなるものである。それから後は次第に小さくなり、満十歳前後で再び大きく、思春期に入つて小さくなり、大人のやうな状態になるのだ。この扁桃腺が大きくなる頃には、風邪を引いても鼻や咽喉だけで咳ひ止め、高い熱は出ても二三日で治り、氣管支加答兒などを起すものは少ない。

扁桃腺は三つに分れてをり、大きく口を開けたとき、左右に二つ見えるのが普通にいふ扁桃腺で、學名は口蓋扁桃といひ、其外に咽頭扁桃と舌扁桃の二種ある。扁桃腺と同じ組織の小さい腺が、咽頭を取巻いて輪状に無數ある。これをワイダイエルの扁桃輪といふのである。

是等の扁桃腺は風邪の菌を食ひ止める働きを持つてゐるから、その作用が活潑であれば、氣管支加答兒や肺炎に罹ることもなく、反対に作用が不十分だと、菌は咽門を素通りして、肺の方へ侵入するのである。

嬰兒の風邪の難防 風邪はその原因がハッキリしてゐないため、豫防といふこともなかく困難な問題だが、傳染を防ぐための方法ならば考へられない譯ではない。

外へ出て人の大勢ゐる中で、風邪を引いてゐる人の傍へ寄ると傳染するといふのは普通の考へだが、赤坊の場合は家族の者から移るときが多い。だから風邪を引いてゐる家族の者には近づけないことが大切で、それが母親とか子守とか、是非とも赤坊に接近して世話をせねばならぬ立場にある者は、世話をする間マスクを掛けるやうにすることである。

母親が風邪を引いてゐると、赤坊はその乳を飲むことに依つて傳染するやうに考へてゐる人もあるが、乳から風邪が移るといふ證據はない。だからマスクをして酸水で乳首を消毒した上授乳すれば、傳染を豫防することが出来るのである。寧ろ母親が風邪を引いたからといつて授乳を中止し、急に人工養育にしたため消化不良となるやうな場合もあるのだから、授乳は矢張り続けた方がよいのである。

風邪の手當 昔から風邪は蒸氣の蒸といつてゐる通り、「ナニ風邪位が……」と思つて油斷をしてゐるうち、思ひも寄らぬ重病が起つたりするのだから、特に赤坊の風邪は十分注意しなくてはならぬ。

顔色や鼻のわらひとき、喉や水鼻が出たとき、目が涙ぐんでゐるとき、熱が出たときなどは、それは重い病気の初期かも知れないし、例へたゞの風邪にしても、進行してから治すのは困難だから、先づ體温計で體温を計つて見て、便の具合などにも注意し、一日も早く治してしまふことである。

ところで風邪と一口にいつても、これには色々な種類があつて、手當の仕方也不一样ではない、喉一つ出ないのに、風邪を引いたからといつて、慌て、胸に濕布をする人があるが、濕布は氣管支加答兒とか肺炎とかの場合、必要に応じて爲すべきもので、喉の出ないときは勿論、たとへ喉の出る風邪を引いた場合でも、胸に濕布をするのは非常識である。

咽喉へ濕布をすることも感心出来ない。赤坊は頸が短くて、喉が喉と胸についてゐるから、濕布の上をいくら乾いた布で巻いても、上の方が口を開いて冷たくなり、肌膚や食物の汁に水がしみ出し、冷々と寒い感じを

與へるものである。

風邪で咽喉が腫くなると、頸の下から耳の間にかけて淋巴腺が腫れ、押すと痛みを感じ、咽喉は治つてもこのために熱の出ることがある。

かゝる場合は細長い水筒に、細かく割つた水を入れてガーゼで巻き、その水が双方に分れるやうに、水筒の中央を紐で結び、腫れた淋巴腺のところへ當て、ガーゼの端を頭へ長く掛け、あとを鉢巻にして結ぶやうにすればよい。中央を結ぶのは、水が片方へ下つて胸を冷すのを防ぎながら、肝腎なところへ充分水筒を當てるためである。

然しこれだけ注意しても、いつの間にか水筒が動いて、肝腎のところから外れてしまつてゐることが少なくある。だから時々手を當てて見て、目的のところを冷やしてゐるか否かを檢べなくてはならぬ。そして淋巴腺は尚ほ腫れてゐても、熱が下つたときには、エキホスなどの巴布藥を用ひるのである。

引きつけ易い子供になると、高い熱の出る前に顔色がわるくなつて睫毛立つものである。これは大人の悪寒や寒慄に相當する現象だから、このときは水枕や氷枕は取つてしまひ、濡たんばで暖めると、寒慄は起さな

いで済むものだ。そして顔色が赤くなつて来たならば、再び水筒などを當て、差支ないのである。

熱があつて手足が温かいのに、風邪は温めさへすればよいといふ考へから、温めすぎて汗をかゝせるのは、大人と違つて赤坊の場合にはよくない。だから無闇に温めることは控へねばならぬ。

尚ほ風邪は全身病だから、單に咽喉や鼻や扁桃腺だけが悪いやうに見えても、そこだけの病氣ではないのである。それに赤坊の場合は、風邪を引くと嘔吐下痢や嘔吐を催すものだから、もし下痢を作つたときは、食欲のない場合は勿論のこと、食欲は衰へなくとも、食事は成るべく控目にした方がよい。離乳期の赤坊なら、風邪を引いてゐる間は、現に食べさせてゐるものを少量づゝ與へ、他の食物は腹すべきである。

吸入も廣く用ひられてゐるが、方法が下手だと色々の害を生じていけないし、人によつて吸入よりも、他の方法の方が効果があるのだから、吸入を虎の巻のやうに濫用することは感心しない。醫者に相談した上、よく赤坊の體質を考へ、最も適當な方法によるやうお勧めしたい。

第四節 子供の咳とその手當

咳は呼吸器の病氣のときに起るものと考へるのが常識だが、そのうち一番多いのが喉頭、氣管、氣管支の病氣のときに、肋膜炎の病氣のときも、全くないこともあるが起る場合もある。これは單に肋膜炎の刺激だけで起ることもあるのだが、肋膜炎などのときには同時に氣管支炎や氣管支炎、肺炎等を伴ふため咳が起るのである。この外稀れには耳、食道、胃、肝臓、脾臓、子宮などの刺激から起ることもあり、以上の外の場合では、他の病氣の餘病として呼吸器が引かれ、咳の出ることは甚だ多い。

また別の方面から考へると、咳の出る原因は、大體次の二つに別れてゐる、一つは氣道内の異物、例へば痰や

喉などのために、呼吸器の粘膜が刺激されて出る痰で、これはその異物を外へ出さんとして起る現象である。他の一つは氣道の外に原因があつて、氣道がそのために刺激されて出る痰である。例へば氣管や氣管支の周圍にある淋巴腺が腫れ、氣管を壓迫するために出る痰、肋膜炎や呼吸器に關係のないところの刺激によつて起る痰などである。

痰には痰のからむ混つた痰と、痰のからまない乾いた痰とがあつて、前者の間では前者を混痰、後者を乾痰と呼んでゐるが、時とするとこの兩者が混合して出る場合もあるのだ。

物事に下手ほど高い咳払い

うしろから女へはうる咳払い

吉川郷にもいろ／＼にうたはれてゐる咳払いといふ奴は、咳のやうに思はれるが、これは純然な咳でなく、言はず咳の從兄弟みたいなものである。どうして起るかといふと喉頭加答兒とか扁桃腺とか、アデノイドなどの如く、喉頭や扁桃腺に病變のある場合に出るのである。

ところが一見して丈夫な子供でありながら、ませた風に見える咳払いをする者がある。これは一つの癖で、殊に神童質の子供によく見受けられる現象だ。こんな子供の咳払ひは、扁桃腺やアデノイドの肥大が、原因となつてゐる場合が多いから、これを取ると咳払ひの癖も治るものである。

後にくさめを持つてゐる妙な面

咳して前胸三つ込んだ職工



たる特徴を現はさないこともある。

この咳は純然たる咳で、主として氣道内の異物が原因となり、それを外へ吹き飛ばさんかために起るのである。以下数ある咳の種類とその手當法とを述べてやう。

のクループの咳 犬の吠える聲のやうな咳であるところから、一名を犬吠性の咳と呼ばれてゐる。これはチフテリアに必ず起るものゝやうに考へられてゐる。事實チフテリアが喉頭へ来れば、必ず真正のクリープを起すが、チフテリアは喉頭に起ることは極めて稀だから、何といつても一番多いのは扁桃腺だけから来る場合であるが、尤もこのときの咳は、普通の風邪の咳と區別がつかないし、また全然咳の出ないこともあつて、犬吠性の犬吠性

慢性クループ これはデフテリヤのときの真正クループに似てゐるが、普通の風邪で喉頭加答兒を起した場
合出る咳だ。夜中に突然始まつて、翌朝になり少くなるか、或は全然大咳性を失つて普通の咳になるのだが、
その翌朝になると必ず少くなる。

デフテリヤのときの大咳性の咳は、一旦始まると晝夜を別たさず續いて次第に激しくなり、後には聲も噤れて
呼吸が困難となつて来る。尤もこれだけでデフテリヤと慢性クループとを確實に區別することは出来ない。

子供は風邪の後に喉頭の淋菌が化膿して咽後膿瘍を起し、大咳性に近い咳を出すことがあるが、百日咳の
初期や、麻疹や流感などの場合もまた、これに似た咳が出るものである。

有聲性の咳 普通の咳の間に胸の奥から、陣子の破れに風の當るやうな、ピン／＼と響く咳が混つて出るものが
あるが、咳はこの気管の分岐部が外から壓迫されるため起る咳である。淋菌膿瘍がその原因となる場合が最
も多いが、淋菌膿瘍でも全く咳の出ないときもあり、また普通の軽い咳の場合もあり、次に述べる機軸性の
咳が永い間出て、百日咳と間違へることさへあるのである。

機軸性の咳 流感、或種の気管支加答兒、気管支淋菌膿瘍、肺炎、肋膜炎などが原因となり、續けざまに咳込む
咳だが、この特徴を最も著しく現はすのは百日咳である。

百日咳以外の機軸性の咳は、呼吸と吸氣とが互ひ違ひに起り、それが續いて出るのだが、百日咳の場合は一
つ／＼に區切られずに、數回づつて咳き出し、次で深く息を吸ひ込み、それが何回も續いて起るのである。

このやうに吸氣をせず、呼吸と共に續けざまに咳き出すものをスタッカーといひ、咳いて後へ引くとき、咽
が笛のやうに鳴るのが一つの特徴だが、咳いた後で大きく吸氣をするだけで、笛のやうな音のしない場合も少
くないのである。

百日咳の強いになると顔色や唇が青くなるところから「青い咳」など、風流めいた名さへついでゐるが、
本人にすれば何うして風流どころの騒ぎでなく小さい赤坊になると、咳いたまゝで吸氣をせず、一時息の止ま
つてしまふ場合さへ間々あるのである。

それに一般には、熱、腫中では咳は出ないのが普通だが、百日咳に限つて、腫中ほど激しいのだからたまた
ない。然し初期にはこの機軸性はなく、普通の咳が數目出るだけで、十數日にしてこの特有の咳となり、稀に
は特有の咳にならないで済むこともある。

無力性の咳 デフテリヤの後に痲痺が起つたときとか、胸の病氣にかゝつたときなどに出る力のない咳で、肺炎
のときにも起るが、この場合にはその種類によつて違つてゐる。氣管支炎や肺炎のときには、氣管支加答兒の
ときと同じやうな濕咳が出るが、弱つてゐる小さな子供では咳は全く出ないか、或は極めて少いことも珍ら
しくない。

クループ性肺炎のときは幼い子供でも、殆ど咳に氣のつかぬ場合が多い。この咳は咽の先だけで出るやうな
軽い咳でありながら、多少の痛みを覺え呼吸も弱くやうになる特徴がある。

同じくクループ性肺炎の中でも、初めから相當強い咳の出ることもあり、治り遅に咳が多く、それが温つた咳になつて、しばしば鮮色の痰が出ることもある。何れにしても肺炎では、同時に肋膜炎を多少伴ふから、咳も一層激しくなるのである。

喘息 喘息のとき痰が喉にからむと喘息が起るのである。この喘息に二種あつて、一つは「ヨロ／＼」音を立て、少し睡れてゐても聞えるほどだが、喘鳴は大きく気管支または気管、喉頭、喉頭の壁いときに多く起り、危篤の際にも起ることがある。

他の一つは「ゼイン／＼」といふ喘息で、口のそばへ耳を近づけぬと聞えぬほどだが、これは小さい「ブツ／＼」といふ音が集まつたものである。細い気管支または肺炎などに起り、時とするとこの兩種の喘息が混合して起ることもあるのである。

百日咳の預防と手當 百日咳は數ある咳の中で一番性質が惡く、幼少な子供ほど危険率が多いのだから、これが流行するときは特に注意しなくてはならぬ。今のところ預防法としては、ワタナンの注射があるだけだが、これも効果百パーセントとは行かない、多少効果があるといふ程度だから、先づ何より感染せしめないやうにする外はない。

若し不幸にして罹つた場合は、成るべく戸外の新鮮な空気を呼吸させることである。そのためには森林の中で呼吸させるのが理想的とされてゐる。入浴もさせた方がよいのだが、熱があると浴槽を跳び出すから、患者

の指圖を受けた方がよい。食物は喉が激しいと吐き出すから、この場合は一度の量を少くし回数を多くして與へるのがよい。

一般咳の手當 咳には多くの種類があつて、治療法もその種類によつて同一ではないが、氣道に異物があるために出る咳なら、その異物を出してしまふための作用であり、或程度まで咳の原因となつて居る病氣を治す上に利益があるのだから、咳を全然止めてしまつては却つて有害であると承知して置いたがよい。

然し氣道にある痰は、取に痰として外へ出るだけでなく、血管や淋巴管に吸收されて、自然になくなることもある。大體この痰といふやつは、原因があつて出るのだから、その原因の直らぬ限りは、痰だけを止めることは困難であるしまた有害な場合もある。

一般に咳の出る子供の部屋は、通風と採光に注意し、湿度はあまり高からず低からず、華氏六十度から七十度までとし、湿度も多すぎず乾き過ぎず、健康な人がゐて丁度氣持のよい位にするのが適當してゐる。咳の出るときは乾いた空気が有害だといふので、蒸氣を立てすぎる嫌ひがあるが、乾咳の頻發するときは別として、濕咳の場合などは寒ろ室内の空気が少し乾燥せしめた方がよいのだから、酷く咳の性質を考へて加減しなくてはならぬ。

暖かいところに居る際、時々風が當るとその刺激によつて一時咳が出るが、そのため痰が切れて、痰は咳持ちのよくなることがある。かうしたこと考へても室内の空気が、湿度や温度の外に空気の波動といふ

ことにも注意し、多少空気が動くやうにした方がよいのである。

室内を炭火で温めて空気が凝りなつてゐるときには、暖かいに拘らず暖かくて困ることがある。こんなとき窓を明けて新鮮な外気を入れると、その暖が少くなる。室内を暖かくすることは大切だが、空気の清浄といふことはより以上に必要だから、炭火などで暖めるため不浄にする位ならば、寧ろ暖めない方がよい。

吸入と蒸着 暖れた大きい子供に蒸気吸入をやると、暖は少なくなることがあるが、吸入の液は鼻咽喉や喉頭あたりまで行くだけで、氣道の奥の方までは届かないから、是等の上氣道に痰のある暖の場合には、吸入のため一時暖が出て痰が切れ、後は寒になることはあるにしても、氣管支加答兒や肺炎にはあまり効果のあるものではない。却つて吸入のため安静を守れないといふ不利益がある。それで最近一般に、蒸気吸入は次第は下火になつて來てゐる。

蒸気吸入の外にエーカリ油、薄荷油、テルペンチン油などの吸入が有效なことがあり、そのための吸入器なども考案されてゐるから、これを試みるのも場合によつては悪くないだらう。

氣道の種類によつては、温濕布が暖を止めるのに効果がある。用ひ方は暖嚢末を茶匙に山盛二三杯ビール瓶に入れ、洗面器で温めて使ふのである。温濕布ならば一日四回として朝、晝、夕方と就寢前に取りかへればよい、あまり頻りに取かへては子供の安静を害する。しかし起きてゐられる程度ならば、温濕布では冷える心配もあるから、巴布類を用ひる方がよいと思ふ。

尚ほ食物については、何でも欲しがるものを與へて差支はない。たゞ温熱で暖が汗山出る場合は、飲む水分を少くし、反対に痰が切れにくいいため暖の稠痰する乾暖ならば、水分を多くすれば暖は少くなるのである。

第五節 赤坊の喜ぶ濕布の仕方

肺炎とか氣管支加答兒とか、安静を要する病氣には、濕布を當てると効果があるが、その當て方はなか／＼巧くゆかぬものである。

近頃は濕布帯などを賣つてゐるから、これを買つて使用すれば造作もないやうに考へられるが、子供の身體の大きさによつて一様には行かないから、次の方法によつてゆるやかに、心地よくさせるやうにするがよからう。先づ湿らすネルを二重にし、胸の下から水落のところまで、幅は背中から巻いて前で突き合わせるやうにするか一二分開く位にするのである。たゞさへ苦しい病人を、湿れた布でしめつけてはたまらないから、ゆるやかにすることが第一である。

呼吸と共に寒に閉く巻き方は外巻きであるが、これは濕布の濕りを出さないためで、それには寒かい木フランネルが最もよい。地が厚ければ二重にしないでよいが、普通の物なら二重にした方がよい。一度水をくゞらせて乾かして使ふと一層効果があり、内巻よりは幅も長さも長目にして、軽く巻いて置くのである。

高熱の場合には三時間置きに取替へ、低熱ならば四五時間置きくらゐでよい。いつも十分に濕りがあればそれ



方仕の布漏

でよいのである。長い間漏布をする時困るのは、かぶられて漏布の出来ることである。それを防ぐためには内巻をいくつも拵へて置き、よく乾かして気持ちよくさせてやることである。使ふときは何れ漏らすのだからといって、拵ちみたものや十分乾いてゐないものなどをそのまま用ひると、何うしても漏布が出来るものと考えなくてはならぬ。

尚ほ赤坊の皮膚は細いから、さつぱりと湯でやるのがよい。酒や芥子やアルコールなどを用ひることは感心しない。

第六節 便から見た赤坊

嬰兒の便のいろく 赤坊の最初の便は眞黒で、多少酸っぱい匂ひがする。これを胎便といつて、母親の胎内にある間に呑み込んだものや腸内に溜つたもの

が、出生後飲んだ母乳のため、自然的に便となつて外へ出るのである。

この胎便は回数にして七八回、日數にして四五日間つき、その後は眞金色の匂ひも澄んだ酸っぱさの便と變つて来るのが普通である。

母乳で育てる赤坊の便は、色は腸子の黄味のやうで、クリームやうにねつとりし、匂ひは少し酸っぱく、一日一回か二回排便する。尤も便の性質さへ悪くなければ、一日三四回あつても心配することはない。月齡が進むに従つて回数は少くなり、誕生から先は必ず一日一回あるのが普通である。

人工養育で育てる赤坊の便は、母乳で育てられる赤坊のものよりは、色は白味がよつた黄色を呈し、多少乳の腐つたやうな匂ひを發するが、中には酸性便または石鹼便といつて、硬いコロコロな水分の少い便を出すこともある。これは體質にもよることだから、別段心配する程のことはないが、便秘するやうな場合は、果汁や蜂蜜湯を飲ませると効果がある。

病的な便 消化不良な場合は顆粒便といつて、軟便の中に少し青味を帯びた、半熟の腸子のやうな便を出すものである。これは脂肪や蛋白質が消化し切れずブツ／＼となつて出る結果で、ひどくなると粘液が混つたり、膿な匂ひを發することになる。これが一層悪くなると、泡の立つ下痢便となるのである。

膿便といつて青紫を裏面にしたやうな便の出ることもある。母乳の場合ならば心配はないが、これに顆粒便が加はつて、膿な匂ひを發する場合は、早速醫者に相談しなくてはならぬ。

乳液と血の混つた乳液血便を出す場合もある。これは腸に異状があるためで下痢を伴ふから、手後れにならないうち醫者に見せなくてはならぬ。子供が一人で便所へ行くやうになると、母親も最う便のことなんか煩悶しなくなるが、學齡に達する頃までは、矢張り便の有無や様子を見守り、病氣を未然に防ぐやう注意をしてやるべきである。

第七節 嬰兒の下痢とその手當

乳幼児の下痢の手當としては、減食より外なしと言はれてゐるほどだが、同じ減食にしても下痢の輕重によつてその程度に手加減を要するし、また一口に下痢と言つたところで、消化不良とか腸加答兒とか、其他いろいろの症狀があり、それに應じて手當も一樣でないから、細かく考へるとなかく、原因のないものである。先づ消化不良の場合をいつて見れば、これにも急性と慢性とあり、腸の疾患にしても小腸加答兒、赤痢、疫痢などあつて、個々の場合について適當な手當を施すといふことは、家庭だけで完全を期することは困難である。たとへば流動食でなければいけない場合に、おまじりやパン食を與へたり、反對にパン食かおまじりの程度のものにお粥を與へたりすることは有り勝ちなことである。また軽い下痢に、長期にわたつて流動食を與へたり、絶食させる程でもないのに、二三日も絶食させたりして、良い結果のあらう筈はないのである。

一日絶食、二日目は流動物少量、三日目頃よりは次第に流動物の分量を増し、六日目頃にはビスケット、パン、

おまじりなどを續け、次第に常食とするといつた場合に、徐々に増して行くときは害はないが、この順序を亂む母親は甚だ稀れで、大多数は與へ過ぎるやうだ。

治療の第一日に適當の量を定め、其後徐々に増して行くといふことは、病氣の經過に非常に影響するのだから、醫者の指圖を依つて第一日の量を定めることが必要である。我國の幼兒の死亡率が非常に高いのは、かうしたことに無關心であるのも一つの原因ではないかと考へられてゐるが、殊に人工營養の場合は一層の注意を要するのである。

三歳以上の子供なら下痢を起したら、すぐヒヨシ油を飲ませることを忘れてはならぬ。飲ませ方はそのままでは飲みにくいから、適量を香茶に浮かせ、子供を膝の上のせて少し前向きにし、口に注ぎ込んで鼻を撫むやうにすれば、眼でも飲んでしまふ。疫痢のやうな一類を争ふものは、ヒヨシ油を飲ませたらいつて安心は出来ない。ヒヨシ油を飲んで二三時間経つても便通がなかつたときは、直ちに浣腸を行ひ、醫者の手當を受けることが必要である。下痢するときは喉が渇くから飲料を要求するが、この場合は薄い香茶か湯冷しを少量づつ與へればよい。

第八節 夜尿症の根治法

常に寢小便といつてゐる夜尿症は四五歳前後に一多多いもので、この癖がつくと毎晩のやうに溺らしてしまふ

子もある。今のところ原因はハッキリしてゐないが、智力障礙や低能児でない限り、一應尿の検査をしてもらふ必要があらう。

五六歳以上にもなつて寝小便をするものは、痲痺にして神經營とか、扁桃腺肥大とか其他の病氣から来るのだから、その病氣を治してしまへば従つて夜尿症も治るものである。

尿に糖となつてゐる夜尿症ならば、暗示を與へて治すとか、尿の邊りにカタラン氏注射、レントゲン、ラヂウム、電氣療法、お灸、指壓療法などを施せば、相當の效果を見ることは出来るものである。

また家庭における療法としては、午後三時頃から成るべく水物を少し與へるやうにし、就寝前には必ず小便をせしめ、腰のあたりをタオルの腰巻などで巻いて冷えぬやうにするとか、白水、干菓、蜜柑の皮などの風呂で、充分温めて床に就かせるやうにすればよい。その上粗相をしさうな時刻に、一度起して用便をさせれば完全なのであるが、何んといつても一命にかゝはる程の病氣でないから、つい等閑にし、治し切ることが出来ないといふことに成るのである。

暗示を與へて治す方法としては、子供から寝小便といふ觀念を離してしまふことが第一に必要である。たとへばこの癖のある子に向ひ、

「あなたは最う、おねしよをしなくなりますよ」などと暗示を與へて置き、母親は毎朝子供の側に寝み、おねしよをした場合は子供に知らさぬやう、汚れた寝具や寝巻などを取替へてやるのである。

それとも知らずやがて目をさました子供は、いつもとは違つて、サッパリした寢床の上に寝てゐる自分を發見し、非常に愉快な気持ちになつて「さてはもう、寝小便は治つたのか」と考へ始めるであらう。

この氣分を永續せしめるため、その次の夜も同じやうにして一週間は續けてゐるうち、これまでは毎晩粗相をして、叱られるため外すまいとして背の口には安眠出来ず、夜中頃から成れてグツツリ寝込み失敗したのが、背の口から安心して熟睡するやうになつて、氣持も快活になり、尿意を催す頃にはハッキリと目をさまし、起きて便所へ行くから、自然と癖も治ることになるのである。

民間療法として銀杏や糠の實を焼いて食べさせたり、鶏の糞冠を附焼にして食べさせたりする方法も行はれてゐるが、是等の物はその中に含む脂肪のため身體を温めるから、多少の效果はあるかも知れない。

大體寝小便は赤坊のとき、濡れた褌に包んで置いたのが、知らず／＼のうちに習慣となつてしまふ場合も少くないのだから、母親としてはこの邊のことも注意しなければならぬと思ふ。

第九節 乳兒脚氣其他の手當

乳兒脚氣 乳兒脚氣は母乳栄養児に限つて起る病氣で、母親の食物にビタミンBが不足したとき發病し、母親には脚氣の症狀はなくても起る。症狀は先づ乳を吐くことから始つて、泣聲が力なくかすれて來ると浮腫があらはれる。泣くとき唇の色が紫色を呈することもあるが、かうなると餘程重症と見なければならぬ。

手當としては母乳をつづけながら、母子ともに脚氣の治療を受けることで、重症でない限り母乳を止める必要はない。この脚氣は母親が胚芽米を主食とする外食肉ともに新鮮な野菜、果物などを十分取ることによつて完全に予防することが出来る。

腸炎 腸炎は人工授乳児に最も多く見られるもので、その原因としては飲み過ぎ、食べすぎから起る消化不良、栄養が豊富でない場合などが挙げられてゐる。

脚氣は原因により、程度によつても一概でないが、共通な一般的症状としては食欲が減り、體重が極く少しか増さなかつたり、全く増加しなかつたりする上に、呼吸や脈搏も不整となつて来る。

消化不良の場合は下痢、嘔吐、腹痛を見るが、母乳児ならば授乳の回数を少くし、規則正しくすれば治癒することが出来る。人工授乳児の場合は、出来れば母乳を控目にやるのが最もよく、初期ならば脱脂乳、牛乳などを少し薄めて與へるだけで次第に良くなる。また幼児ならば消化し易い脱脂乳、煎湯、牛乳の卵黄などの食餌療法によるべきである。

食餌性中毒に原因する腸炎を來したときは、胃腸障害の下部のある場合に、不適當な食物のため中毒するのだから、醫者の手當に俟たねばならぬ。この脚氣は腸炎と共に水様の惡臭便を出し、粘液を混へると共に嘔吐を伴ふからすぐわかる。

皮膚病 皮膚は夏季の寒冷え、食物の不衛生などのため消化器が凝つてゐるところへ、赤痢菌の侵入

したとき起る脚氣で、二歳から入浴位の幼児に一番多いのである。

この脚氣にかゝると、今まで元氣だつたのに急にグッタリと元氣を失ひ、三十八度前後の高熱と共に脈搏も早くなり、腹部がやゝ膨れて来る。下痢や粘液便や嘔吐等を伴ふのが普通だが、コーヒーやうの物を吐いたらそれは重症である。

手當としては急に元氣を失つて發熱したとき、一類も早く醫師を遣へると共に、多すぎる位のヒマシ油の服用と冷風により、完全に腹の掃除を行ふことだ。二十四時間以内は白湯以外の食物は絶対に禁止し、腹部と心臓部とを冷やし、腹部と足先を温めるのである。

この預防法としては食物、未熟の果物、アイスクリームなども厳禁すると共に、寒冷えをさせぬやうに注意し、授乳児ならば糖分と脂肪とを控目に與へることも必要である。

腸炎 腸炎は小兒病中最も恐れられてゐる病氣である。種類もなかく多くて結核性腸炎、化膿性腸炎、腸液性腸炎、鉤虫腸炎などあり、その直接原因はそれらに與つてゐるが、多くは肺炎、百日咳、胃腸病、麻疹、中耳炎などが原因となる場合が多い。

症状は頭痛と共に意識の障害を起して發熱を見る。最初は元氣を失つて泣き易くなり、脈搏を多く取つて體温の狀を基とするものである。

手當としては確かなものはないから、醫師に托して天運に任すより外はない。

デフチリヤ この病はデフチリヤ菌によつて起る接染傳染病で、早春とか晩秋とかに起り、猩紅熱、麻疹などのときに併せられやすい。症状は突發的に四十度近い熱を出し、扁桃腺が腫れて喉が赤くなり、それが次第に白く變つて来る。熱くて二週間、重くて三週間の経過を取るのが普通である。

手當としては成るべく早くデフチリヤ血清を行ひ、安静に臥床せしめて流動性の消化しやすい食物を與へ、食後は必ず食器をさせて口腔内を清潔にせねばならぬ。患兒はいふまでもなく、患兒の使用した物は一切消毒し、家族の者も湯洗水、消毒水などで度々消毒すべきである。

■ 療 隔年毎に流行する小兒病で、四月から五月にかけて最も多い。早期診断はなかく困難で、先づ三十九度前後の熱を發し、不機嫌となると共に頭痛、食欲不振などを訴へ、四日目くらゐから熱が下ると共に腹痛を以てはじめるのが普通である。

手當としては合併症を起し易いから充分注意し、冬ならば室内の温度を六十度位に温め、夏は風の直接當らない、涼しい部屋が適してゐる。食料は殆んど無くなるから、成るべく牛乳、豆腐、肉スープ、野菜スープなどの、水分の多いものを多量に與へるがよい。

口腔内を清潔にするためには、消毒水で含嗽をさせるか、ガーゼなどで拭いてやらねばならぬ。内服の疑ひある場合は醫師を診へ、薬の劑を與へるとともに、芥子蒸溜布によつて腹痛を促さねばならぬ。

■ 患 肺炎は多くは風邪から移行して来るもので、死亡率は消化不良について高いのである。症状は呼吸が

非常に増し、息遣ひが悪く、胸も熱と共に上つて、食欲は全く無くなるものだ。

手當としては頭部を冷し、胸に二時間毎に湿布を貼すのである。湿布に二パーセントの鹽酸水又は一パーセントの食塩水と、一パーセントの重曹を用ひた重曹食塩水を用ふればよい。

この外一日數回の吸入を行ひ、醫者の指圖に従ふのであるが、看護の上手下手によつて、直に病勢に影響を與へるから、充分注意しなくてはならぬ。病室の温度は六十度前後、湿度は五十五度位を保つことである。この病氣を防ぐためには風邪を引かぬことだが、もし引いた場合は早くそれを治さねばならぬ。大體乳幼兒の風邪は軽いと思はれるときは、温かくして安静にし、吸入や湿布を行つて様子を見たら、二三日で治らないやうなら、醫師に任せるのが一番安全である。

第十節 日光浴の上手なさせ方

日光は皮膚を透す力を持つてゐて、身體中の毒になる細菌を殺し、消化器の機能を強化するから食欲は進み、骨の發育にも深い關係があつて、體温にかゝることが少くなるのみでなく、毛の發育をもよくし、老齡に至つても、薄毛や禿頭になることが非常に遅い。

かういふ關係から最近では、平生日光に當ることの少ない都會生活者において、日光浴といふことが入釜しい問題となつてゐる。普通の赤坊でも、三ヶ月以上になれば、これを行ふのは結構なことと考へられるのである。



赤ん坊の日光浴

然し日光は硝子を通したものでは、紫外線が通らないから効果はない。先づ露草とか雑草とか、直接日光の當るところを選び、後ろに屏風を立て、浴せしめるとか、座敷の中まで日光が射し込むところならば硝子戸を開け放し、障子の中でさせても差支はない。

この方法は母親が赤坊を抱き、最初は足首だけを皮膚へ直接五分間あて、次は腰まで出して五分間、それより膝上、股、お腹といふ順序で、各五分くらゐづゝ日光に晒し最後は丸裸にして當てるやうにすればよい。これに要する總時間は最長で三十分くらゐでよく、餘り水いと失敗することがあるから注意せねばならぬ。

時刻からいふと夏は午前九時前後か、午後は四時以後、冬ならば午前十一時から午後二時までの間がよい。最初のうちは頭部へ當てゝはいけないが、少し馴れてしまへば何んともなくなるものである。

日光浴をする時水を加しがるから、その前か浴中で湯ごましか番茶を飲へるのである。食欲も感んになるから人工栄養の場合は少し量を増さねばならぬ。汗をかいたら全身を乾いたタオルで拭ひ、後を手拭で摩擦してやると、一層皮膚が丈夫になる筈である。

日光浴中は暖かいため気持ちよく眠つてしまふことがある。暑いときはよいが、寒い頃は風邪を引かさぬやう注意せねばならぬ。

日光浴後に發熱したり、不機嫌になつたり、下痢を起したりする場合があつたら、それは日光浴に適さないのだから、時間を短くするか、一時中止した方がよい。

第十一節 出疹を簡単に治す法

人間の在落らしい醜いもの

昔から三聖の一人として有名な支那の孔子の醜は、李を入れるに足るほどの深さがあつたさうだ。醜の形とか大小とかについてはいろいろの説があつて、或る學者の説では、醜の穴は深い程よいのだが、大勢兄弟のある人の醜について研究した結果、長男や長女は醜の穴が浅く、二男三男と後から生れる者ほど、穴が深く大きくなつてゐると發表した。

「醜の基六」といふ言葉もあつて、何うも上の者には大人物が少なくて、二男以下の者に、醜れた人物が多く出

てゐることを考へて見ると、此患者の發表と、胸の穴は深くて大きい程よいといふ説とは一致してゐるやうだ。

これほど大切な病なのに人によると、その穴が深いどころか、お腹の上へ飛び出してゐるのが稀にある。これは早産児とか、産後の悪い子供とか、親の素質を受けついで来た子供に多く見受けるところで、醫者の仲間では「腹帯」といひ、一種の腹帯として取扱つてゐる。

別に痛いわけでも痒いわけでもないが、體質が弱くて泣き易く、腹の強い子に多く見受けられる現象だから、何れにしても出疹は名譽なものではない。然かしめる程度のものならば、成長するに従ひお腹の筋肉がだん／＼盛り上つて来ると、それが胸の周囲を捲ふて自然に治るものである。

開けて大きい出疹になると、さう腹帯には行かない。矢張り腹帯でも腹帯帯とか、胸バンドなどで緊迫を加へて治すより外はない。腹帯な治療法としては、お腹をつまんで胸の左右に横一文字の線を書き、その中へ胸を押し込め、腹に絆創膏を貼つて止めてもよく、少し大きくなつた子供なら、絆創膏を一寸五分角位に切り、釘けないやうに、角々に線を入れ、これを七八枚も重ねて、出疹の上に貼りつけてもよい。また十銭硬貨をガーゼに包み、胸の上にあてゝその上から、二寸四方位の絆創膏を十枚ばかり貼りに重ねて貼り、二三月もそのまゝにして置くと治る。

こんな方法では通付かない偉大な出疹であれば、手術をすれば直ぐ治るのだから、年頃になつて母親の不注意を思まれない前に、是非とも何かの方法によつて、幼時の間に治してやらねばならぬ。

第三章 悪癖矯正法

第一節 無くて七癖探さば四十八癖

人間の癖はそれが善い癖にもせよ悪い癖にもせよ「無くて七癖、探せば四十八癖」と言はれる程多いのだが、それも子供の間に矯正すれば大抵のものは治る。だから成るべく赤坊の間に直せるものは直し、善い癖なら十分助長せしめるやうにするならば、大人になつてからの人格に非常な影響を與へるのである。これを思ふと世の人の親たる者の責任も、非常にして大なりといはねばならぬ。それについて童話のお話さまで有名な岸邊親爺は「七歳のときについた子供の癖は、七年かゝらねば直せない」といつてゐる通り、子供の癖は幼いときほど直し易く、大きくなると直つて矯正が難かしくなるものである。

ところで子供の癖は、外から持つて来てくつ付けたやうに、自然につくものではなくして、能く考へると多くは父なり母なりから譲り受けるものである。つまり子供といふものは、親の歩む通りの道を歩むものである。

酒の好きな男があつた。毎朝仕事に出かける途中で居酒屋に立ち寄り、一杯のコップ酒を引つかけて行くのを何よりの楽しみとしてゐたが、或る雪の降る朝いつもの通り酒屋へ立ち寄り、一杯やつて戸外に出た途端に、實に驚くべき光景を見た、それは外でもない。雪の上に残された自分の足跡を振り返りに、一人息子が賢くない足取で、親

の後をつけて歩いてゐることである。これを見た瞬間に、この善良なる父親は、始めて子に及ぼす親の感化力の絶大なことを覺り、その日限り居酒屋での飲酒は止めてしまつたといふ物語がある。

要に鼻をいぢる癖があると、子もその眞似をして鼻をいぢるし、親が貧乏揺りをするときも同じやうに貧乏揺りをするものである。殊に母親の癖は一番子供に傳はり易いのである。尤も中には、親は一度も淫褻などした覚えはないのに、その子が淫褻を持つてゐるやうな例がある。かうした場合その親の顔に泥を塗る不孝者としてカシクになつて怒りつけたり、情なさにたゞ親を苦しんだりする者が多いやうだが、能く考へるとその子の周圍に、何か感化のつく原因が存在してゐるものである。だから感化を直さうとするには先づその原因となるものを取り除かなくてはならない。たゞ親そのものを直さうとしても、なか／＼直るものではない。

それと共に一方では、親の方で節制となつて、善き手本を興へることが大切である。自分はグウダラな振舞をしてゐながら、子供にだけキチンとせよといつたところで、到底行はれないことは斷合だ。彼らから指針刀を振つて、

「進め／＼」と號令をかけるよりは、自ら先頭に立つて

「つゞけ者共」と怒號すれば、一瞬の士氣は忽ち振起して、百の號令も立ちどころに行はれるであらう、子供を鞭けるコッもこれと少しも變らないのである。

第二節 難かしいのは子供の叱り方

子供を叱るといふことは、悪い行爲に對する己むを得ない一種の懲罰であつて、その目的とするところは、再び間違つた事を持ち返させないためであるから、先づ親としての眞の愛情を以て慎重な態度で臨み、適當なときを見て、最も適當な叱り方をしなくてはならぬ。

腹立ちまぎれに前後の考へもなく、頭から怒鳴りつけるやうな叱り方は、子供に反抗心を抱かせたり、親に對する輕蔑の念を起させたりする害こそあれ、親のためにも子のためにも、寸毫も利益はないといふことを頭に入れて置くことである。

世間には子供の顔さへ見れば、叱言をいつてゐる母親があるが、かういふのを五月雨叱りもいつて、叱り方としては愚劣中の愚劣なものである。大體日本の母親は西洋のママとを比較すると、兎角子供に對する口數が多いやうだが、それが殆ど悉く禁止的、消極的の示唆だから、子供の發育といふ點から見ても一層悪いのである。

子供は大人と違つて、起きてゐる間は片時も停止してゐることの出来ないものである。何かしら必ず活動してゐる。その動作の中には危険なこともあるが、懲罰なこともあり、また正しくないやうに思はれることも少くないが、それを偏から一々それもいけない、これもおよしなさいといった工合に干渉して、朝から晩まで口叱言を連發してゐたのでは、子供の天眞を殺すことになつて、健全結果のあらう筈はないのである。

新目切目のつかない叱責は何より動物である。叱らねばならぬ場合は、必要なだけをつた一言で、ピタリと閉くやうに打込んでこそ利目はあるので、息遣でも年百年中飲んで居ては、効能はなくなるものである。

忙しい仕事をしてゐるとき、子供が傍でおねだりをしたり、邪魔をしたりすると、母親は腹を立てて子供の顔も見ないで、八差しいとか彼方へ行つて別れとか、叱りつけることが往々あるが、子供にすれば何處へも行くところがないから、邪魔でも母親の傍にゐるのである。それを頭ごなしに叱りつけて、決してよい聲はない。こんなときには腹を立てる前に、先づ子供のことを考へてやつて、仕事の邪魔にならぬ處へ、子供の一番好きなものを與へ、たとへば「あすこに繪本があるから何か書いてあるか見てもらなさい」と繪本を出して置いてやるやうにすれば、子供は自分に關心を持つてくれることに満足して、三十分や一時間はその繪本を見て温しく遊ぶものである。

世の所謂良妻賢母型の、目から鼻へ抜け通るやうな、一服の隙もない賢明な婦人には、愛情において冷やかな人が多いやうだ。かういふお母さんになると、子供を叱るにも高事理窟せめて、ギリ／＼極めつけて叱るから、「何故」とか「何うして」とかいふ言葉が多く使はれるものだ。

然し可なり大きくなるまでは、「何故」も「どうして」も、子供にはわかるものではない。理窟なしにピリツと叱つて、それが悪いことであつたといふことが子供にわかつたら、子供の嫌むのを待つて、あとは親の温情を以て愛撫してやることだ。

「涙の伴はない叱責は、子供を驚くする外何ものもない」といつた小学校の先生があつたが、叱り方は下方でも叱る方に親の愛情があつて、叱責をいひながら目に熱いものを留してゐるやうなら最早言葉は一切必要はない。子供ほど感じ悪いものはないから、親の涙を見ればどんなにねちけた子供でも、無條件でうなだれてしまふものである。

これは本當にあつた話だが、或家の子供が隣へ遊びに行つてゐたとき、勉強の時間が来ても歸つて来ないので最近に来た女中を呼びにやると、女中はその子供に向ひ、

「坊さまや、早くお歸りにならないと、ママに叱られますよ」といつた。今まで「叱」といふ言葉を聞きつけない子供は、女中からその言葉をきくと、吃驚して歸つて来たが、家の中に入ると母親に向ひ、

「ママは坊やを叱るの？」と浮かぬ顔をしてゐるので、

「それは時間になつても坊やが歸らないので、女中やが心配してさういつたのですよ」といつてきかせ、別室へ女中を呼んで、

「うちでは叱るといふことは決していはない、その代り心配してゐるといへば、子供も得心して素直にきゝわけから」と注意したさうだ。

叱るとか叱られるとかいふ代りに、お父さまが心配なさるといつた掛け方は、非常によいやうである。叱られるのが情いから善い子にならうとするのと、心配させてはいけないから善い子にならうとするのでは、大きくな

つてから彼の人物の上に、少なからぬ相違を生ずるであらうと考へられる。

それに何處の家庭にでも、子供に取つて怖い人が一人はあるやうだ。この役目を買つて出るのは大抵父親で、「お父さんにいひつけますよ」といふ一言で、子供のいたづらを止めやうとするのだが、こんな遣り方は今では最も悪式だ。怖い人があれば、その人の前だけ温しくするが、居ないときはその反動で、いたづらも始末にへなくなるものである。この習慣が大人になつて動機に出るやうになつた時、上校の前だけ忠告を装つてごまかし、目の届かぬところではサボるといふやうな結果となり、自然立身出世も後れるといふことになるのである。

第三節 褒めるのも樂てはない

叱ることの反動は褒めることで、これは善き行為に對する一種の賞與であり、その目的とするところは、褒めることによつて子供に満足を興へ、益々その善行を奨励せんとする點にある。

だから、善い習慣をつけやうとするには、善き行為に對しては、情氣もなく褒めてやるべきであらうが、それも遣り方によつては、褒めることが癖になることになつたり、また單に褒めてもらひたいがために、善き行為をするやうな習慣をつけたり、あまり賑々褒められるので、普通の褒め方では利目がなくなつたり、その外いろいろの弊害も伴ふものである。

先づ一番注意せねばからぬのは、たつた一つの値打のものを、十倍にして褒めるやうな癖をつけないうことであ

る。こんな習慣がつくと、普通に褒められるだけでは満足出来なくなり、その不満を他に充たさうとして自分の事を大袈裟に吹聴し、所謂大風呂敷を捲けて喜ぶやうなことになる。そのみでなく學校へ上る頃になつて、學校では家庭のやうに、一のものを十にしてまで褒めてくれないから、急に淋しい人になつてしまふのだが、そんな人では後日社會に立つたとき、苦難を乗り越えることは出来ないであらう。

また褒めるにしても、精神的に褒めることを主としなくてはならぬ。褒めるときには同時に褒美の品を興へるやうな習慣をつけると、何かもらはなくては満足出来なくなつて意地悪な人間となるものである。

昔から「馬鹿と鉄は使ひやう」といふ言葉があるが、馬鹿でなくとも人間は扱ひやうによつて、善くもなれば悪くもなる。子供でも馬鹿者扱ひにすると、本當に馬鹿になつてしまふものである。

或る家庭ではお祖父さんが、長男よりも次男の孫を可愛がつて「お前はお兄さんよりも能くいふことを聞け、兄さんより偉い人間になるよ」と、始終弟の方ばかり褒めてゐた。實際をいふと長男も次男も、その性質も能力も甲乙はないのだが、お祖父さん、長幼の序を誤つて、弟のみを偏愛したために、弟の方は得意になつて兄を馬鹿にし、自分だけ偉いと自惚れたため、兄の方は家庭では意氣地なしの、馬鹿な子供のやうになつてしまつた。

實際において弟は兄に勝つてゐても、これを褒めるに當つては、

「お前も兄さんに似て、利巧になつた」といふ風に、上の者の顔を潰さないやうに注意しないと始末が悪くなる

ものである。大きくなつて兄弟が仲違ひをする者について考へると、子供のときにおける養ひ方を、親達が誤つてゐたのが原因となつてゐる例は少なくないやうである。

實際自分だけが養はれてゐるといふ誤りにすると、その人間を小さいものにしてしまふ。その結果として人が自分を養めないで、他人を養めてゐるのを聞くと、妙に嫉妬を感じるやうに成り勝ちなものだから、友達が善いことをした場合は、子供の前でその友達を養めて聞かせるやうにすることだ。自分だけいゝ子になると、兎角人のことを貶すこととなり、人から質問されても教へてやらない様な意地の悪い人間となつてしまふものである。

第四節 童話は熱意をこめて

知識慾の盛んな子供は、例外なしにお話を聞くことを好むものである。實際問題としても、子供にお話を聞かせることは、知識を豊かにすると共に、道徳的情操を養ふ上からも必要なことである。従つて話を聞かせる上にも、一通りの注意が必要となつて来る譯である。

家庭で話を聞かせる子供といへば、普通四歳前後から小学校へ入るまでの幼稚園時代で、それを養育する者は主として母親だが、材料については特に幼児のために書かれた昔の物が澤山あるから、それから適當と思ふのを取つたものと、新しく創作したものがある。

是等のものゝ中上手に書かれた童話ならば、どれを採用してもよい譯だが、話十冊に一度母親が読んで見てそ

れを獲らず自分のものとし、單純に道徳的に誦すといふことが大切だ。つまり誇々しい叙述をやめて、筋を明快に運んで行くことである。小さな子供は生活経験が浅いから、情操や修飾を加へては不適當なものとなつて終ふのである。

話の表現は道徳的に行くべきだ。野話も多くした筋を選ぶことである。落語などは對話だけで筋を運んで行くが小さい子供にはあのやり方がよいのだ。いよ／＼お話するに當つては何より熱を持つといふことが大切である。話十人自身がその話に熱を持ち、興味を持つてやらなければ、聞く方でも興味を覺えないのである。

こんな話は一両面白くないが、子供にはこんなところでもいゝだらうといつた氣持で話したのでは、話の効果はあがるものでない。桃太郎の話をするのだつたら、自分が桃太郎と一しよに、鬼ヶ島へ出かけて行くだけの熱を持たなくては駄目だ。

話の効果については之によつて、教養を興へるのが目的だといふ風に見えるものが非常に多い。特にこれは教育家以外の人達に多く見る意見だが、本當の目的は決して、そんな小さい道徳的なものではなく、子供の知識感情を豊富にし、同時この道徳的情操を養ふ點にあるのだから、これを充分に置いてかゝらねばならぬ。

第五節 玩具の選び方と興へ方

子供の發育に應じて、何ヶ月目には何の玩具を興へねばならぬなどと考へる必要はないが、大體の順序として

最初に赤坊の要求するものは感情である。物を取る前や置く前に先づお乳をのみ、乳房をつまみ、こゝから出されて、手に觸れるものを口へ持つて行くことを覚えるのである。

その頃になつて、お乳を飲むまでの時間が淋しからうと、おしやぶりを與へるが、これはいつも口を動かさねばゐられないといふ食ひしんばうの訓練をつけるから、始終は與へぬ方がよいのである。



例一の具玩く間に耳見に目

何んでも口へ持つて行く頃の玩具は、常に清潔に洗つて與へられるもの、軽いものがよく、複雑な色や形のものはいけない。極めて簡単なガラ／＼などが一番よいのである。

口と手によつて物を覺えたら、次には目で物を見、耳で音を聴いて遊ぶやうになるが、こゝまで進めると色の物を好むから、先づ赤一色のもので単純なキュービーや立方体などの、

極めて原始的な形のものを用ゐるのである。音のするものは流るべく音響的な、奇麗な音のものがよい。また寝てゐる時められるものは正面に吊すべきだ。横目に見るやうにすると、目が疲れて結果がよくないのである。牛後一ヶ年牛ぐらゐから犬、猫、兎などの動物や、人形などの置くみ物を遊ぶものであるが、この頃の子供になると、もう無闇に物を口へ持つて行くやうなことはなく、知識も目立つて發達して来るから、玩具について犬や猫の名稱や性質などを、童話や繪本などと、聯絡して教へるのがよい。

四五歳ぐらゐから大きくなるに従ひ、女の子は人形を持つて遊ぶだけでは満足しない。着物をさせたり帯をしめたりなどし始めるから、端切を利用して季節に適した着物を作り、時々着せ替へてやるやうにすれば興味を覺えるものである。

この頃から男女の區別が少しづつついて来る。女の子は母親の類似をして洗濯をしたり、炊事をやつたり、お使ひに行つたりなど、いろ／＼なまゝごと遊びをするに従ひ、これに要する玩具なども洋山必要となつて来る。だが、さうした物は特に買はなくとも、有合せの物で間に合はす工夫をさせた方がよいのである。

玩具は一時に多くを與へるのは宜しくない。一つの物を飽きるまで持たせた上で、次の物を與へるやうにしないと、飽きつばい癖がついたり、費澤を覺えたりして、その結果は女の子なれば虚榮心の強い浮氣者、男の子ならば意志の強い放蕩息子とならぬとも限らないのである。

子供も五六歳になると、自分で玩具を作ることに興味を持つて来る。男の子は父親が大しに就つてある大工道具を持出して、氣が向くと平日でも何か拵らへてゐるし、女の子はまた母親が裁縫をする傍で、練や布を無駄に費ひしながらまめ／＼しく縫くが、これらは止めてはいけない。適當に指導してこの創作欲を、發達せしめるやう工夫しなくてはならぬ。

遊ぶ前には玩具は與へない方がよい。大人が芝居や映画を見たと同じやうな刺戟を受けて、安眠に害を與へるものである。

「亞米利加で例の五つ児を育てたダフォー博士は、生後六ヶ月は一個の玩具をも興へなかつた。この頃の子供は玩具は興へなくとも、手足や口を動かすだけで、運動は十分だといふ理由からだ。六ヶ月経つてから、軽い色のついたガラ／＼を一つ興へ、それがよく／＼働きたところで、別なものを興へるといふことにした。種々な色のついた物や、澤山の玩具を興へると、赤坊を刺戟してよくないからである。」

第六節 嘔を吐く子供の扱ひ方

子供の嘔で一番困るのは嘔を吐くことゝである。この二つは人間でいへば夫婦か兄弟のやうなもので、嘔を吐く子には大なり小なり嘔病があり、嘔病のある子は當然嘔を吐くと嘔病のきまつたものだ。それで昔から、「嘔は親類のはじめ」などいつてゐる譯である。

子供が嘔を吐いた場合どうしてよいかといへば、先づ本気で嘔るより手はないやうだ。尤も子供が嘔を吐くには、其處に何か原因があるに違ひないのだから、何が故に嘔を吐くのか、嘔る前にそれを考へて見る必要がある。物心ついた子供に對して、誰か嘔を教へはしないか、二三歳くらゐの子供を抱いてゐると、よく嘔をつかんだり鼻をつまんだりするものだが、かういふとき「そんなに鼻を挿んだら鼻が無くなるよ」といつて、嘔つたとすれば、それは正しく嘔を教へたことになるのだ。その外現存しないお化や幽霊が出ると思かして嘔つたり、雷が嘔を取つて行くといつて嘔つたり、本公に出す氣でもないのに、本公に出してしまふといつたり、考へて見れば

家庭の子供は、嘔の中で育てられてゐるやうな状態であつて見れば、子供が嘔を吐くのは當り前で、嘔を吐かないのは寧ろ不思議な位である。

子供に嘔をいはずまいとすれば、先づ子供に對しては、大人は嘔病に嘔をいはずにせねばならぬ。嘔病の口から何の氣もなく不用意に嘔す一言が、子供の精神界に響きつけられて、其處に恐ろしい嘔の芽を出すのである。

また家庭が餘り嚴格すぎるのも、子供に嘔病として、自然に嘔を創作せしめる原因となる場合が多い。嘔へば時間を非常に入差しくいふ家庭の子供が、學校の歸りなどに友達の家で遊んで歸つたとすれば、遊んでゐる間は夢中だが、自分の家が近くなるに従ひ、途中で嘔草を食つてゐたことを嘔られるだらうとの恐怖心を起すだらうが、その結果嘔られずに済むやうに、先生の言付けで學校に歸り、何かの豫備でもしてゐたやうに、その場を取り繕ふことにならぬとも限らない。さうしてこれが一度成功すると、嘔を繰り返すことによつて、こゝに一つの嘔を吐くといふ、悪い習慣がついてしまふのである。

ルーズで嘔を吐いても、放つて置くやうでは、嘔を嘔病と思ふ觀念が薄減し、平気で嘔をいふやうになるから困るが、さらばといつて、餘り嚴格に過ぎるのも、已むなく子供に嘔を吐かせる原因を作るといふことを、親達は常に念頭に置かなくてはならぬ。

然しいくら親の方で心掛けてゐても、何かの機みで子供は、悪意なしに嘔をいひたがるものである。かゝる場

合衆から怒鳴りつけたところで何んにもならないし、生やさしい叱り方でも駄目である。子供の良心に訴へて、深刻にこたへる叱り方をせねばならない。それには親の責任を、子供自身に負はせるやうな叱り方をするのである。例へば

「そんな嘘をいふと、お父さんもお母さんも、明日から最う構ひませんよ、お父さんやお母さんだけでなく、あなたのお友達も皆嘘吐きは嫌ひだから、あなたが嘘を吐いたことを知つたらもう遊んで呉れないでせう。こんど嘘を吐いたら、あなたの好きなお人形も電車も、嘘を吐かない子供にやつてしまふかも知れないから、能く覚えて置いて覚えておきなさい。」

力と情の籠つた言葉で、かういふ風に叱られたならば、子供は何と感ずるであらうか、世界中で一番好きな親を失ひ、お友達を失ひ、玩具まで失ふことになると思へば、嘘ほど恐ろしいものはないと考へるに違ひない。嘘に對する叱り方は、こゝまで深刻でなくては利目的なものである。

然し素人自身において、既に嘘を吐いたことを悔悟してゐる状の見えたときは、その上の小言は蛇足である。寧ろ親切にだめ、それと同時に「違つて改むるに憚る勿れ」式の教訓を與へて、勵ましてやるべきである。

また悪いといふ自覺なしに吐いた嘘に對しては、餘り厳重な、あまり深刻な叱り方は感心出来ない。一度は許し將來を戒める程度で、軽く叱つて置くのがよい。「嘘言その宜しきを得よ」といふ言葉があるが、その割合は四分六分、四分位で子供に臨むのが最も適當な態度だから、何れかといへばより多く優しくし、吃るとか責める

とかいふことは、その分量を少くせねばならぬ。嘘を吐いたからといつて、いつまでもそれを責めてゐては、子供の性格を亂ませる位のもので、何の教訓もないのである。

第七節 盗癖のある子供の矯正法

物を盗むのは内面的な性格か、環境の悪い子供に多いやうだ。そこで盗癖を治めやうとするには、先づ何がために内面になつたのか、何が原因で環境が悪いのか、その根本から研究して正して行かなくてはならない。原因も極べないで、盗みをしたからといつて叱りつけるだけでは、却つて子供の反抗心を起さしめるのみで、盗癖の矯正には寸毫の効果もないのである。

西洋のある心理學者は「子供の盗みは家庭の愛が足りないからだ。盗みは愛の代償である」といつてゐる。子供が自分の家のものゝみでなく、他家の物まで盗んで来るやうになれば、盗心は餘程強くなつてゐるものと見ななくてはならぬが、盗みの順序は先づ父母のものから盗りはじめ、それが進んで他人のものに及ぶものだ。何が故に親の物に手をつけるかといへば「親のお金を盗むことは、親の愛を盗み出すことである」と心理學者はいつてゐる。

子供は何よりも親の愛情が欲しいのだ。或る小学校で三年の男の子が、親の金を五十圓盗んで映画館へ行つたことが判つたので、愛持の教師が大層心配してその家庭を調べて見ると、物質的には何の不自由もない家庭だが

父親は既に死し、母親は外に出て働き、家は留守の女中一人で、いつも淋しい風が吹いてゐることが判つた愛情に飢えたこの男の子は、親の愛の代償として五十銭を盗み、それで駄賃を見に行つたのである。

中流以上の家庭で父母共に健在し、表面は非常に恵まれてゐながら、密に父母の留守を狙つて金を盗み出した子供があつた。密に盗んで見ると實子でありながら、何故か父親が子供に對して冷淡で、玩具一つ買つて與へたことさへないといふ事實がわかり、子供の愛の原因が判明した。これも愛の代償として金を盗んだ例である。或る學校では盗みをした子供を叱る代りに、金を與へてその愛を直した例がある。然かし斯ういふ場合はたとへるだけで直るものではない。子供をよく心理的に研究して、その本性を無視せぬやう、欲するものは與へて、愛むことの非を悟らしめ、愛情を以て正しい道に引戻すやうにせねばならぬ。それには母親だけの努力では駄目である。一度盗んだことを発見したならば、一家協力して直してやらねばならぬ。

その方法として物は一定の場所に置くこと、子供の持物を時々檢べること、物を隠した場合に特に注意すること、借りた物は必ず返す習慣をつけること、身体はいつも清潔に、服装は常にキチンとさせること、人と話すときは相手の顔を見て話すやうにせしめること、友達を持つてゐるものを欲しがるときは成るべく買つて與へることなど、まだこの外にも注意すべきことは色々あらうが、それを厳重に實行するやうにすれば、病的でない限りは直るものである。直らないのは親の方で根負けして、途中から不規律になつてしまふからである。かゝるまで注意しても盗みをした場合は、たとへて愛情を以て諄々と諭す道があるだけだ。「そんな者は家の子でないから、出て行け」などと叱ることは、特に愛のある子に對しては禁物である。愛に飢えた者は愛を與ふるこ

とによつてのみ、その病を治し得るのである。

第八節 物に飽き易い子供の躾き方

飽きっぽい子供は移氣が多くて落着かないから、今何かしてゐるかと思ふと、もう次のことを頭の中に考へてゐる。さうなると子供のことだから、今までのことは振向きもせず、次のことに手をつけたがるものだ。

赤坊のうちでもこんな子は、乳を飲んでゐても十分飲みきらぬうちに止めてしまひ、一寸進んでまた飲もうとするものである。かうした性質の子供をなすがまゝに放置して置くと、大人になつても落着いて仕事をせず、すぐ飽きてしまふから次から次へと、仕事を替へて行つて成功するものでない。

この性質は何から来るかといへば多くは遺傳だ。遺傳でなくても飽きっぽい人に育てられると、矢張りそれを習つて粘りのない子供になつてしまふものである。

然し飽きっぽいからといつて、必ずしも見棄てたものではない。注意して直してやりさへすれば、ずつと物事に熱心な氣の利いた子供になるし、一面からはまた非常に熱情家だから、やるときは一生懸命夢中になつて取りかかる。要はそれを水練せしめるやうに導いてやることが大切である。

それには何か持へるときには、これが出来上つたら何に使はれるかといふ興味を想像させることゝ、かうして

作ればこんな物が出るといふ出来上りを見せることだ。この結果を見せることによつて、やりかけて中途で止しては何の役にも立たないが、やり始めれば立派に役に立つといふ觀念を持たせることが出来、従つてその努力を永続せしめることとなるのである。

然しこれは初めから、嚴格にはいけない。最初のうちは五回に二回、四回に一回といふ風に着手したことを徐々に成し遂げしめるやうに導くことである。同時に何かやりかけて、外の物に氣を取らうとしたときは、今までしてゐた物を必ず片付けるやう習慣づけることが大切である。何かやりかけて中止し、後片づけもしないで放つて置くやうな子供に向ひ

「今お掃除をしたばかりに、もうこんなに散らかして、仕様のない子だね」などと氣短かに叱つたのでは何んにもならない。

「こんなに散らかして放つて置いて、若しこれで一つでもなくなつたら、もう飛行機は出来なくなるのだから、キチンと箱の中へしまつて置いて、それから遊びませうね」といつた親子で、綺麗に後片づけをさせることだ。かうして徐々に習慣づけて行けば、母親たちからも褒められることになり、それがまた子供の氣持を非常によくして、自動的に散らかしたものは片づけるやうになり、延いては一度やりかけたことは、必ずそれを成し遂げるやうにもなつて行くものである。

第九節 夜泣きする子供の直し方

夜のしづけさを破つて突然泣き出すやうな赤坊は、多くは神経性體質の子と思つて間違ひはないだらう。

この種の赤坊は、晝間無闇にあやしたり、覺え立ての騒音をさせたり、興奮させたり、著習器のソヤズを聞かせたり、其他神経に刺激を興へるやうなことは成るべく避けねばならぬ。

夜泣きとまでは行かないが、生れて間のない赤坊は、夜と晝とを間違へて夜中に泣き出し、抱き上げると温しくなることがあるが、かうしたときには晝間の睡眠時間を成るべく少くするか、夕方に風呂に入れて寝かすやうにすればよい。

また何處か悪いといふことなしに、毎晩定つた時間に泣き出すことがある。そのとき乳を飲ませても、おむつを取りかへても泣きやまなかつたら、それは我儘泣きといふやつであるから、放つて置けば自然に泣きやむものである。

子供の夜泣きを封するまじないだといつて、鬼の念佛を倒さまに貼つたりする愚は止めたがよい。少し注意して原因さへ取り除けば、晝夜中に家内中の安眠を破り、隣近所まで迷惑を及ぼすやうな事はなくなるのである。

第十節 泣癖のある子供の導き方

甘え癖の盛に取りつかれて泣く子は、物が欲しいといつては泣き、寒いといつては泣き、友達が遊んで呉れないといつてはメッをかき、何でも彼でも泣くことによつて解決をつけやうとするものである。

かういふ子をそのまま放つて置くと意氣地なしになり、大人になつても氣の短い、妙にメッ／＼した人間になつてしまふから、赤坊のうちには一家庭が／＼で直してやらなくてはならない。



泣き止む人老るけつを直す

甘えて泣く子はその子供の性質によつて同じといふ事には行かないが、泣き出してから「うるさい」とか「やかましい」とかいつて叱つたところで何にもならないし、さればといつて彼れ是れと、宥め憐れしても何の役にも立つものではない。黙つて放つて置けば、泣いても何にもならぬといふことが自分でわかるから、泣くだけ泣いて泣きやむものだ。強ひて泣き止めさせ

やうと思ふなら、泣く時を越して少し静かになつたとき、「泣き止めたら愛んで上げませうね」などといつてやれば、その愛情が子供に通じて、機嫌を直すこともあるのである。

「そんなに泣くと子取りが取りに来るよ」とか「いつまでもそんなに泣いてゐるのだ」などといふと、子供は妙に淋しがつて、一層勇力をかけて泣き続けるものである。同じ叱るにしても、泣くのは悪いことだから止めやう

止めたら可愛がつて貰へる」といふ希望を持たせることが大切である。

大體家族の多い家では、一人が叱ると他の者が宥めるといふ風になり勢のだが、こんな場合は優しく宥める人の膝の上へ行つて泣くものである。

子供にこの癖がつくと大きくなつても人の顔色ばかり窺ひ、機嫌よく遊んで呉れる人に甘え、機嫌のわるい人は本當に自分のために遊んで呉れる人でも、これを嫌ふやうな人間になるのみでなく、自分もまた人に頼る人間になるかも知れないのである。

母親でも父親でも、一人が叱つて相手にしないときには、家族全體が協力して相手にしないことだ。さうすればだん／＼甘えて泣かなくなる。また泣き止んだら菓子や上げやうなどいつて宥めるのも間違つてゐる。そんなことすると泣き癖の上に、もう一つ貰ひ癖がついて人間が卑しくなつてしまふことは誤合である。

第七編 生殖器の巻

第一章 男子生殖器

第一節 神聖視された男子の性器

昔は性器を神聖なものとして崇拝する風習があつたが、中でも男性の中の男性ともいふべき陰茎は特に崇拝された見え、その遺跡が各地に存在してゐる。東京に近いものでは千葉県印旛郡根郷村の太田にある権現様もその一つだ。

今から何年程前の話か、ハツカリしないが、この根郷村字太田に百姓新兵衛といふ篤信な男があつた。或る年、西國巡禮を志して故郷を出発し、無事に三十三ヶ所の霊場を巡り、最後に關野権現の参拜を済せ、國元さして歸る途中で草鞋へ豆粒ほどの小石がはさまつた。

初めは氣にも留めなかつたが、歩むに従つて足に響くので取つて捨てたが、不思議なことにはその小石が、固りて再び草鞋にはさまり、いくら捨てても離れない、この奇蹟に驚いた新兵衛は、薄氣味わるく思ひながらも、何か譯があらうと、懐中にをさめて持つて歸り、神懸へ上げて置いた。

二三年は忘れてゐたが、或日この小石のことを思ひ出したので、神懸から取りおろして見ると、豆粒大であつた筈の小石が自然に大きくなつてゐたので、これは如何にと驚きながら前で見ると、何とそれが大ききも形も別個そのまゝだ。あまりの不思議に新兵衛は脚を潰しながらも、大方権現様の御神體が乗り移つたものであらうと、それから一家大騒ぎで屋敷の中に小さな祠を建て、こゝへ安置して懇ろに祀つてゐるうち、新兵衛夫婦の中に次から次へと子供が生まれ、然かもその子供達が皆丈夫に育ち、家業も次第に盛かになつて来た。

このことを聞き傳へた村人の間に忽ちにして権現様の御利益であらうとの迷信が生じ、噂は噂を生んで近郷近在からも参詣者が殺到し、日々上る賽銭や寄進のために新兵衛は思はぬ利益を収め、社も段々改築擴張されて太田の権現様といふ社名までついでしまつた。

かうなると有難いことには、宣傳は人が勝手にしてくれる。婦人病にも利く、性病にも御利益がある。子のなき者には子を授け、懸する者には縁を結んでくれるなど、いつとはなく萬能の神様として祭り上げられ、押すなぐの大繁昌を來した。

この事がお上の耳に入ると、かゝる淫祠は良風美俗を害するといふので、勿體なくも御神體を取り出して滅茶滅茶に破壊した。すると神廟立ちどころに墜つて、そのことに拘はつた上役人は、或は急死し或は大怪我をするといふ珍事が出来したので、村人はいよ／＼権現様の御神威に恐れを抱き、碎かれた破片を拾ひ集めて祀ると、いつの間にかそれが元の御神體となつたばかりか、年々成長して遂には見上げるばかりの偉大なものとなつた。

これを聞いた人々の信仰はいよ／＼深まつたが、こんどはお上でも驚りを恐れて手を下さず、今に至り依然として焚かれてゐるといふ譯だ。

このやうに陰茎が硬直せられるに至つた理由は、尿に偉大なる性器であるといふことの外に、その形がいかに奇様な代物であるといふことも手傳つてゐるやうだ。従つてこれに類する奇習は今も各地に残つてゐる。或る地方で行はれる、結婚のある毎に若衆達が石で拵へた陽物に鞭をかけ、他家へ押しかけて御馳走を強要するなどもその一例である。

第二節 陰茎の構造と役目

陰茎は一個の圓柱體をなして、恥骨隆起の下部から前方股間に突き出てゐるが、その附根から上は少しく隆起し、この部分を陰阜と稱し表面に毛を持つてゐる。

陰茎と會陰との間に陰囊が皺襞として控へ、その内部に睾丸と附睾丸とが潜んでゐるのだが、さらに詳しく内部を覗いて見ると、精管、精管、射精管、尿道、コルベル氏腺などが、内生殖器として附屬してゐるのである。

先づ精管はといふと、睾丸と結合した附睾丸から出た一對の管で、精子輸入の重い役目を持つてゐるし、精管はこれも一對あつて、精管から送られた精子を保護する精液を貯へるところだ。

この精液を尿道へ射出するのが射精管で、これも一對の管からなつてゐるが、外に一對の尿道管からも、精子の排泄を扶ける一種の液が分泌されるのである。コルベル氏腺といふのは、尿道を滑らかにする液を分泌するところで、その發見者の名に因んでこの名稱がつけられたものである。

男性生殖器の断面



- | | | | | | | | | | | | | |
|---------|------|------|----------|------|------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|
| イ 包皮小囊 | ロ 尿道 | ハ 陰囊 | ニ 尿道 | ホ 包皮 | ヘ 陰囊 | ト 附睾丸の尾 | チ 陰囊の皮膚 | リ 陰囊の皮膚 | ル 附睾丸の頭部 | ヲ 尿道の頭部 | ワ 尿道の頭部 | カ 尿道の頭部 |
| コ 球海綿體筋 | ク 尿道 | コ 尿道 | レ コルベル氏腺 | ソ 尿道 | ツ 尿道 | チ 尿道 | リ 尿道 | ル 尿道 | ヲ 尿道 | ワ 尿道 | カ 尿道 | キ 尿道 |

さて男性中の男性ともいふべき根本の陰茎だが、これは一寸見てもわかる通り、先に行くほど細くなつて尿道をなしてゐて、取扱ひの便宜上これを根、體、頭の三部に區分してゐる。陰頭は謂ふところの龜頭で、全體海綿状の包皮を被り、先端に尿道口が開き、その後縁は龜頭冠と稱して圓く盛り上つて見える。快楽神経の最も多く分

布されてゐるのはこの部分だ。

陰道の後方は頸部といつて少しく狭く、特に凹んでゐる溝のところを冠狀溝と稱し、この部分から根部までの間が陰道である。

陰道の大小長短は人種によつて一様でなく、また同一人種間でも個人によつて多少の相違はあるが、世界中で一番偉大なのは黒人のそれで、平生時でも長さ十五センチはあるさうだ。そこへ行くと日本人のは甚だ貧弱で、普通は十センチ乃至十三センチの長さであり、太さは周囲十センチ前後といふのが相場である。

陰道の組織は殆ど海綿組織から成り、充血作用によつて硬直する、これが所謂勃起といふ現象で、局部的な勃起または、大腸からの精神作用によつても起り、この場合は何れも性感の誘起を伴ふのであるが、性感とは關係なしに、内臓に起因する刺激のためにも勃起する場合がある。たとへば朝醒されたとき勃起してゐるのは、その一例で、これなどは全然性感との關係なく、睡眠中における膀胱の充血により、反射的に硬直するのだから、小便を排出してその刺激を取り去れば、もとのまゝの湿しい状態に復歸する譯である。

性感に起因して硬直した陰道が、性交のときにおける重要な役割は、精液の射出といふ一役だ。これは性交とは必然的に起るものであると同時に、生殖の目的にはなくてはならぬ重要なもので、このとき精液は射精管によつて尿道に出で、女性の膣内に注がれるのである。

この男性の陰道と女性の陰道とは、その組織から見ても尿道、膀胱、海綿體、包皮、包皮囊など全然同じだが

優生學的に見ても、陰道は陰道を縮小したやうなものである。強ひて兩者の相違な點をいふならば、陰道には尿道が貫通してゐるに反し、女性の生殖器は、陰道と尿道とが別々になつてゐることだ。

大體女性の生殖器は、男性のそれに比較して總て豊饒で、性交と生殖は、尿尿は尿道口、快感を興へるものは陰道といつた工合に、それ／＼の専門に分れてゐるが、男子の方は性交も生殖も尿尿も、一切合切陰道で済ませてしまふから、便利といへば便利だが、考へやうによつては、味も臭も一儲にした感がないでもない。

第三節 神秘的な精子製造工場

陰道は昔から神として崇められる程尊いものであり、男子に取つても女子に取つても必要缺くべからざるものであるが、本當をいふと男子をして男子たらしめるものは、眞手に見える陰道よりも却つて目立たない睾丸であるのだ。それは生殖作用に缺くべからざる精子が、この睾丸において製造されるからである。だから男らしくない男のことを「睾丸のないやうな奴だ」ともいふのだ。

睾丸は誰でも知つてゐる如く左右に各一個づゝあつて、一個の大きさは平均して長さ四又は五センチ、幅は二又は二・五センチ、厚味は二五乃至三センチ、重量は約十五グラム位といふことになつてゐる。構造は睾丸白膜、睾丸小葉、細精管の三部からなつてゐるが、中でも細精管が精子の製造工場として、重要な地位を占めてゐるのである。

睾丸白膜は結締組織の繊維で、その中に白色な睾丸が覆されてゐるが、白膜の内面にも睾丸膜筋と稱する一層の膜があつて、睾丸中隔と連絡し、その外面は陰囊皮膚で覆はれてゐる。睾丸の營養を営むものはこの白膜と血管だ。

男性がまだ母の胎内にある間は、睾丸は脊柱の兩側にあり腹膜に覆はれてゐるが、降嚢嚢と稱する嚢によつて次第に陰囊内へ下つて來るのである。ところが鳥類などは、この睾丸の引越しが行はれないから、何れも睾丸は脊柱に喰付いたまゝであるし、人間にしても中には睾丸の降下しない者もあり、また一個しか下りて來ない者もあるのだから、必ずしも鳥類を笑ふ譯にも行かないのである。

精子は細精管内といふ神経な工場で製造されるが、この管は睾丸小葉の中に入り、管腔に精液細胞及び支柱細胞を持つてゐる。それでは睾丸の實質は何ものかといへば即ち睾丸小葉で、これは睾丸中隔によつて圓錐形の、百乃至三百くらゐの小區域に區分されてゐるのだ。

睾丸が精嚢によつて癒合し、さらに新しい多くの小管となつて睾丸の後上端に移り、一見して睾丸の精子のやうになつた部分が副睾丸である。細精管で製造された精液は、細精管によつて精嚢に送られるが、この眞空管の役目を持つ細精管は副睾丸の尾端から起し、陰囊内に昇つて陰囊の根の兩側の皮下を通過し、尿道管を通過して尿道に入り、尿道の頂上から、その側面を下り、最後に尿道の膀胱部開口してゐるのである。陰囊は以上睾丸、副睾丸、細精管の三種を包んでゐる皮膚の一物で、會陰部から股間に向ひ軟氣さうにブツブツ

つてゐる。外面は粘膜性の表皮で暗褐色を呈し、若者のそれでも皺だらけに見えるが、内面は腹筋及び腹膜の一部から成り、尿に睾丸を包んで居るだけではなく、性交の際に陰囊膜を以て睾丸を括約し、射精力を強めるといふ内臓も持つてゐるのである。

第四節 精液に合流する二液

精液は精液細胞の働きによつて製造され、男性の青春發期から老年に至るまで絶えず睾丸内に存し、性交及び手淫などにより體外に排出される。帶黄頭白色透明の半流動體で、一種特有な臭氣を持つてゐる。成分は九十パーセントの水分、六パーセントの粘液質、一パーセントのツヂウム、三パーセントの磷酸石灰だが、この外に攝護腺液やコーベル氏腺液をも混じり、味は少しく鹹味を帯び、アルカリ性反應を呈し、一回の排出量は約五瓦である。

人間の卵であるところの精子は、この精液の中に住んでゐるのだが、育てば六尺程の大男にもなる精子も、精液の中にある間は、全長僅か〇・〇五ミリといふツツボケなものだから、肉眼では到底見ることは出来ない。それであるながら形は甚だぐで、先づ手近いところで譬へるなら、お玉杓子を小さくしたものと思へば大差はない。たゞ違ふところは、お玉杓子は水中を自由自在に游泳するに引きかへ、射出後の精子は、まっしぐらに子宮に向つて突進するだけで、別段他の運動はしない。

精液の一次的貯蔵所となる精嚢は、輸卵管に連絡して膀胱と直腸との間に横はつてゐるが、こゝへは精液の外に尿道腺液と、コリーベル氏腺液とが流れ込んで来るのだ。

尿道腺液を分泌するところの尿道腺は、膀胱の下にあつて、その膀胱の尖端から尿道に移らうとするところを取り囲み、栗の實を倒さまにしたやうな格好をしてゐる。内部は海綿状で繊維膜、筋膜及び腺質から成り、透明にして粘りのある液を分泌し、精液に特有の臭氣を興へると共に、性交に際しては射精を助け、精子の活動を敏活ならしめる役目を勤めるのである。

コリーベル氏腺は陰茎の附根のところにある尿道球部の後方に位置を占め、尿道三角状帯の兩端間に介在する。黄赤色の葡萄膜で、前尿道に多くある小粘液腺と共に、性の興奮によつてアルカリ性の滑らかな液を分泌するのだ。この液は龜頭を滑らかにするのみでなく、酸性反應のある尿によつて汚されてゐる尿道を、自體のアルカリ性反應によつて中和し、精液の通行を容易ならしめる作用を持つてゐるのである。

第五節 患部の種となる男子生殖器異常

陰嚢腫小 男性の生殖器が發育不全な場合、その陰嚢が大人になつても子供のやうに矮小なものがある。これには色々の原因があるが、先天的なものでは陰部の畸形、包皮癒着、腫瘍などのために、發育を障害されることになるのだが、陰部の畸形によるものの中には、尿道下裂症と稱する異常なものさへあるのだ。

この患者になると、一見して男か女かわからない。本来は男である筈だが、肝腎な物が畸形のため變形して妙な形をしてゐる。然しいくら観察してゐても、男子である以上は、尿道が陰嚢を貫通してゐるから、小便は尖端から出さねばならぬ筈であるが、稀れには小さく出づつてゐる物の下に別に穴があつて、そこから小便の出るといふやうな、同じ畸形にしても急の入つたのがある。かういふになると一層、男か女の判別がつきがたい譯である。

後天的發育不全の原因には、幼年中梅毒や耳下腺炎等にかかり、その經過中に睾丸炎を發した結果、發育の障害を來すものが多い。これ以外では思春期以前に生殖器を濫用したもの、睾丸の打傷、手淫、色慾の過度及び重傷なども、その原因となつてゐるが、中でも青年期の手淫は陰嚢の發育を著しく害し、結婚してから不都合なことが起るものだ。色慾旺盛のため房事過度といふことになる、陰嚢を損傷するから短小となるのは、常識から考へても首肯されるが、久しい間禁慾して一切男性に接しない場合も、陰嚢が自然に衰へて小さくなるのである。

陰嚢腫大 これは性慾とは没交渉に、陰嚢が不自然に不隨意的に、つまり何んの的もなく、無端に膨起する病氣で、陰嚢を置いて起るものと、長い間絶えず膨起してゐるものがあり、また膨起に一種の快感を伴ふものと、膨起に苦痛を感じるものがあるが、多くは長く膨起して苦痛を伴ふのが普通だ。

陰嚢の醫師アラウエーが、千九百四年四月發行の醫學雜誌に發表した患者などは、十六日間腫直しつづけた。

最初の日には閉止してゐたので氣にも留めなかつたが、翌日になつても起ちつてゐるので腹臥し、それから色々の手段を盡したが何うしても納らない。益々うろたへて十六日に醫者に見せた結果、陰莖強直症と診断し、陰莖の皮下を切開し、その充血を取り除いてヤット元の通りに納めることが出来た。これが陰莖強直の世界記録だ。

陰莖強直 陰莖の疾患には、もう一つ陰莖強直といふ厄介なものがある。これには先天的のものと後天的のものとがあつて、先天的のものには陰莖と陰囊とが全く缺けたものと、陰莖は普通の人の如く育いてゐながら、陰莖が缺如したものとがある。

後天的のものでは外傷、下疳などが原因となつて、男子の象徴たるあたら一物を失ひ、生れもつかぬ不具者となるのである。

包莖 これは俗に皮被りといふ不潔なやつで、普通ならば大人になれば、陰莖の尖端を露出する皮が退却して、龜頭が露出する筈であるに拘らず、その包皮が退却しないため、大きくなつても子供のときのやうに皮を被り、龜頭が露出しない病氣だが、これにも真正包莖と假性包莖との二種がある。

假性の方は平生は龜頭は露出してゐるが、いざといふ場合は適當に露出する。要するに普通より皮が長すぎるからのもので、病的現象として露出するには及ばない。

真正の方はこれと反対に平生は勿論のこと、いざといふ場合でも斷乎として露出を取り、失禮をも省み

ず露を包んだまゝ、他人の家へ侵入するが如き状態に及ぶのである。之は包皮の開口が狭すぎるため、露を取り取らうにも取れないのである。その結果はどうなるかといふと、先づ感受性が鈍いから十分快感を味ふことは出来ないし、それに不潔であるから性病が傳染し易いのである。純然たる病的な現象だから、必ず手術手術を受ける必要があるのだ。

睾丸缺如 これは讀んで字の如く、男子の根本たる睾丸の無い病氣だ。原因については先天的のものと後天的のものがあるが、先天的に生れながらにして睾丸がないなどは稀なことで、多くは病氣其他のため睾丸を剥出したものである。

大體性慾は性ホルモンの内分泌によつて起るものだが、その内分泌は睾丸の間細胞によつて行はれるのだから、去勢すればホルモンの内分泌に障害を來す結果、性慾の發動がなくなるのみでなく、男性的性質さへ失つて、男でありながら妻や恰好までが女らしくなり、遂には男が男に戀するやうな、戀態現象さへ起すやうになるのである。

睾丸の發育異常 睾丸の異常には優小、過大、萎縮等がある。發育の遅い人は生殖器の發育も遅れるのが普通だが、他に特別な病氣のない限り、普通より少々遅れてもいつかは普通のものになるから心配する必要はない。早く少年時代には風呂などで、自分の物と他人の物とを横目でチヤリと比較して見て、もし小さいと非常に氣に病むものだが、こんなことは決して氣にしなくてもよいのである。

普通の人より大き過ぎる場合も、それが陰囊腫、陰囊ヘルニア、睾丸炎などの病氣のためでなく、他の腫瘍も睾丸に増じて大きいならば、一切心腹無用だ。また睾丸は事實上熱然と有りながら、一つしか無いやうに見えたり、全く無いやうに見える場合がある。これが睾丸腫瘍といふ異常現象なのである。

何うしてこんなことになるかといふと、誘導管が短いから、睾丸が腹腔内に残り、當然引越すべき陰囊へ、引越すことが出来ない結果である。だからこれも取に結構がわるいといふだけのことで、心配するには當らぬのである。

大體睾丸は胎児の時代は腹腔内に住んでゐたのだから、それが誘導管により人並に陰囊へ引越して来た後も非常に物に驚いたりする場合、俗に「睾丸が箱み上る」といつて、一時元の古巣の腹腔内へ逃げ込み、隅の方に小さくなつてゐるもので、このときの状態は睾丸腫瘍と少しも變りはないのだ。

陰囊皮膚腫 これは陰囊が無闇に大きくなるばかりで無く、その上非常に固くなつてまるで象皮のやうになるから、この名がつけられたもので、西印度諸島中のバルベドリス島に多い病氣だ。原因はマラリヤ菌であるといはれてゐるが、これは確かな説ではない。我國では肥前島原の人でこの病氣にかゝり、陰囊の周囲四尺八寸、腰二尺、重さ八貫に及んだものが最大の記録であるが、西洋には陰囊の重量十二貫六百匁に達したものがあつた。これでは例の八貫重も顔負けしたに相違ない。

第六節 男子の生殖器機能障害

早泄の害處 生殖器機能障害の原因は房事過度、淋疾との關係、全身の衰弱其他にも色々あるが、青年期における手淫がその原因の大部分を占めてゐるのだ。

先づ手淫常習者の生殖器を見ると、一種特有な形状をしてゐて、男子ならば龜頭が色澤沈滞のため黒くなり、陰帯は左にヒン曲り龜頭の先端が尖り、陰茎全體が固くなつてゐるし、女子ならば陰核が固くなつてゐる。

この外局部的に現はれるものには早洩、遺精、不感、粘液腫、陰萎などがあり、全身的にも種々の現象を呈するものだ。例へば眼は疲れ易くなるし、眼瞼はビク／＼するし、耳は鳴り眩暈はするし、動作もする、記憶力が衰へ、言葉は思ふやうに出ず、考へはまとまらず、仕事に働き易く、動作も不活潑となるが、食慾は減じて便秘を起し、安眠は得られず、追々として行くなど、すべて手淫に原因する身體的症候である。

陰萎 陰萎は昔は腎虚といつて、物起が不可能になる病氣である。この病氣は生殖器機能障害中に一番多い。性慾があつても肝腎のものが役立たないから性交は望まれず、従つて子實も得られないのである。

これに一時性的のものと永久性的のものがあつて、一時性陰萎は精神上に非常に強い刺激を受けた場合とか、或ることに陥中して頭腦を震使するとか、肥弱者が最もいやな病氣にかゝつた場合などに起るから、これを精神性陰萎とも稱し、その原因さへ取り除けば容易に治すことが出来る。

永久性陰萎は陰萎及び早洩の異常原因となるもので、一に器質性陰萎と呼ばれてゐる。糖尿病、梅毒、結核、慢性疾患、脊髄病などによつて起る場合もあるが、酒、煙草、阿片、モルヒネ、砒素の中毒も亦この原因となるのだ。然し何といつても手淫と房事過度から来るものが大多数である。

性慾缺乏症 これは男よりも女に多く、主として陰萎患者に見る現象だ。原因はいろ／＼あるが、何といつても手淫が第一で、次は飲酒、子宮の病氣、精神病、神經病、精神過勞、房事過度なども原因となるものである。夫婦でありながら夫婦としての愛情が起らぬ場合は、當然性感の衰退となるが、これが昂進した場合も性感缺乏症になつてしまふのである。

夢 睡眠中に起ることを夢に見て精液を射出する病氣で、暫く懸念してゐるときに能く起るものである。回数が多いやうでは病的だが、月に二回乃至四回位までは、健康には異常なしと考へて差支はない。

遺精 睡眠中に起る夢を見ないに拘らず、自然に精液を漏らす病氣で、夢精が一步進むと遺精になるといふ説があるが、必ずしもさうとは決つてゐないやうだ。それは夢精の経験なくして、遺精を起す人のあることを見てもわかる。夢精は生理的の現象だから病的とはいへないが、遺精は勃起しないで精液を漏らし、その回数も多くて夢精には甚だしい疲勞を感じたり、頭痛がしたりするものだ。昂進すると睡眠中のみでなく寤寤をしたり、異常な談話を聞いたり小説などを讀んだり、婦人と話しをする際にも遺精することがある。この程度に達すると餘程重症で、やがて精液漏症になるのだ。

精液漏 これは至極厄介な病氣で、性に關することとは何の交渉もないときに於いてさへ、何か調べ物をしたり、非常に緊張したりする場合や、放尿のときなどに不意に精液の漏れ出るものである。重症になると精液、肉體兩方面の影響を受けて、體弱なく精液を漏らすやうになるが、普通夢精の五分の一は、この精液漏症を伴ふから、初期の中に治癒しなくてはならぬ。

早洩 完全に結合が行はれない中に、早くも精液を射出する病氣であるが、それにも色々程度があつて、どの位が早洩であるかを決定することは困難だ。何故かといふに性交に際し射精するまでの時間は、その人の年齢、體質、その場合などによつて一致してゐないからである。

然かし一般的には、相手に何等性快感を與へない中、既に早くも射精してしまふのは早洩と見て差支なく、甚しいのになると、まだ何もしない中に、精液を射出する強迫者さへあつて、こんなのは治療もなかく困難とされてゐる。

第二章 女子生殖器

第一節 人生の要池

由來人間といふ代物は、下らぬことは誰れ憚らず大きな聲で話し合ふが、事柄も肝腎な話になるとコソ／＼

と密談で用を辨する風がある。

「Sの親父が死んだときは、新聞紙の半分が、その記事で埋められた」

「へえ、彼奴の親父はそんな偉い人物だったのかい。一寸も知らなかつた。で、何病で死んだのだい」

「それが、旅客飛行機から、最初の墜落り自殺だったのさ」

「何だ、人を馬鹿にしやがる」

「アアハ、ハ、ハ」

こゝまでは天下御免の大層で話すが、それから段々話が進んで、肝腎の要件にふれると次第に聲が小さくなつて

「時に、此間の一件だが……」

「レ、誰が高い……實はそれについて色々考へた末、至極妙案を思ひついたのだ」

「妙案？ どんな妙案だね」

「誰は密なるを密ぶ……一寸耳を」

といふ風に、曾利利新左衛門が太田秀吉の耳を詰めるやうな假似をして、傍で誰も聞いてゐる者のない場合でも、至極用心ぶかくゴソ／＼と語り合ふものだ。

五體の事について、話し合ふ場合でも、胸より上とか、膝より下とかのことなら、男女とも普通の聲で喋るが事一度び胸より下のことになるとグツと聲をおとし四邊を恐れ寄りながら話す。殊に女性となると、何へ百軒長

屋の編みにしても、この人生の聖池のことは、公然と語ることを取つる風があるから不思議だ。

尤も生殖器に關することは、所謂秘談に附り附ちなもので、それを公然と語っては風紀を害する虞れがあつて其節でも注意をしてゐるから、遠慮するに越したことはないが、職業に於ては、人前としては是非とも一通りは心得て置かねばならぬ最も大切なことだから、こゝに職業上の立場から、この神秘なる聖池の常識を述べて見ることにする。尤も事柄が事柄だけに文章が固く固くしくなつて讀みづらいであらうが、暫くの御辛勞を願つて置く。

第二節 外生殖器の大観

外生殖器 女性の生殖器は外生殖器と、内生殖器とに分れてゐる。外生殖器には乳房と大陰唇とがあるが、この乳房を除く以外のものは、悉く胸の下に位置を占めてゐるのである。

先づ外生殖器からいふと、最初に目につくのは陰と陰との間に、女性特有の柔かい曲線を畫いた隆起で、これを陰部と稱し、その下方には大陰唇と稱する一對の厚い皺皺が、外面に粗毛を蒙つたまま開けてゐる。この大陰唇を開くと、これも一種の皺皺からなる小陰唇があり、その小陰唇の開口する孔を陰口といひ、陰口の上部で左右小陰唇の間には、やゝ三角形をした陰道といふ場所がある。

陰道底の中央に極めて小さい、尿道孔の小孔があり、その上部には陰核と稱する一個の小突起が鑷座してゐる

筋と稱する筋によつてキヤンを開き、陰道口の極めて僅かの部分しか見えないが、性交とか出産とかの場合には、その必要に応じて開口するものである。

處女や結婚して間のない女性にあつては、處女膜の弾力性や、筋肉束の收縮作用や、處女膜またはその残餘物等によつて、完全に孔の入口を閉ぢてゐるが、一度開通すると孔の入口は大きくなり、或はまた一部分が開けたままになつたりするものである。

尿道口 左右に開けられた小陰唇の間のやゝ深い部分を尿道口といひ、下方は陰唇帯を境とし、その下方に開口が開いてゐる。上方には小さな尿道口があり、その直ぐ下の左右には、小陰唇の縁に尿道口がある。

尿道口の周囲にある大陰唇の縁に尿道口は、醫學界でペルトリン氏線といつてゐる。この線の縁は、肉膜で見出し得ないが、その開口は尿道口の周囲の處女膜の外縁と、小陰唇の内面からなる環の間に、極めて小さな孔として存在するが、もし小陰唇があまり、下の方まで延びてゐない場合は、尿道口の處女膜の縁と大陰唇の裏面の間の狭いところに開口する。是等の大小陰唇は、性的興奮のある場合は、性交の準備として一種の臭気ある粘液を分泌して、尿道口を潤滑ならしめるのである。

陰道口 陰道口の中央に位置し、普通はやゝ隆起した部分の上に開口し、大きさや形状は各個人によつて相違があるが、極めて小さい孔であるため、無智な者はその存在に気づかず、屢は陰道から出るものゝやうに心得てゐる場合さへ珍らしくないのである。

陰核 陰核は恥骨結合に密着し、下方に彎曲してゐる腫状の器官で、その位置は小陰唇の上方結合の直上陰門内で、最も上方に位置する大陰唇結合の下端の中央である。普通左右兩陰唇の間に隆起し、その尖端には尿道口を有してゐる。

陰核は陰核包皮に包まれてゐるから、外観は低い隆起にしか見えない。成熟しない女性の陰核は、腫脹を帯びてゐる包皮が、容易に收縮して尿道口を露出する。尿道口の表面の直ぐ下に當つて、最も刺激の受ける部分には、非常に多くの神経末梢を有してゐる。

陰核は男子の陰茎に當り、動脈と同一の構造で、血液の流出を増し或は流出を妨げることにより、勃起する特性を持つてゐる。勃起した場合の陰核は硬直して、普通のとさの約一倍半に擴大するが、この陰核包皮が收縮して尿道口を露出するため、機械的刺激に対しては非常に鋭敏な感覚を持ち、陰核は僅かであるが強く刺激に敏感である。

陰唇皮膚 陰唇皮膚とその包皮の間、つまり陰唇皮膚の周囲に包皮小囊がある。この小囊の内部の膜の間にたまる粘液を陰唇皮膚と稱し、皮膚膜から分泌されるまかい脂肪で、数種の酸の化合物から構成されてゐる。

この陰唇皮膚を潤つたままに放置すると、特有な正常なる臭気は失せ、甚だ不愉快な臭氣を散放することになるのだ。この臭気は女性に對する男性の色情を減殺し、健康の念を起さしめるのみでなく、炎症刺激其他の異状を呈することさへあるから、婦人は常にこの部分を清潔にすることを忘れてはならぬ。

處女膜 處女膜は膣口の下部にある一種の膜で、上端は薄くしてやゝ弾力性に富んでゐるが、膣口に附着した部分には肉状をなし、人によつては一分位の厚味のあるものさへある。然し處女膜を以て全部膣口を塞いでゐるものではなく、塞がれた部分は膣口の半分乃至三分の一ほどで、月經時の經水などは、上部の膣戸から自由に排出されるのである。

處女膜には血管が通つてゐるから無理にこれを破ると出血する。結婚の初夜出血を見るのはこれがためであつて、決して破れずには子宮から出血するのではないから、少しも破れには當らない。處女膜は處女にのみ見るもので、一度男性に接した女性には見られないのが普通であるが、これにも例外があつて、烈しい運動其他、過激な興奮によつて、本來は處女でありながら無意識的に破れる場合もあり、また自發行爲によつて、意識的に破れることもあるから、處女膜の有無によつて必ずしも、處女であるか否かを判定することは早計といはねばならぬ。

また非常に強固な處女膜は、性交によつても破れずに残ることがあり、結婚後も尙ほ處女膜を持つ者さへある。破れだけは一般に結婚後も残るが、一度出血すると全然これが取除かれるのである。

第三節 内生殖器の機能

内生殖器の機能 女性の内生殖器は、直腸と膀胱とはさままれて骨盤の中に横はり、その中に子宮、輸卵管、

卵巣、陰などの諸器官が配されてゐる。

是等の内生殖器の後ろにある直腸は、大腸の下端肛門に接続する部分で、常に便袋といつてゐる。内部は可なり廣く、伸縮性に富む便を有してゐるから、相當大量の便をため置くことが出来る。然し常に直腸に多量の便をため置くこと、これが固い塊となつて肛門に痔疾を起し、腸後壁が壓迫される結果、痔瘻を起したり月經時において經路障礙を來すことがあるから、適宜に便を排出することが大切である。

膀胱は常に小便袋といつて小便をためるところであるが、さらばといつて正直に小便を一ぱいためたまま排出しないと、膀胱は球状となつてその頂部は恥骨結合を越え、前腹部の下方まで伸び、同時に隣接する生殖器を壓しつける結果、種々の病的現象を起し、時には子宮の位置を變化させることになるから、常に適度に小便を排出し、膀胱の筋肉を弛緩せしめて置かなくてはならぬ。

膀胱は尿道管によつて陰部に開口してゐるが、この尿道管は膀胱頭部の括約筋が弛んだときに初めて排尿作用を起すもので、陰部に開口してゐる尿道口そのものは、自動的に閉鎖する能力は持つてゐない。もし小便を久しく膀胱にためたまふ排出しないと、膀胱は過度に緊張して收縮力を失ひ、排泄作用が鈍くなつて完全に排尿することが出来なくなる結果、常に尿を残留して膀胱そのものに種々の障礙を起すのみでなく、陰部の清潔も保てなくなるのである。

膣の構造 膣は膣口から子宮に至る約十一センチばかりの通路で、内外、中の三つの層から成る。膣壁性に富んだ膣管の管であるが、管といつても常にゴム管の如く中空になつてゐるのではなく、粘性で内部はピンク色を呈し平生は袋の如くなり、強い粘液によつて湿はれてゐる。厚さは約四ミリしかないが非常に弾力性に富み、必要な場合にはその必要に応じて擴張されるから、出産のときなども決して破れたりすることなく、分娩後は元通り収縮することが出来る。然し出産の如く過度の膨脹をなした後は、膣壁はそのため弾力性を失はれる結果、袋は収縮しても元の状態にまで歸することは困難である。

膣は骨盤の輪と同じ方向に向つて走り、少しく前方に傾斜してゐるが、最下部だけ反対の後方に彎曲してくの字形をなしてゐる。この彎曲は膣口のすぐ上部で、膣を取り圍む膣括約筋のため、袋が締められる結果である。この筋は特に膣頸部を後方へ押へ付けてゐるが、更にもう一つその上部に膣頸筋といふ筋があつて、恥骨の内面から起り膣を取り圍み、膣頸部を膣上に引く作用をなしてゐる。

是等の筋は性交其他の場合重要な役割を演じ、主として膣を締める働きをなすが、多くの婦人や處女にあつては、その働きは比較的鈍いのが普通である。

膣の構造 膣は女性の性交器であるから、その構造もこれに適するやうに出来てゐる。膣口から三分の二ほどのところの前後兩壁には多くの横筋があるが、壁にもこれが隆起して一見数の子のやうな塊を呈してゐる。膣の奥の方は子宮頸部で、蓋を伏せた如き形をなし、その中央に小さな子宮口が開いてゐる。月経はこの孔

から排出し、粘液はまたこの孔から子宮内に進入するのである。子宮頸部を取り圍む膣の上部の行詰りはかなり狭く、膣頸部と稱して圓大非形をなして居る。膣のドン詰りに子宮口を開けてゐるやうに考へるのは間違ひで、實際はもう一つその奥に控へてゐるのである。従つて子宮頸部は袋の底に當るところが前後兩壁と後壁膣壁との二つに分かれ、性交時はその最も奥のところに、一時男性の性液が貯へられるところから、又の名を貯液ともいつてゐる。

この膣の彎曲した最奥部は、後上方で腹壁の巾着形に彎曲した部分と、概一重の袋で相括してゐるが、この巾着部をドリークス氏腔といひ、直腸と後壁膣壁との間に深く入り込んでゐるから、陰部と膣が調和しない場合に無理をすると、膣の最奥部が破裂または貫通し、膣内の細菌が直腸に侵入して腹膜炎を起すことになるのである。

膣の分泌と吸収作用 膣からは少しばかり乳液を含む液を分泌するが、もし膣内に危険な細菌や菌が侵入したときはこの液を以て駆退し、反対に有用な細菌はこれを駆退して種々の便宜を興へ、特に産褥熱の預防上には重要な役目を果すのである。膣壁はこの分泌作用の外に吸収作用を持つてゐる。

膣内に入つた化学的物質は、膣壁より吸収されて膣内に運ばれ、物質の性質によつて膿液または粘液などにより排出されるのである。膣内に射入された男子の精液は、その大部分は間もなく液出されるが、一部分は膣壁によつて膣内に吸収せられ、女性の健康上に重大な利益を興へるのである。

子宮の位置と形状 子宮は骨盤といはれる空洞の中央にあり、やや前向きとなつてゐるが、腸のやうな腸帯と稱する六本の肉でもつて恥骨、尾端、恥骨、膀胱、直腸などに前後左右から引付けてゐる。もう一つ詳しくいふと骨盤内の中央に子宮が位置し、その兩個の後方に二個の卵巢と輸卵管があり、この子宮を中心として兩個の輸卵管と腸帯とを骨盤腔が前後二つに分れ、直腸には膀胱と後腸には直腸が接してゐるから、いはゞ子宮は膀胱であるところの直腸と、小腸袋であるところの膀胱に挟まれた形である。

子宮の形状はこれを正面から見ると茄子の形をしてゐる。上方は廣くて下方は狭く、少しく彎曲したその凸部は後方に向つてゐる。上方の廣い部分を子宮底、子宮全體の上部約三分の二を子宮體、下部三分の一を子宮頸、頸の中へ頸を出した部分を子宮頸部といひ、この子宮頸部にある子宮口を経て、内部に通ずる空洞を子宮腔といつて居る。

子宮の大きさは普通長さ七センチ内外、直徑は上部で四センチ内外、下部で二・四センチ内外であるが、お産をした女性の子宮は普通より少しく大きく圓形をなしてゐる。これは臨月において直徑が二十四センチ内外にまで膨れた結果で、子宮がいくらか弾力性に富んでゐても、分娩後それを元通りに返すことが出来ないからである。

前に述べた如く子宮頸の下部三分の一は圓錐状をなし、頸の中に頸を出して子宮頸部といはれてゐるが、この部分は處女や未婚婦にあつては、ふつくらとして子宮外口が圓く、繊細な感じを興へるに反し、一度お産をした女性のものは大きく頑固になつて、子宮外口は破口狀の横裂を示し、この裂目から兩個に裂傷の痕が走つてゐる。

子宮の機能 子宮は非常に擴張し得る性質の筋肉から成り、内部は粘膜によつて覆はれ、外側は大部分腹膜によつて覆はれ子宮底、子宮體、子宮腔の各部分に分たれてゐるが、子宮底は前にも述べた如く上方の廣いところで少しく前方に傾き、上端の兩側から、左右の輸卵管（喇叭管）と通じ、下方は卵巢帯に接してゐる。この卵巢帯は子宮の内腔と僅かに接して卵巢を支持してゐる。

卵巢帯の下には子宮圓帯と稱し、圓い膠質な紐のやうなものが、各一本づゝあつて子宮體を固定せしめてゐる。子宮底から子宮頸までの部分が子宮體で、左右圓帯といふ一對の廣い膠帯がある。子宮頸は子宮體の下部に當り、その末端は腔内に頸を出してゐることは前にも述べた通りである。

子宮體や子宮頸の内腔は空洞で、子宮頸部は子宮腔から子宮體の内腔に通じ、この空洞を子宮腔といつてゐる。形は三角形を倒さまにしたやうで、その底邊は子宮底の壁と一致し、左右の輸卵管に通じてゐる。下方に向つて急に狭くなり、三角形の頂點に當る部分は、子宮の内腔内で最も狭い路をなすが、こゝが子宮體と子宮頸部との境界で、狭い路を子宮内腔といふのである。

子宮内腔は子宮頸部を経て、頸部の子宮外腔に通じ、子宮内腔と外腔との間を子宮管と稱し、何れも其だいたいが外腔に近いところだけがやゝ廣い。子宮腔は幼年の頃は極めて狭く、その周圍は殆ど相接し、子宮外腔も

閉鎖されてゐるが、妊娠初期に至ると次第に大きくなり、外腔も四字形を呈するのである。

子宮腔の内部は線に富む液を以て満たされてゐる。これが所謂子宮内液であつて、受精した卵が輸卵管によつて、菲なく子宮内に送り込まれると、内腔はこれを受け入れて出産するまで十ヶ月の間、最も大切な胎児の養育の役務を勤めることになるのであるが、もし受精卵が入つて来ないときは、大體四週間に毎日に胎液は大部分崩壊して排出される。この現象が即ち月經出血である。

内腔に増殖された胎膜が、月經となつて排出された後には、僅かに内腔の最下層だけが残つて一時は閉止の状態となり、やがて再びこれを増殖するが、四週間を経て胎膜の来ないときは、またもや月經となつて排出され、崩壊するまでは同様なことが繰返されるのである。

子宮筋肉 子宮の外腔と内腔との間は筋肉の層で、子宮體部のところを子宮實質と稱し、最も厚くなつてゐる。この子宮筋肉は非常に強大な力を持つてゐて、内腔によつて變はれた胎児が成熟するのを待ち、これを外へ押し出す作用をするのである。従つて胎盤中胎成分は著しく増大し、そのため普通は五十乃至七十グラムの子宮の全重量が、分娩直後は百二十グラムに増加される。

子宮實質の筋肉はこの外に、血管または神經の媒介によつて来る刺激に應じ、收縮する作用をもつてゐるがこれは分娩の際に最もよく見られる現象である。

子宮の血管 子宮底の下部、卵巣系帯に接した部分の兩側から、長さ十二、三センチばかりの一對の子宮動脈帯

が出て、腹腔に送られ卵管に向つて、大動脈の基底と恥骨とに達してゐる。次は子宮系帯で、これは子宮の後端で子宮體と子宮頸との境目から出て兩側に向ひ、腹腔の下でドーグラム氏腔と直腸を圍み、骨盤後壁に密着し、子宮の下部を後上方に引張る作用をなしてゐる。性交のとき子宮が餘り深く骨盤内へ押し下げられた場合、この系帯の作用によつて正常な位置にかへるのである。

子宮體の兩側面全體から出て、小骨盤の内側面に達してゐる廣い系帯は廣系帯で腹質から成り、闊系帯、卵巣系帯、輸卵管などを包み、主として子宮を固定せしめる役務をもつてゐる。この外にも附系帯といふのがあつて、廣系帯の基底子宮の頸部から、前後及び下方に向つて子宮を支へてゐる。このやうに多くの系帯によつて支へながらも、元來浮動性に富んだ子宮は時とすると正常の位置を失ひ、子宮後屈位などの厄介な異状を起すことがあるのである。

輸卵管 輸卵管は一名を喇叭管ともいひ子宮内へ卵子を送り込む役目を持つてゐる。長さ約十センチ程の曲りくねつた管で、子宮底の兩側から左右へ一本づつ出て、その兩端は喇叭狀に擴がつて、腹腔内に遊離してゐる。淡紅色を呈し幾は果配のやうに裂けてゐるから、一取開花した石竹の如く、この部分を前庭と稱されるが、これはそのまま腹腔に横いてゐるのではなく、腹腔内に遊離してゐるのだから、生殖器官の外口と腹腔とは、直接に交通してゐることが知られる譯である。

尤も實際は兩者の間に通路が開けてゐるのではないが、子宮腔内に液體が入ると、それが輸卵管を傳つて腹

腔に達する状態にあるから、もし腹腔の呼吸能力が異常に大きい場合は中流を起し、進んで腹腔炎の原因ともなるのである。

輸卵管はその内層を粘膜、外層を漿液膜にて覆はれてゐるが、内層の粘膜には表面に絨毛と稱する微細な毛を生じ、常に子宮の方向に向つて動いてゐる。この絨毛の運動と輸卵管自体の活動によつて、卵巣から入つて来た卵子は、徐々に子宮内に送り込まれるのである。

卵巣 卵巣は女性の生殖腺である卵子を製造するところで、こゝで製造された卵子と、男性の睾丸で製造された精子とが相合し、初めて人間創造といふ大事業が営まれるのであるから、もし女性より卵巣を取り除いたとしたら、これによつて女性としての資格は失はれるのである。

この卵巣は輸卵管と同じやうに、子宮の兩側に一個づゝあるが、場所は輸卵管の少し下後方になつてゐる。絨毛の種子程の大きさで平たい長圓形をなし、その一端は卵巣膜帯によつて子宮の後部に固がり、他の一端は輸卵管の腹面に接してゐる、その他は同直な長線により腹帯の背腹につながり、さらに他の腹帯をもつて骨盤に至つてゐる。卵巣がその位置を變へることはあつても、常に安定を保ち得るのは、是等の腹帯によつて支へられてゐるからである。

卵巣の内部には無数の細胞と稱する丸い小嚢があつて、其中に各一個づゝの極めて小さい卵を持つてゐる。幼年の頃は小さい線状をなし、内部にある細胞も殆ど同じ大きさであるが、就瓜期に達すると細胞の一つく

が發育をはじめ、形が大きくなると共に液體を含み、遂に豌豆ほどの大きさとなる。これを卵母細胞の名に因んでグラリア氏細胞といつてゐる。

グラリア氏細胞 グラリア氏細胞は成熟するに従ひ、卵巣の表面に近づいて嚢状に突き出るが、内部の液體が増加するに従つてその壓力は益々強くなり、同時に嚢の壁の厚さも非常に薄くなつて遂には破裂し、卵は液體と共に突き出されるのである。このとき液體は卵を押し流して進み、輸卵管の腹縁から輸卵管内へ吸ひ込まれるが、一方破裂した嚢はその残れた残骸から、黄色豌豆大の黄體を生ずる。

この黄體は内分泌作用をなし、子宮粘膜に影響する物質を分泌するが、いよく受精して絨膜が始まると、黄體はますます發育して約二ヶ月の間活動を続ける。反対に受精が行はれない場合は、短期間の活動で萎縮し、數日の間卵巣の表面に小さな皺を遺すだけである。

黄體は子宮粘膜を刺激せしめるのみでなく、乳腺を刺激する一方向に控へてゐる細胞の成長を促へ、先に出た卵子が受精しないと決定するまでは、これを出さしめないやうにしてゐる。

第八編 性病の巻

第一章 結婚前の心得

第一節 或る青年の打明け話

「貴下は性病がありながら結婚なさつたさうね、良人が性病を持つてゐての結婚生活は、随分危険とはお考へにならない？」

「そりや危険です、こいつは亡國病といはれる程の性質のよくないやつで、決して名譽な病氣ぢやないです。だが仕方ないでせうね。理想論は兎も角として、實際問題として三十位にもなる男で、純潔を保持する者は殆んど無いといつていいでせう。然かし貴女はこの純潔をどこで失ふとお思ひになります」

「さう仰有ればそれまでだけど、性病にお罹りでは第一御當人も苦しいでしやうし、そのため前途に光明を失ふやうなことは無くて？」

「さういふ人も有るでせうが、僕なんか病氣が傳染るまで遊びつゞけ、傳染つた途端に眞面目に返つて遊びを止めました」

「不思議ね、そして御結婚當時は矢張り御病氣だつたのですか？」

「さうです」

「随分驚ね、それで車様にお打明けになりました？」

「いや隨して置きました。精神的には随分苦しみましたけどね……」

「何うしてお隠しなさいまして」

「無斯な新妻を驚かしてはわるいと思つたからです」

「どうもハッキリ判まりせんわ、車様をお驚かせになるよりも、病氣をお傳染しになつた方が餘計にわるいじゃありませんか」

「だから精神的に苦んだのです。然し幸ひにも、妻には傳染りませんでした」

「何か方法を講ぜられたのですか？」

「随分研究しましたよ、具體的のことはいへませんが、兎も角妻は最初のうちは夢中だつたから、氣はつかなくつたです」

「何か器具でもお用ひになつて？」

「器具を使用すれば安心でせうが、あいつは餘程巧くやらんと失敗しますね、私は消毒といふ點に努力したですそれから自製をしましたね」

「自慰とおつしやるよ？」

「つまり警戒したのです」

「それでは夫婦が完全に一貫出来ないでせう」

「仕方ありません、何しろ一方は病気ですからね」

「では監視態勢だつたのですか」

「それ程ひどくは無かつたですよ、脚がデク／＼出てるやうでは、第一結婚なんか出来ませんからね。然かし性病といふやつは、丁度間接感染見た代物で、時によつて良いときと悪いときがあるですよ」

「アッさうでは、良いときと悪いときによつて、手加減なすつたのね」

「さうですよ、工合のよいときは妻に満足と興へてやり、悪いときは口實を設けて交渉を避けたんです」

「さういふ風だと、いつかは健康に感づかれるでせう」

「そりや何ですよ、いつか此度バレルときがあります、然しそのため結婚解消なんて厭な問題は起りませんね。暫く夫婦生活をすれば情が移つて、さう手廻に離れるものではありませんからね」

「それで健康がお感づきになつたとき、どうなさいました？」

「却つてさうなるといふかも知れないと思つてゐます。隠し立てがなくなるだけでも助かりますからね。そして妻もよく理解し、先方でも方法を考へるだらうし、治療にも力を貸して呉れるでせうからね」

「でも若いときには、その邊のことは無理むづかしいでせうね」

「難しいですよ、更にも先達などの話をよく聞いて研究することです、さうすれば何か一つ位の方法はあります」

「病氣そのものゝ性質では若いときと、中年や老年期に罹つたのでは、病勢に變りはないものでせうか」

「若いときほど猛烈で、年をとるに従つて温和しくなりますね、それに年を取れば本人も病氣に馴れて来ますから自然いろ／＼の方法も考へられます。一番警戒しなくてはならぬのは、まア三十歳前後でせうね」

「夫婦の交渉の上から見て、警戒は大切でせうが、何とか治す方法はないものでせうか」

「そいつは困難ですね、私もいろ／＼とやつて見たが駄目です。それで私は若いときには一度は誰しも遊ぶのだから、それは構はないが血氣に染らないで、豫防だけは完全にして貰ひたいと思つてゐるのです。豫防ならほんの一寸した注意で出来ませんが、正直のところ罹つたら悔めですよ。自分がその病者でありながら、こんなことをいつては生憎氣かも知れませんが……」

第二節 結婚出来ない病氣と缺陷

これは性病ではないが、性病同様結婚出来ない病氣や缺陷がある。尤も今日の醫學の力を以てすれば、醫治と稱する病氣は殆どなく、どんな病氣でも治療出来ることになつてゐるが、次に述べる病氣や病症のある者は

それが完全に治り切つて、醫者から大丈夫といふ言葉を授けられるまでは、辛抱しなさいと勧めたい。

僅か一月か二月の結婚の先を急いだため、長い一生を病弱のまま憂鬱に過したり、また結婚後の生理的、精神的變化の負擔のために、あたら天壽を完うしない例も少くないのだ。五十年六十年の長い生活から見れば、一年や二年待つたところで、それは自分達の結婚生活を、より健全なものとする礎石だと考へ、慎重に取扱つて貰ひたいのである。

結婚後 結婚後をはじめとして助産、腹膜などの病氣に罹つたものは、ムツカリ離り切つて醫師の診察を受けてからでなくてはいけない。結婚後も病氣が出る程度であつたら全治してから一年後、咯血などのあつた場合は全治後二年、助産も水の濁つてゐるやうなのはレントゲン検査をして、全治の證明をしてから二年後、腹膜も同様の期間を経過して後結婚すれば安全だ。

本人の考へとしては最早全快してゐるし、別に苦痛を感じることもなく、それに周囲の人々も結婚を急ぐため、そのまま結婚する者も少くないやうだ。ところがその當時こそ病氣そのものは治つてゐても、まだ後の回復が十分でないから、健康體のやうに無理が利かない。妊娠、出産、授乳などの大きい負擔に堪へ切れなくて、遂にまた悲しい再發となつたり、憎悪したり、以前よりズツと弱くなつて、折角愛兒を恵まれたながら、死期を早めてしまふやうな實例が甚だ多いのだ。

これもその一例だが、肺炎を病つた娘さんで、強生の結果微熱も取れ、ノキノキと健康も回復して、殆ど以前

前の健康状態になつたので、前から話のあつた義理が進み、もう二三月といふ注意に耳を貸さず、花婿になる人が地方に移轉する都合から、結婚式を挙げて共に任地へ出發した。ところがその赴任先が寒い北海道で、結婚二年後子供まで産まれたのにその寒い寒さの中に妊娠、出産といふ大役に堪へられなかつたのか、産後の風邪から結婚前の病氣が再發し今は漸しく良人や愛兒と別れて、暖かい海岸で療養生活をしてゐる人がある。どんな事情があつたところで、僅か二三月の辛抱さへしたら、こんな痛ましい結果はならなかつたであらう。永い生活を考へたならば、結婚性の場合は特に注意せねばならない。

子宮の發育不全 正常に月々見るべき月經が非常に不規則であつたり、その量が極めて少なかつたりする場合は子宮や卵巣の發育不全と、機能障礙の結果である。頭痛、眩暈、心悸亢進などの徴候があるとか、冷性で腰痛などを能く起すが、これは皆子宮の發育を支援する。卵巣ホルモンの缺乏によるものだから、ホルモン注射を受けてその發育を促す必要がある。それと同時に身體全部を健全にするやう、先づ食物に注意して營養のあるものを攝り、あまり激しい労働や運動を避け、氣水に忍耐強く手當をせねばならぬ。

形勢困難の人は、子宮の位置異常、機能障礙のためだが、機能の障礙はホルモン注射によつて救はれ、位置の異常は一寸した手術で治すことが出来る。

無月經其他の種種障害 十七歳以上にもなつて月經の一度もない人は、子宮や卵巣の缺損、閉鎖が原因となることがあるから、醫者の診察を受けて適當な處置を受けねばならぬ。このまゝでは絶対に結婚は出来ない。然

し早合婚して慰撫するには當らぬのだ。子宮はあつて膣ばかりの閉鎖なら、最近の進んだ醫學は、簡單な手術によつて、治療することが出来るのである。

また極めて稀ではあるが、子宮はあつても膣のない無り種である。これも心陰はいらない。膣の一部を取つて新しい膣を作り、これを移植する所謂造膣術により、完全に救はれるのだ。

念の入つたのになると、子宮と膣と双方とも切除してゐるのがあるが、これも現代の進歩した醫學は、手術によつて形だけは作つてくれるから、妊娠は望めぬにしても、更にも何夫婦生活の目的だけは達せさせることが出来るのである。

無用にあつても幸福な生活 人生の目的は結婚が唯一無二のものではない。身體に缺陷のあることに氣ついたら無理にも結婚しやうとはしないで、自身に特徴ある技能とか天分を見出し、新しい世界を開いて己の生活を完成せしめることも、賢明な世渡りの道ではないかと思ふ。かういつたからとて何も結婚に反對する譯ではない。中には理解ある良人の諒解を得て、身體には缺陷がありながら、幸福な家庭を作つてゐる人もあるのだ。或る女性十八のとき子宮筋腫のため、子宮を切り取つてしまつたので、本人も結婚は諦め、好きな繪畫に一生を捧げやうと一心に勉勵をはじめた。すると同じ道を進む男性から結婚を申込まれた。當の婦人に見れば驚かしたとはいへ、矢張り結婚への美しい夢は断ち切れなかつたのである。

そこで身體に缺陷あることを告げたが、先方はそんなことは超越した態度であつたので、間もなく二人の間

に結婚が成立した。そして同じ道の研究をつゞけながら、圓満に暮すことが出来た。

夫婦生活が精神的にばかり結合するといふことは、聖人でない限り理想論に過ぎないであらうが、右の例では子宮を切取つたとはいへ、もう身體も一人前の娘として成熟してから取つたのだから、性感のない腎はなかつた。尤も健全な婦人よりも低いものであつたらうが、その低さはホルモン注射によつて、補ふことは出来るのである。たゞ子供が出来ないとは淋しいことであらうが、世の中には完全な身體でも、子宮に恵まれない夫婦は少くないのだ。良人の温かい同情や愛情があるならば、そしてこれに對する愛の感謝と努力の生活さへあるならば、この聖家夫婦のやうに肉體を超越して、圓滿な家庭を作ることが出来るのである。

毛のない膣 局部に毛のないため、不具者のやうに心得てゐる者もあるが、これは決して結婚生活には差支はないのだ。然し有るべきところに、毛がないとしたら、若い女性として恥しいに違ひない。この心理状態に付込んで、インテリな毛生液がいろ／＼と賣出されてゐるが、あんな代物には効能はない。今では植毛または植皮術といふ手術によつて、この膣には簡單に解決されることになつてゐる。この外非常な精巧な義毛が賣出されてゐるが、少しも感らないから、これを利用しても救はれる譯だ。

精神病 何かの事情のため、強天的に精神に異常を呈した場合は、全治した上ならば結婚に差支ないが、先天的

のもので治り難い場合は、遺傳状態を一應醫局に相談して、その指圖に従はねばならぬ。

その悪さを強く遺傳するのだ。一度病を患つた人は、病の病にかゝつたことのない健全な人と結合し、多血質の人は貧血質の人と結婚するやうにすれば、双方の缺陷が中和され、その子孫は両親の悪い遺傳がメツと薄くなるのである。

第三節 世を暗くする性病

親戚知友など多数の人々の眼を向け、驚かしの新婚生活に入つた若夫婦の間に、愛もなくなり別れ話が出たり、夫婦別れの悲劇はなかつたにしても、何年たつても子實に恵まれなかつたり、そのため樂しかるべき家庭が、秋風寒くなる淋しい光景を呈したりするのは、是等の原因を調べて見ると、夫婦間に性病といふ悪魔が巣くうてゐる場合が一番多いやうだ。

また世間によくある例だが、社會的に秀でた人でありながら、子供は皆不育の子で精神的にも肉體的にも缺陷があり、親の顔へ肥を遺るやうな特徴をしたりするのも、矢張り親の性病がその原因となつてゐる場合が少くないのである。

一口に性病といつても、無類中には先天的のものもあらうが、大多数は男性のふしだから拒く病である。病が遺傳だけに何う寛大に考へても、病氣を憎んでその人を憎まずとはいへないのである。然もその病氣が恐るべき人生の破壊者であることは誰も知りながら、「色氣と病氣のない人はない」などと、宛ら人類に課せられ

た宿命でもあるやうに、世間の人はこれを無視してゐるのだ。

清浄な新妻に憑るべき病毒を積まつけ、幸か不幸か二人の間に子供が生れた場合、それが暗病兒や低能兒や意志薄弱兒であつては、一家に取つても國家にとつても、これに就した不幸は恐らくあるまい。性病をさして亡國病といつたのは、決して支那流の誇張ではないのである。



庭家いなの子

ところで單に性病といつても、昔は淋病と梅毒との區別さへつかぬ有様で一口に「下の病」と稱してゐたが、今ではいろいろと研究された結果、同じ性病の中にも澤山な種類が挙げられることになつてゐる。然し何といつても一番多いのは淋病だ。

歐洲大戦後ニューヨーク市で、二十歳以上三十歳までの獨身男子につき調査したところ、百人中の八十五人までがこの「淋しい病」の保有者であつたさうだ。梅毒患者は一切入國拒りならぬと厳しい取締りをやつてゐる亞米利加においてさへこの有様だから、この方面にルーズな日本などは、さらにその率が高いものと考えなくてはならぬ。

最近淋病方面でも、この病氣が進展を極めてゐる。昔は絶無かつたといふ程でもあるまいが、最初著名の露人ダンサーによつて滿洲國に移入し、それが二三年後には、恐るべき勢を以て國內は元より、蒙古方面にまで

野根を擧げて行つたのださうである。

淋病は誰も考へてゐる通り、難治の病氣ではあるが不治のものではない。初期の間に治療すれば治るものを、現しいといふ氣持に自暴も手傳ひ、役に立たない手療治などをしてゐる間に病勢はドレ／＼と進み、やがて取返しのつかぬ結果を招くといふ例が非常に多いのである。

梅毒は淋病よりも一層難治で治療も困難だが、この病氣の最も恐ろしいのは潜伏期間が長く、数年または、十数年後に突然として、腦の中樞神経を冒され狂人になつたり、子供が生れても畸形兒や無能兒が多く、確な者は出来ないといふ點だ。

俗に六百六號と稱せられるサルベルサンが發見されてからは、梅毒のために鼻が落ちるやうなのは少くなつたが、これも早期に注射を受けなければ効果は望まれないのである。

男子にしても女子にしても、結婚生活に入るに際し、一つのしつかりした考へを持つて、自分達の結婚生活を理想化するために努力することは絕對必要だが、同時に肉體的方面においても、より以上の完全を期することはいふまでもなく、それには先づこの性病に對する警戒を十分にしなければならぬのである。

第四節 幸福な結婚の一條件

双方とも身體も精神も健全であるといふことは、幸福な結婚を望む上から最も大切な條件だが、さらばといつ

て花嫁花婿の候補者が、果して心身共に健全でありや否やは、一見して判るものではない。

どこに一つとして缺陥のないやうな堂々たる青年でも、家外結婚の出来ない病氣を持つてゐる場合があるかと思へば、反對に外見では潔と稱のやうな性質でありながら、體格美に至つては立派に城麩の取れた、健康そのものゝやうな女性もあるのだ。

仲人話を信用する人でも、身體の方面になると、仲人が醫者でない限りは別だから、一應は念のため、醫師の作つた健康證明書を取交すやうにすれば、一層確實であらうと思はれるのである。殊にこの頃のやうに、結婚相談所とか、紹介所とかを利用して成立する結婚の場合には、仲人は双方の言葉だけを信用して話を進めるのだから、初めから當人の身元を徹く知つてゐる筈はない。是非とも確實な證明書を取交したいものである。

それについて成る結婚相談所で話してくれたことがある。

「私どもでは強ひてとはいひませんが、健康が大體きまつたところで、双方へ健康證明書を取交すやう勸めてゐますが、これが大體よい成績を擧げて居ります。尤も私どもへ、良い健康はないかと相談に来られる方は、極く眞面目な方ばかりで、大體は生活に眞面目して、元氣一ぱいに働いてゐる健康な、頼もしい人ばかりですから自信が強く、却つて證明書によつて、自分の健康を見てもらへるからといふ氣で、大喜びで賛成する方が多いのです。

「しかし数のうちですから、中には若氣の狂りで、既に花嫁病の烙印を捺されてゐる人もあるし、結婚にかゝつ

た原因の方もありますが、それだからといってこれが原因になつて、破綻になるやうなことは一つもありませんから、さうした心配のある方でも、決して懸念しないでいゝと思つたら進んで、説明書の取交しをおすゝめします。

「何故といふに人情から申しまして、説明書を取交すまでになると、態度もくゞ慎重な態度で各条件を熟考した上、これなら良いだらうといふことになり、ほゞ熟議が纏つたところで有りますから、今までのよい条件をたつた一つのことか懸いたため、何もかも捨つてしまふといふことは、惜しくて出来にくいものであります。

「それに病氣は、治療によつて治すことが出来すから、懸いといつても救ふ道はあります。或る良家の娘さんで、少し難儀が後れたところから、私の方へ相談に來られました。相手の男は三十五で銀行員でした。話はお互に乘氣になる位、慎重に進みましたが、この説明書といふ一件で、花婿の方に性病のあることが判りました。

「尤も男が三十五にもあつて重直である筈はないのですが、何しろ性病とあつては懸める譯には行きません。そのため一時沙汰止になりましたが、その病氣のこと以外には、一切の條件が非常によかつたので、娘さんの方では、全治するまで待つといふのです。それを聞いて男の方はムツカリ感傷してしまひ、徹底的に治療した上で目出たく結婚しました。

「このやうにこの頃は、相手側をよく理解するだけの理智を持つてゐますから、こんな懸きがあつた場合は、こ

れを避に利用するやうな形になり、結局は何から何まで理解し合つて、悪い夫婦愛に結ばれることになるのであります。

健康説明書は内科の醫者に頼めば、三圓位の料金を診察の上書寫して呉れる筈だ。どんな田舎の醫者にしたところで、内々頼まれて偽りの説明書を書けば、別に懸れる位のことには知つてゐるから、決して不正なことは書く筈はない。絶対に信用してよいのだから、この説明書の取交しによつて、相手方の健康状態を知ることが出来るのである。

第二章 梅毒 (梅毒)

第一節 梅毒の傳來

「梅毒の傳來は初め亞米利加から歐州の文明國へ渡り、次第に東漸して亞細亞大陸に擴まり、やがて海を越えて日本に傳來したのだ。

十五世紀の末期、詳しくいへば千四百九十三年一月亞米利加の大陸を發見したコロンブスが、意氣揚々と歐州に歸航したとき、上陸した南米諸島の中に、瘰癧の妙な歩き方をする者があつた。亞米利加土人の娘に接觸してその土著として歐州各國には、かつてなかつた梅毒を持つて歸つたのであるが、それがバヌコ・ダ・ガマによつて

印度に輸入せられ、十六世紀の初めに至つて、支那人が更に印度の土産として持ちかへり、廣東省といふ病名で流行らせてしまつた。

日本へ渡つて来た年代はハッキリしてゐないが、戦国時代の八幡船が、支那の沿岸に盛に出没し、倭寇と稱して廣東人などを襲ひ上らせてゐる頃買つて来たものらしく、當時琉球、唐、長崎など、稱して、西海地方には大分流行したやうだ。

文献によると皇紀二千百五十七年に、初めて日本で流行を見たことになつてゐるが、この年は後醍醐天皇の永正八年に當るから、コロンブスが歐洲へ持つて歸つてから、僅かに十七八年の後のことだ。當時の交通機關をもつて、梅毒が亞米利加から歐洲大陸に渡り、それから亞細亞大陸を経て日本に来るまで、二十年足らずの年月しか経過してゐないなどは、どう考へても本當とは思はれない程のスピードだが、それ程に昔から、性慾には國境は無かつたのである。

淋病の方は梅毒と同様、人類始つてからあつて、我國においても太古からこの流行を見た形跡があるだけに、所謂梅毒首に入つてゐる譯で、これが梅毒は重毒の業のやうに思はれる。然しキリスト以前からあつた淋病さへ各國の戦身的努力によつて、漸次少くなり、歐洲の中心地からはその影をひそめた事實を考へるなら、太古からあつた淋病にしたところで、各人の努力次第ではこれを撃滅することは、必ずしも不可能な事業ではないのであるが、我國の預防施設は性病全般にわたつて、各國に比べ置置な點が多いのである。

第二節 各國の性病預防施設

昭和十二年の春東大を退き、立教大學々長となつた神山三博士は、我國における皮膚泌尿器學の第一人者だが千九百三十五年ブダペストの國際皮膚科學會の性病預防部會と、國際花柳病撲滅聯盟大會に出席した序でを以て、歐洲の性病預防狀態を觀察した結果に基づき、國民純潔同盟の講座において、次のやうな傾聴に値する講演をしてゐる。

歐米各國に比して我國の性病預防は、施設も効果も非常に後れてゐる。昭和十年の壯丁の性病患者は一パーセントで、サルバルサンが出来てから當然減るべき筈なのが、實際は少しも減つてゐない。罹病するのは検査後であるから、血液検査を行つたら、モット多くなるであらう。

東北の或る縣では住民の三パーセントから、十パーセント四の有毒者があり、東京、大阪の或一部分の血液検査の結果では、十パーセントの梅毒があつた。梅毒による死亡率は、人口一萬につき〇・八七で、これは伊太利の二倍、白耳義の十倍に當つてゐる。精神病患者の二割五分強、失明者の一割は梅毒のためであり、淋病による失明は一割五分であるが、其他の重要な内臓疾患を數へるならば、性病預防の使命の重大さが首肯出来る譯である。

全國の公費は約五萬だが、これに對する衛生費は百萬圓である。然もこの有毒率は一乃至二パーセントで、

表面は良感に見えてゐるが、歐米各國には殆ど見ることの出来ない軟性下疳が、梅毒の三倍もあるといふ事實は、果して何を物語るものであらうか。

公衆の何倍かある私娼の有罪率は、二十パーセントと稱せられるに拘らず、これが黙殺されてゐるといふ不徹底さである。歐米各國ではそれ／＼行届いた予防施設があるが、最も進んでゐるのは北歐で、中でも丁抹の如きは、次の如き制度が行はれてゐる。

- 一、公娼を脱止し妓樓の存在を許さず
- 一、新しい性病患者を速かに全治せしめ、病人も商賈人も無料にて治療す
- 一、性病患者は治療中といふ醫師の説明書のなき限り、無料診療を受ける義務を負ふ
- 一、性病を他に傳染せしめし者は懲罰す

この結果丁抹では、今は殆ど性病は影をひそめ、若し新患者が現はれたとしたら、それは外國から輸入されたものとされてゐる。全北歐を通じて人口一萬人中性病患者は一人強だ。國別にすると瑞典は〇・七人、挪威は三人、丁抹は二人といふ状態である。

瑞典には、「小さい家」といふ病院が設けられてゐて、縦横をした婦人、殊に遺傳梅毒の小兒を保護してゐる。また英國には母性兒童保護協會があり、國道でも婦人や小兒に對しては法の保護が加へられてゐる。最近における我國では、東大醫學部の産婦人科で取扱つた常習梅毒患者のうち、八割七分までが梅毒患者であつ

た事實や、乳幼兒の死亡率の高いこと世界第一であることなども、何が原因となつてゐるかを考へるとき、我々は眞實に性病預防に努力しなければならないのである。

第三節 骨までしやぶる梅毒

性病患者のうちその割合からいふと、梅毒は淋病に劣つてゐるが、病程の猛烈なことも、軟性にして隠匿な態では、梅毒が性病中の大敵所だ。

それも第一期中は局部にグ／＼が出来たり、全身に面皰のやうに小さな腫物が出来ることだから、左程苦痛も感じないが、第二期に入ると腫が妙にかすれ、頭の毛を始め眉毛、腕の下の毛などが抜け落ち、いかに心算の悪い者でも、少々氣味が悪くなつて来る。それが第三期に入ると、もう皮膚の表面だけでは済まない。所謂骨がらみといふやつになつて、先づ骨中が腫しく痛み、次で腹痛を覚え、頭や腰のあたりに疼痛を感じ、指先は麻痺して足は感覚を失ひ、瞳孔も開きつ放しといふ現象を呈して来る。これが俗にいふヨイ／＼で、醫者の仲間では骨髄病と呼んでゐる。

梅毒も多くは遺傳梅毒の第三期に屬する疾病である。それから半中と軟性化といふのもそれだ。同じ血管硬化からのもので脱疽といふ氣の毒なものもある。梅毒の骨がらみといへば、大體は初老すぎたから現はれるものだが、それが脱疽のため二十や三十の若さで、片足や兩足を根元から切離せねばならぬなどは隠匿の極だ。

この外、梅毒が原因となる病氣には、骨髄炎、骨膜炎、子供の脚水腫、瘰癧、梅毒、狭心症、皮膚梅毒、關節炎、淋病、進行性筋肉萎縮、喘息、貧血及び白血症など病名を挙げるだけでもウンザリする程だが、段々病勢が進むと、所謂第四期に入つて白痴となり、或は狂人ともなるのである。

第四節 女性と梅毒

梅毒が女性に感染すると、これが原因となつて性病が男性よりも複雑なだけに、内臓炎、子宮内膜炎、咽頭炎、淋病、骨膜炎など、男性には見ることの出来ない所謂婦人病を起すこととなり、更にこれがまた原因で不能症ともなるのであるが、幸ひに懐妊したところで種な結果は望まれない。

先づ注意の點を見ることが始めとして、折角生み出しても子宮の内外に異くつてゐた胎前のため、悪性の毒傳染を起して生死の間を彷徨し、運がわるければ生れたばかりの赤ん坊を殺して、醫業界を異にせねばならぬことにもなるのだが、生れた子供にしたところで決して幸願では有り得ない。所謂親の罪が子に報い、孫喰つた愛をもない身で、生れたがらにして一生を苦しめかねばならぬやうに、運命づけられるのである。

その最も手近なのは彼の胎毒といふやつだ。尤も胎毒の毒が遺傳梅毒といふ點ではないが、遺傳梅毒による胎毒が最も多いのは争へない事實である。然もこの胎毒は既に第一期を過り越して、第二期に屬してゐるのだから、順序として次第に第三期に進み、ヤツと年頃になつてから、脱疽といふ氣の毒なことにもなるのである。

脱疽にはならぬまでも、遺傳梅毒の子は一般に粘膜炎の部分が腫いから鼻、舌、口、肛門、歯齦、咽喉などを侵され肺炎、慢性淋病、膿炎に罹り易いのである。梅毒性膿炎、脚水腫、骨髄炎、假性癩癩などの危険な病氣にかゝるのもこの種の子供に多く、眼、耳などの疾患の八割までは、遺傳梅毒が原因になつてゐるのだ。

三つ四つの年頃になつても膿液を流したり、骨無し子といつて、全身がグチャクしてゐる子供が往々にしてあるが、これも遺傳梅毒のため、骨髄の發育が非常に不良であることが原因となつてゐる。然も是等の病氣は、



胎兒の腹水腫

最初より何等の痛痒を感ずることなく、食慾も氣分も何一つ變つたことはないから、常人は病氣などのことは全然にも聞いてゐないうち、早くも第二期に入つてゐるとか、突然三期の症狀を起したりするのだから、用心しやうにも用心の仕様がないう有様であつて、こゝにこの病氣の恐るべき特徴があるのである。

第五節 猛烈なる梅毒菌の生活力

コロネプスの標本によつて、亞米利加の土人から輸入されるまで、歐洲には梅毒といふ病氣は無かつたのだから、初めてこれが輸入された當時は、悪性の梅毒と解離し、間違あたりの醫學界でも、「大梅毒」と命名したものだ。

ところが何れも梅毒とは様子が違ふといふので段々研究された結果、梅毒のシヤウリン・ハツフマンが初めて梅毒の病原を發見し、これに「スピロヘータ・パリーダ」といふ學名をつけた。現今では普通「トレポネーマ・パリーダ」と稱してゐる。

梅毒といふと恐く恐るべき有害なものと思へては間違つてゐる。これにも澤山な種類があつて、酒の毒にならぬ梅毒、骨や軟骨につく梅毒などは決して有害なものではない。たゞ恐ろしいのは、流行病や傳染病の病原となる梅毒である。梅毒もその一つで、赤痢やチフスの菌に比べると十倍以上も大きい、それでも高度の梅毒でなくては見られぬ微小なものである。形はキルリ抜ききのやうな螺旋形で、螺旋の數からいふと四つから三十位までの螺旋に分れてゐる。

梅毒はその種類の何たるを問はず、繁殖は分身法によつて行はれ、菌體の一部が大體に發達すると、これが二つに分れて新しい一つが出来、さらにその分れた一つからまた新しい一つが出来ることから、初め一個のものは二個となり、二個は四個となるといった工合に倍數となつて殖えて行くのだ。

ところが梅毒はその繁殖力が一層猛烈で、一個の菌を幾つに千切つても、その千切られたものが恐く完全なる一個の菌となるのだから驚くの外はない。然もその生活力は想像も出来ない程強く、人體と同程度の中で、周圍に適當な温度さへあれば、三年位は生きることが出来るのだ。それでは寒冷な場所なら、忽ち死滅するかといふとさうではない。氷室の中に置いて、三ヶ月位はピン／＼してゐるのである。だから湿度や温度に

中分ない條件を具へてゐるならば、何十年でも生きて行かれるものと考へなくてはならぬ。

尤もこれにも善手があつてアルコール、石炭酸、ホルマリン、昇水水、リゾール、過マンガン酸加里等の消毒薬の中では長くて五分、短いものでは一分間位しか生命は保てない、中でも昇水水は彼等に取つては恐るべき鬼門で、一蒸留に濃めた液でも、一寸觸れるだけで忽ち死滅し、砒素にもまた非常に強い。サルベタンはこれを利用したものである。

第六節 梅毒傳染の経路

梅毒は久しく住み馴れたところよりも、新しい場所へと移住することを好む習性を持つてゐる。だから保菌者同志の間では傳染しやうとしないが、少しも汚れてゐない血を發見すると、飢えた者が食を求めやうな勢ひで觸付いて行くのである。

ではこの恐るべき菌は、人體の何處に居てゐるかといふと、保菌者の全身をその棲家としてゐるのだ。中でも血液中には最も多く居てゐる。それが血液の循環と共に全身を廻つて最も核心地のない場所を見付けると、其處を假りの窟と定めて暫く滞在するのだが、それが皮膚に近いところであると、桃の花の形をした膿物となつて現はれ、膿の中だと膿瘡を起し、關節だと關節炎となり、生殖器だと部分的にいろいろな障礙を來さしめるのである。

然し大部分は皮膚の下に潜居し、表面では各部の粘膜に最も多く現はれる。中でも生殖器とか口中とか、肛門とかの如く、常に濕氣のあるところに寄り集まるのである。従つてその傳染の機會は、保菌者と性交のあつた場合が最も多いのである。次では接吻だ。保菌者などを相手の性の交渉の危險なことは誰も知つてゐるが、接吻によつて梅毒を傳染することは、あまり考へられてゐないやうだが、案外これが潜伏するのである。



次には器具や物品によつて傳染することがある。例へば保菌者の使用した手拭、歯磨、湯呑茶碗などが媒介となることもあり、お湯屋などで保菌者の坐つた後へ、直ぐ坐るなども不覺の本となるし、若しまた、

剛さめの土壌の蓋は鼻へ落ち

といふやうな、行儀のわるいことをした人が梅毒患者であると、

同じ土壌でその器具をした者に、この梅毒がうつらぬとも限らないのである。

以上は他から傳染るもので、所謂後天的の傳染だから、注意さへすれば預防することが出来るが、先天的に遺傳として傳へられる場合は、避けやうにも避ける手段はないのだ。また等しく性交によつて傳染する場合も、保菌者の状態によつて多少の相違があるのである。

例へば菌を有する寶珠を相手とした場合、彼女等の局部はその職業的變化してゐるから、男性の方が負傷し

易い。負傷すればその傷口から、處女地を好む梅毒は、好難離れりとして飛付いて来る譯だ。梅毒が「折花柳病」などと稱し「折花柳病」の花から、別の智恵を捨てた代償として、お土産に持ち歸られるのが多いのは、かうした理由によるものである。

第七節 梅毒第一期の症状

梅毒は傳染したからといつて、直ぐ現はれるものでもなければ、痛みや痒みを覺えるものでもない。菌が生殖器の粘膜から侵入してから十日間ぐらゐは、顕微鏡によつて血液検査をしたところで判るものではないのだ。尤も局部には、スピロヘータ・リッリゲンヌといつて、梅毒菌に似た菌があるが、これは誰にでもゐるもので梅毒とは何等の關係もないのである。若し毛切れなどのために痛みを覺え、それを梅毒と早合點する者があつたら、それは自分の無智を表明するものであり、若しまた醫者にしてこれを梅毒と診斷する者があつたら、それは正しくインテキヤを事とする醫者だ。

梅毒菌は三週間ほど経つて、初めて侵入した場所の皮膚の下に、硬性下疳と稱して固いグリークが出来ることが、それはたゞ一つだけで、指で押へて見なければ死なない程の硬さのものである。このグリークのため硬性下疳と間違ふこともあるが、硬性下疳の場合はグリークは二個も三個も出来るし、サルバルサン注射によつて治すことが出来るが、梅毒の場合のグリークは必ず一つだけで、然もこれはサルバルサン注射を幾本打つたところで治ら

ないのである。

かうした状態でグリ／＼が出来るまでの潜伏期が凡そ三週間、グリ／＼が出来てから何時の間にかそれが消えるまでの間が約三週間を要し、都合で一ヶ月半くらゐで梅毒の第一期は経過してしまふのが普通であるが、中には例外もあつて、最初のグリ／＼を見るまでに二三月を要するものもあり、グリ／＼が消えるまでに一ヶ月もかゝるものがある。斯くの如くして梅毒の第一期は、殆ど常人の知らない間に過ぎてしまふのである。

第八節 梅毒第二期の経過

第一期のグリ／＼が自然に消えてから約三週間の間は何事もなく過ぎてしまふから、最早治つたものと思つてみると、やがて胸や腰や腹のあたりへ、ゴツリ／＼と赤い桃の花の形が現はれ始めるのだ。それが平生では餘り目立たないが酒を飲むとか、湯に入るとかすると、いとも鮮かに現はれ、もう少し日が経つと、平生のまゝでも眼に立つて来る。醫者の仲間で「梅毒」といふのがこれだ。

この梅毒は妙な代物で、別に痛くも痒くもなく、少し治療すれば直ぐ治るし、打つちやつて置いてもいつの間にか消えて無くなるが、消えたからといって病気が治つた譯ではない。その證據には頭痛がしたり、微熱を感したり、何となく倦怠を覺えたりして、食慾も進まないし氣をつけて見ると、皮膚の色が變つたり、毛が抜けたりすることによつてわかる。

さうしてゐるうちに頸や顔などに、面癩のやうな腫物が出はじめ、それが次第に大きくなるのみでなく、腋の下や股の間に白銅大のものが出来る。これが丘疹といふやつで、小さいのは粟粒くらゐしかなく、矢張り痛みはないが、赤く色づいた境界線が、極めてハッキリしてゐる。

この丘疹以外にも、色々の微熱や變化が現はれて来る。手足の指の間に出来る、皮膚のやうな梅毒性乾癬を起すめとして、肝臓の形をした角化性梅毒疹、雲霧のやうな落屑性梅毒疹、毛根に出来る手嚢性梅毒疹といふものも出来る。口角や肛門や陰門や液漏などの濕氣のあるところへ、扁平な高まりが生ずることもある。これが膿疱性梅毒疹に變化して行くのだが、腫瘍大くらの小さいのは別として、大きく成長したものは膿を持つて忽ち潰れ、所謂膿性梅毒疹となり危険な代物だ。中にはまた全身の内臓に出血を起さしめ、いきなり大切な生命を奪ふ、出血性梅毒疹といふ特殊なものもあるのである。

このやうに梅毒が皮膚の表面にまで現はれる第二期時代は、細菌が全身的に盛んに活動してゐるから、人體に及ぼす影響も甚しく、皮膚は黒味がつた蒼白となり、髪はかすれ、丘疹の治つた跡は白い瘻となり、婦人では頸の廻りにも白い瘻が現はれる者もある。

それでゐる氣分の上では別に變りはないから、食慾も色氣も少しも衰へず、色氣の如きは壯健なときよりも却つて旺盛になる結果、理るところに梅毒を再び散らすやうなことにもなるのである。

第九節 いよく最後の骨がらみ

梅毒は第二期時代は、それが表面に現はれるから「あいつは骨かきだ」といつて世間から爪弾きされるが、これも凡そ三年くらゐで表面から毒を消し、いよく第三期の潜伏期に移り、この間にまた凡そ三年間を経過するのである。

尤も第二期時代にでも、完全な治療法を施せば全治するが、こゝでは治し切らないで置いた場合を述べるのだから、その積りで讀んでもらねばならぬ。

さて第三期に入つた梅毒は、もう二度と表面に出て来ない。所謂骨に落ち込んでしまふのである。然も全身的ではなく骨、関節、五臓器などの一ヶ所に毒を集積するから、集積した箇所は徹底的に破壊されて不具者となり或は内臓の一部分に病巣を生ぜしめその働きを硬化して、大切にすれば百年以上も保てる人間の生命を、平均四十位で奪ふことになるのである。

尤も梅毒の終末を第三期としたのは昔のこと、今までは第四期までに延長されてゐる。これを發見したのは彼の有名な野口英彦博士だ。博士は梅毒患者の骨や脊髄の中から、多くの梅毒菌を發見し、従来は梅毒菌または梅毒菌と稱してゐたものを、梅毒第四期の症状であるとの調査を下し、一週に有名になつた人だが、梅毒は必ずしも二期二期と順を追つて第四期まで進むとは限つてゐない。人によつては二期二期の症状なくして

三期四期に進んでゐる場合もあれば、非常に健康な人では第一期の症状を見たりで、二期三期を通り越し、そのまゝ十年乃至二十年の潜伏期を経て、いきなり第四期に入る場合もあるのだ。

それについて或る専門家は、男の患者百人中二十六人、女の患者百人中五十六人が第一期と第二期を知らずに直ちに第三期に入つてゐたことを報告してゐる。

かうして梅毒菌がいきなり、骨に入つてしまふと、容易に出て来ないのが普通だが、飲酒とか老衰とか、其他非常な精神上の打撃や過勞が原因となつて、精神に異常を呈して来る場合がある。痲痺性梅毒といふのがこれだ、こゝまで進ると人も能く狂人にされてしまふのである。

第十節 罪な惡戯をする遺傳梅毒

梅毒も普通の場合ならば、精食つた代償として、當然その苦痛を嘗めねばならぬかも知れないが、遺傳梅毒として何の罪も持たない子供に、この恐るべき病巣を継承するに至つては、また世の中の惨といふの外はない。

では何うして、この子不孝な遺傳梅毒が生ずるかといふと、母の血液によつて健康な精子や卵子が養はれてゐる間に、その血液中に梅毒菌があつた場合、胎児の身體の組織が侵されて、そのまゝ遺傳梅毒となるのである。

また本来は母の血液は極めて清浄であつても、父親の方から梅毒菌を運び込んで植付ければ、忽ち母親に感染してそれが血液の中に入り、當然胎児に移行することもあり、胎内十ヶ月の生活の中は、幸ひにも梅毒の洗滌は受

けなくとも、その生れるに當つて母の體內に菌が繁殖してゐたため、この世の中に出る一歩手前で死ひの病毒を賣つて出る因果な子もあるのだ。さうなると、

ソッお出で子は家中を廻り
どこかの騒ぎか、一家中ジメ／＼と泣つぽい顔をして暮さねばならぬ。



ところで母の血液中に梅毒菌があつたため、子供がそれを受けて生れるにしても、胎内生活は僅か十ヶ月だから、普通ならば病態はさほど進んでゐない筈だが、何分抵抗力の微かな胎児に取つては、この十ヶ月が普通の十年にも相當するのだ。

だから忽ちのうちに二期二期と進み、生活に堪へられなくなつて死んでしまへば、これが流産または早産となつて現はれるのであるが、健康な胎児であるため無事に生れ出たとしても、全身に發疹したり、赤銅きのやうになつてゐたり、腎部や眼に菌から買つた梅毒は第二期まで進んでゐるから、全身に發疹したり、赤銅きのやうになつてゐたり、腎部や掌などに發疹してゐたりするのが普通だ。
若し第三期の症状を以て生れた場合は、皮膚は縮だらけで色澤がわるく、泣きにも生氣がなく、消化も不良で一體に虚弱であることを免れない。これは内臓の何れかを侵されてゐるからである。

梅毒はその子の母親が、梅毒に感染してから間のない場合が最も率が高く、感染してから年が経つに従つて、遺傳の率は低くなるのだ。それについて成る専門家は「母親が妊娠二ヶ月目に梅毒を感染して生んだ子供は二人とも死亡し、三ヶ月目に感染して出来た子供は七人の中六人死亡、第四ヶ月目は九人中七人が死亡、第五ヶ月目は九人中四人、第六ヶ月目は五人中の二人、第七ヶ月目は十三人中三人が各死亡し、第八ヶ月目は三人中の三人とも育ち、第九ヶ月目には二人の中一人死んだ」と、興味ある報告をしてゐる。

第十一節 梅毒は治るか

梅毒は上述の如く實に恐るべき病氣に違ひないが、決して不治のものではない。今日の進歩した醫術を以て早期のうちに治療すれば、全治せしめることは左程困難ではないのだが、その症状が激烈でないため、二期二期の間を氣づかずして過したり、氣づいても潜伏期に入つたとき、治つたものと誤信して治療を怠つたりする結果、遂に三期四期まで進み込んでしまふのだ。三期以上になれば最早治療は困難である。不治といふのではないが、厄介極まる難治のものとなるのは確かである。

それで梅毒の療法としては、如何なるものが行はれるかといふに、特に驚くなつた部分を治療するものと、根本的に體內にある細菌を驅逐するものがある。一つは一時的であり、他の一つは永久的の治療法だが、これは別々に行ふよりも、兩者相俟つて行つた方が効果があるのだ。廣くとしては昔は「山藥素」が唯一のものとして

用ひられたが、今では常に六百六六といはれる。サルバルサンを主として、水銀剤と青酸剤とが用ひられてゐるのである。

六百六六は砒素の化合物で、今から二十餘年前獨逸のウーレンフートが発見したものだ。これを基礎として、エーレルヒと我國の藥博士とが協力して研究を重ね、これは世を救ふといふ意味からサルバルサンと命名し、ヘフキスト製藥會社から賣出さしたもので、六百六六といふのは、藥博士が研究するとき、一千種ばかりの化合物を作つて研究の歩を進めてゐるうち、六百六六の番號を付けて置いた化合物が最も有効であつたので、それを用ひることになつたところから、その番號で呼ばれることになつたのだ。

然しこれは取扱ひが不便である上に、直ちに毒性に變化する缺點があつたので、それを更に改良して、ネオサルバルサンが精製されるに至つた。今日一般に用ひられてゐる六百六六は、このネオサルバルサンのこと、今では我國でも獨逸並に劣らぬものが製造されてゐる。

サルバルサンの名が廣まつてから、天來の靈藥でもあるが如く過信された結果、いかに猛烈な梅毒でもたつた一本の注射で根治するが如く宣傳せられ、世間もその如く信じたこともあつたが、いかに六百六六でもそれ程の特效がある譯ではない。先づ第一期梅毒なら三本、二期で五本乃至七本、三期で八本乃至十五本、四期と遺傳梅毒では、二三十本は打たなくては根治しないし、その間にも注射だけではなく、沃度劑の服用や、水銀劑の注射や錠剤もしなければならぬのである。

六百六六に次ぐものは水銀劑で、これは古代から印度において、靈藥として盛んに用ひられたものだ。軟膏と注射劑とがあつて、軟膏は自分で皮膚の軟かい部分へ擦り込み、注射劑は三日置きに一本位の割合で注射するのだが、水銀劑だけでは梅毒を根治することは出来ない。

サルバルサンや水銀劑は、中毒を起す處れがあり、中にはサルバルサンを絶對的に用ひてはならない特殊體質がある。かゝる人には青酸を用ひるのだ。これは今から十餘年前巴里で發明されたもので、我國でも數年前から使用するやうになつたが、中毒作用のないところから、梅毒中の梅毒患者には重寶がられてゐる。

第三章 軟 性 下 疳

第一節 醜惡な軟性下疳の形相

軟性下疳は陰部に出来る瘡で、昔は梅毒と同一視されてゐたものだが、實際は梅毒とは性質を異にする性病である。菌は螺旋形の梅毒のとは違つて、鎖状をしてゐるところから、鎖鎖狀桿菌と命名されてゐるが、梅毒菌と著しく異なる菌は、或る一定の區域を限つて發生し、梅毒菌のやうに全身を歩き廻らないことだ。

この菌は獨逸の醫師デュクレーによつて發見せられ、學名はストレプト・バチルスである。傳染の経路は主として花柳の毒から持ちかへり、それが半日乃至一晝夜の後現はれるのが普通だが、それも不潔な性交のあつた

場合、男子の瘡癤に傷がついて、粘膜炎の表皮が破られてみると、そこへ菌が侵入して軟性下疳の製造を始めるといふ取柄になるのだ。だから梅毒などを相手として、毛切れを生じた場合が一層危険とされてゐる。

感染すると最初その部分から黄色の膿を出す、前にいふ通りこの膿は感染後十二時間乃至二十四時間後に現はれ、例外として一週間位経過してから現はれるものもある。潰瘍の形は毛切などの傷の大小によつて一定せず、大きいものが一二月間に出ることもあり、小さいものが十数ヶ所に出るものもあるが、何れにしても潰瘍は皮膚の上に現はれて盛り上がり、周囲は他の部分とハッキリと境を明かにし、底は灰白色または黄色の皮膜を破り、膿臭ある膿を出しながら目と共に段々大きくなるのである。

中には盛り上らないで、中が深く凹んだ潰瘍を見る場合もあるが、こんなのは皮膚の下深くまで侵されてゐる証拠だ。盛り上つたものも凹んだものも、その形が非常に醜態である上に、腫ると痛みを感じる。梅毒の場合の「下疳」(硬性下疳)は、皮膚の表面にまで現はれることなく、また膿をもつて潰れることもなく、押へると硬くて痛みを感じないが、軟性下疳は押へると軟かく且つ非常に痛むから、素人にも区別がつく筈である。

尤も一口に軟性下疳といつても、潰瘍の形相や性質によつて色々な名稱がある。一番普通なのが侵蝕性下疳といふやつで、潰瘍の表面に緑色の腐葉をつけ、一見して最も醜態を極めてゐる。次は蛇行性下疳で潰瘍面が蛇行的に腫まり、一方を治せば他の一方に伸びるから、治療にも数ヶ月を要し、軟性下疳としては、最も頑固なものである。

また悪性なのは壊疽性下疳だ。患者が梅毒病や腎臓病や結核などで、衰弱してゐるのに付込み延成を極み、無惨にも瘡癤を腐らせて根元から落したり、膿頭だけを抜き取つたり、陰囊の中を喰ひ取つて、僅かに膿頭の先だけをぶら下げたりする奴で、いかな者でもこれに逢つては悲鳴を挙げてしまふ。

是等の悪くどい陰疔でも、たゞ一つの取柄は、その發生する場合が、陰部とその附近に限つてゐることだ。梅毒や淋病のやうに、全身を歩き廻るやうなことはしない。そして陰部でも男性ならば、陰囊の包皮内板に最も多く、女性ならば膣口を理想的の極点としてゐる。

だから俗に「皮かむり」といふ包皮の男性は、その包皮を切取つて彼等に繁殖の最盛所を興へぬやうにするとか、特にこの部分を清潔にし、その内面を常に乾燥させて置くやうに注意すべく、女性ならば膣口を中心として子宮頸部、陰嚢、大小陰唇、後連合などを特に清潔にすることを怠つてはならぬ。

以上の外肛門、尿道などに發生する場合もあり、更らに段々進んで、鼠の附根の通りまで出張することがある。これがいはゆる横痃で、軟性下疳はこれを最後とし、それ以上に及ぶやうなことは無いのである。

第二節 横痃の治療

横痃はかつて梅毒のかたまりのやうに考へられた時代もあつたが、今では全然別物であることが明らかになつた。尤も梅毒や淋病やヘルペスのため、横痃を踏み出す場合も絶無といふのではないが、大部分が軟性下疳から來

てゐるのである。

軟性下疳が陰部から皮下に滲入すると、更らに全身に同族を擴めやうとして前進を始めるが、このとき同族部の淋菌がこれを堰き止めて、膿のあたりから一歩も内部へ入れまいとする。そこで軟性下疳の方でも仕方なく膿は中止することになるが、さらばといつて素手では退却しない。その分ならば此方にも考へがあるといふので、堰き止められた場所に御藥を搦ま、さて徐ろに同族を盛んに繁殖せしめ、毒素を高め込む結果として、流石の淋菌も是古重れてしまひ、やがて化膿して腫れ上り、鶏卵大になつて皮膚の上にも盛り上つて来るのだ。これが即ち横痃である。

だから前が陰部にある間に全治してしまへば、横痃になどならないのだが、醫者に見せるのを恥しがつて手放しでコソコソやつたり、初めから何の手當もしないで放つて置くやうなことをすると、此奴甘いと見くびつて、大體は歩き廻るのを餘り好まぬ軟性下疳ではあるが、チヨイと悪戯をする氣になつて前進を開始し、鼠蹊部の淋菌と衝突して、横痃といふやうなゴツゴツとした毒になるのである。

横痃は陰部に下疳が出来てから、早いので四五日、遅いのに五週間の後に出来るが、最も手頃な時期は下疳癒後一二期間といふ頃だ。初めグググが出来て、それが盛り上がる程の大ききになると皮膚は赤くなりやがて黒青色の普通の腫物の姿と化し、中に膿を持つと、軟くなつて自然に潰れてしまふが、この膿は醫者にかゝつても一月位経過して出ることがある。このとき若し手當を測ると、潰れた傷口が大第に大きくなるのみでな

く、その場所に軟性下疳を捲へて尙も擴大して行くのである。

然かもその傷口たるや、たつた一つとは限つてゐない。時とすると、四つも五つも出来ることもあるが、さうなると淋菌腫瘍といふものとなつて、半年も一年も膿を溜らすやうになるのである。

横痃の手當としては古來いろいろの方法が行はれてゐるが、化膿しない前に下疳を服み、患部へイヒチオールを塗布し、冷温布を敷くと起ち散つてしまふ。カルシウムの靜脈注射も効果は百パーセントだ。ところで斯うして横痃を散らすと、その毒が全身に廻つて害を興へはせぬかと恐れる人もあるが、軟性下疳そのものが大體全身に廻らない性質だから、横痃を散らしたところで、その毒が身中に廻るといふやうなことは無いのだ。

尤も化膿して赤く腫れ上つた場合は、切開手術に越す療法はない。この手術はその部分以上を切り開き、膿や悪い肉や淋菌を掻き出してしまふのだから、多少痛い辛味はしなくてはならぬが、後はサツパリして全治するのも最も早いのである。海毒と同じやうに見て六百六號を注射したところで利く横痃ではなし、況して呪咀などで散らすなど考へたら、それこそ人に話も出来ない馬鹿な目を見るだらう。

第三節 軟性下疳の治療

軟性下疳の菌は膿汗の中において最も多く繁殖し、これに水を加へて百倍の薄さにしても生存し得るが、濕氣を全く失つて乾燥した場所に放置するときは、一週りもなく死滅してしまふ。

淋病は、膀胱炎、腎臓炎、精管炎、腎盂炎なども、淋病が原因となつて起る厭な病氣である。
女性の側ではバルトリン氏炎、外陰部炎、子宮頸部炎、膣炎、子宮内膜炎、子宮體炎、咽頭管炎、膣果炎、子宮頸管炎、紅門直腸炎などを起すのだ。更に血液に淋菌が入ると、移行性炎症を各部に起し、中でも骨に膿瘍、ロイマチスと呼ばれる淋菌性骨髄膜炎など起るべき病氣の原因ともなり、表面に現はれた淋病は潰瘍、膿瘍、膿腫、水疱性皮膚炎、結核性紅斑、角層増殖症、毛嚢炎などを起し、眼に入ると風眼となつて失明に陥らしめるのである。

以上の如く淋病による病氣は、その病名を挙げるだけでも無限なく、淋病に罹るとも劣ることなき害毒を興へるものだが、中でも最も普通にして且つ恐るべきものは膿瘍炎または睾丸炎、膿瘍、ロイマチス、風眼の三つであらう。

膿瘍炎や睾丸炎を起した場合は、睾丸において折角製造した精子が死滅するから、性交は出来ても妊娠は不可能となり、いかに子實は欲しくても、精子が既に生氣を失つてゐるから子は出来ないのである。

尤も睾丸炎を患つた男子でも、一方だけしか侵されない場合は、全部の精子は失はれないから、低率ながらも妊娠することはあるが、二つとも侵されては最早絶立ちになつても子は出来ないのである。

膿瘍、ロイマチスは淋病の内臓から起るもので特に女性に多く、膿後には足が腫直して曲らなくなつて、歩くのに難を引く位の程度ならまだよいが、昂じてしまふと脚の關節以下を切離してまでも、一命を取り止めねばならぬやうなことになるのだ。

風眼は淋病が眼に入つた場合起るもので、不潔な共同風呂などから買つて来る場合がある。一度この病氣が眼に入ると早いものは、一二時間、普通で二十四時間、遅いもので二三日経つて眼が充血し、腫は腫れ、初めは涙が無量に出るが、後には膿が出るやうになつて、四五日後には眼が潰れてしまふのである。餘り急激なので、昔の人は、通り風の風のせいであらうと考へたところから、風眼といふ名前がつけられたのだ。

第二節 淋病の性質と感染の経路

淋病は梅毒と違ひ、人類の初めから既にあつた病氣だが、十六世紀に入つて梅毒が流行し始めてからは、何れも感染のあるところから、淋病も下疳も一樣に梅毒として取扱はれることになつた。それが獨逸のナイセル博士の研究によつて、淋病の病原體が發見せられ、梅毒とは全然別種のものであることが判り、學名をモノコッカと付けられるに至つたのだ。

この淋菌は二つの殻を以て合せたやうな形をしてゐるが、梅毒菌の如く自發的に運動することはない。従つて傳染力はやゝ弱いが、その代り非常に頑健で四十度の熱で長時間生きてゐることが出来るし、零下十度位の寒冷な場所でも、十日位は平気で居られるのだ。然し濕氣のない場所では生活することが出来ないから、乾燥することによつて容易に死滅せしめることが出来る。

花柳の毒は尿道や下尿道にかけると同様、淋菌の毒のやうな場所、花に浮かれてこゝに群れ集まる男性に感染し、大抵に社會一般に傳染されて行くのだが、性交の場合相手の性器に附着するのみでなく、男性ならば尿道の尿道内へ侵入して深く侵入し、女性ならば膀胱に附着し、何等傷はなくとも充分に繁殖して、四十八時間位で早くも活動を開始するのである。

このときの徴候としては、その部分に軽い痒味を覚え、その翌日から放尿時に熱を感じ、同時に少しばかりの粘液を漏らす、さらにその翌日になると、痒味は痒みと變つて尿道口は赤く腫れ上り、膿を出して二週間位後には、放尿時に強烈な痛みを感じるやうになるのだ。

この放尿時の痛みを緩和する方法としていろいろのことが行はれてゐるが、湯の中に陰部をつけて放尿すると痒みを感じない事實から、公衆心を持合せぬ手合になると、共同風呂の中に放尿することにもなるのだが、そのとき同時に放出された淋菌が、四十度位の湯の中では平気で生存して居り、これが他の健全な浴客の手拭などに附着して感染せしめたり、熱帯や温帯な風呂の媒介ともなるのである。

第三節 淋病の症状

淋病の潜伏期は普通二日くらゐだが、長いものになると一ヶ月に及ぶものもある。何れにしても一週間位して前に述べたやうな症状を呈するやうになると、尿道管炎を起し、尿道口を腫脹せしめて膿が現はれる。すると

この頃から全身に發熱し食慾は進まず精神衰微、不眠症などを起して、膿汁に血液がまじり、且つ膿の内層が膿のため膿は物起し、苦痛は一層甚しくなつて来るのである。

この症状は二三週間にして極度に達する。それから下り坂となつて排尿はやゝ楽になり、膿は減じ、痛さも減へ、さらに二週間はばかりの後には、尿は白い膿のやうな淋菌が混入するのみで、尿の色も平生の如く透明となつて来る。この期間を膿者の仲間では、急性淋菌性前部尿道炎といつてゐる。

前部尿道炎が進んで、前部と後部との境になつてゐる膀胱筋部を刺え、淋菌が後部尿道に侵入すると、後部尿道炎となるのだ。膿汁としては間断なく尿を催し、夜も眠れぬ程であるが、精液毎に膿を混入し、ときとすると膿を起すこともあり、甚しいものは小便が全然閉り、射精や遺精の場合には、肛門の前部まで痛みを感じ、三十八九度の高熱を發するやうになるのだ。

後部尿道炎は結核、梅毒、膿瘍などで膀胱の膿い者が、前部尿道炎に罹るとき無條件で起るのだが、健康な場合にはいろいろの原因があつて、前部尿道炎にかゝつてゐる者が、刺激性の食物を多量に摂取したり、飲酒したり、性交したり、過激な労働をしたりすることにより、後部尿道炎となるのである。

然し前部尿道炎はいふまでもなく、後部尿道炎でも急性淋病であるから、治療法宜しきを得るならば、四週間はまたは八週間は全治するが、これをこらせると慢性となつて、却々治らないのみでなく、色々の恐るべき病氣を誘發することになるのである。

慢性淋病の特徴としては時々尿が濁り、淋球を混へる外、朝は尿道口が赤がつてゐることさへあるが、大體において別に自覚症はなく、時として痛痒を感じたり、膿液や約感を感じる位のものである。

また小便が二三筋に分れて出たり、性交時の快感を減じたり、尿の性状を起したり、精液、膿液、膿液、膿液、膿液なども慢性淋病の特徴の一で、その結果は神経衰弱に陥つたり、尿道狭窄症を起して、非常に苦しんだりするのである。

第四節 淋病の治療

淋病は性病の中で最も歴史が古く、数の上からいつても、性病の七八十パーセントは淋病で占めてゐる程だが、これであつて梅毒に對する六百六六のやうな特效薬はまだ発見されてゐない。そのため罹病すると鉢ヶ野手に、いろ／＼な手術を試みることにもなるが、何んといつても根治の病氣だから、素人職工でコソ／＼やつてる中に病勢はズン／＼進んでしまふ。さうなつては治療は一層困難になるから、「やられたな」と思つたら、一日も早く醫者の手にかける方がよい。

醫者は淋病患者に接すると、先づ内服薬を與へる。コバイベベルサム、白濁油、ナレピン油、ダソロール、ヒソッカ・カワカワなど、いろ／＼あるが、何れにしても長等を服用すると尿中に溶解し、淋菌の繁殖を妨ぐと同時に、痛みを癒める効果があるから患者は餘程樂になる。然しこれだけでは無効淋病は根治しない。そこで更

らに局部の外科的療法を行ふことになるのだ。

その方法としては洗滌、注入、挿入、熱及び電気療法などが主として行はれるのである。膿液を局部に注ぐのが洗滌及び注入法で、これにはヒソングアール、ラルゲン、アルバルキン、アルゴモン、プロタルゴール、イヒチナール、過マンガン酸加里、硝酸銀、青酸、化学、硫酸アルリン、明礬などの多種多様な薬物が使用せられ、病氣の程度、時期、患者の體質などによつて、最も適當と思はれるものが採用されるのだ。

薬物によるときは、勿論殺菌の目的は達せられるが、淋菌は粘膜の表面ばかりにゐるものでなく、粘膜下の組織内にも侵入してゐるから、これを殺すには相當強度の薬品を用ひることが必要となるのだ。ところで薬が餘り強いときは尿道を殺すと共に、粘膜の組織をも痛めつけるから、無闇に強度の薬品を使用する際には行かないのである。

電気療法や熱療法は機械を用ひるものであるが、この兩者を比べると熱療法の方が、内部深く血管にまで作用して、表面よりも内部に至る程度を増す關係上、徹底的に殺菌の目的を達することが出来るので歓迎されてゐる。その上熱療法によると鎮痛作用も行はれ、白血球を多く生じて新陳代謝を盛んならしめ、血液や淋菌の繁殖がよくなるから、全身の健康にも良い影響を及ぼすのである。

マタリヤ療法といふのもある。淋菌は四十度以上の熱に逢ふと死滅するから、この性質を利用し、マタリヤ熱の熱を患者に移し、人工的にマタリヤ熱病者とし、四十度以上の熱を設せしめ、患者の肉體に集く淋菌を死滅

せしめる方法だ。或る専門家の報告によると、この療法は六十五パーセントの効果があるといふから、大いに利用してよいのだが、たゞ一つ健康な患者でなくては危険が伴ふといふ缺點がある。

淋菌ワクチンを患者の血液管内に注射し、血液には淋菌に對する抗毒素を作らしめるといふワクチン療法もある。種痘によつて天然痘を豫防するのと同じ理窟の方法だが、これによつて出来る抗毒素は、種痘のやうに効力ではないから、完全な療法とはいはれないのである。

第五節 是れだけは心得置くべし

以上に述べる如く淋病は性病の中でも非常に頑固なものであり、恐るべき害を人體に與へ、且つ難治の痼疾である上に、完全な根治も今のところ發見されてゐないが、さらばといつて決して不治の痼疾ではないのだから、初期のうち早く醫者に相談して、適當な手當を受けねばならないが、醫者に任せてさへ置けばそれでよいといふ譯のものではない。治療の方は醫者に一任するとしても、患者自身においてもまた積極的になくはならぬ。折角醫者が骨を折つても、後から患者の方で打ち壊して行くやうでは、いつまで経つても治るものではないのだ。先づ淋病患者は、アルコール性の飲料を嚴禁せねばならぬ。サイダーやソーダ水もよくない。刺激性の食物、脂肪に富んだ肉類なども感心しない。それと反對に水や湯や牛乳などを成るべく多量に飲んで、尿量を増やすこと、果物特に西瓜は利尿の效があるから、出来るだけ食べるやうに勤めたい。

過激な運動や旅行は勿論禁物だが、軽い運動は便通を整へる上には必要である。不潔にすることはよくないが、湯をしたり熱い湯に入つたりすることも避くべきだ。殊に身體を冷やすこと、寒風にかゝることなどは、直接病勢を尤進せしめる原因となるものである。

淋病にかゝると膿のため尿道が刺激され、平生よりも一層性感を増すものであるが、その感に驅られるまま性交すると、淋菌がいよゝ／＼深く侵入するばかりでなく、相手方にも傳染せしめる恐れがあるから、病中の性交は絶対に禁止せねばならぬ。

第九編 男女法律の巻

第一章 婚姻と法律

第一節 效力のない結婚

社会的経済的の最も根柢的な形は家族であり、その家族は結婚から成立つものだから、男でも女でも結婚の努力で相手を探し、配偶に選擇すべき者のものだが、現在のところではこの重大事を、極めて手近なところから手廻りに決めて終ふ傾向がある。

つまり問題は自分には結婚する意思なく萬事人任せで、親のいふ通りになつてゐる習慣が抜け切らないから、選擇する機会を奪はれ親を驚がれて、一家の犠牲になるやうなのが、特に女性の方に多いことを否認しないといふことだ。

これは親戚での話だが、結婚には必ず六禮といつて問名、訂盟、納采、納幣、請期、親迎の六度の手續を経て、始めて結婚が成立することになつてゐるが、この中の訂盟といふのは内地でいへば見合のことだ。どういふ工合にするかといふと、男には親がついて女の家へ出向き、花婿候補者の顔を見るのだ。

このとき親は支障の方を向いて、椅子に腰を掛けてゐる。男の親は先づ娘の手を握つて見るのだが、若しそれが柔かくて肌が細かであれば、親相だといふので合格の印に、金と赤で巻いた指輪を娘の指に嵌めてやり、手付金を置いて歸るのだ、かうして訂盟は済むのだが、見合といつても本人同意がトッリと顔を見るのでなく、甚だ頼りない見合だ。しかも一度訂盟が済んだ以上は、後日に至つて双方とも異議を申立てることは出来ないものであるから、全く花婿の親が顔をもらふやうな形になるのである。



それにはまたこんな話もある。或る片親の娘と、娘の息子が見合をした。そのときは娘は腹から半分腹を出し、男は椅子に掛けたまゝであつたから、お互に片親であり親であることは判らなかつた。それが後日に至つて腹割となつたのだが、仲人のいふこと「三人で五つの腹で見たのだから、後で足が長い短のといふな」つまり親で決めたのだから、後で文句は無い筈だといふのだ。

インチャでも何でも親戚政治は絶対である。

こんなことをいふと「そんな馬鹿な話か」と笑ふ者もあらうが、それこそ自身が愚考を笑ふ類ではあるまいか。内地の女性にしたところで、結婚といふ人生の一大事を、大抵は親のいふなりになつてゐるのである。それが必ずしも悪いとはいはぬが、結婚後に幸福ならばそれでもよからう。たゞ無定見無思慮で嫁入して、そ

の彼で送られるが、あまりに多いことが憂慮されるのだ。嫁いで見ると、夫は十五も年上であつた——仲人口と違つて、本人は無教育であつた——夫には他に情婦があつた——無教育であつた——嫁れた彼氏が思ひ出されてならない——夫への不満から、フィリッとする夫の弟と愛し合ふやうになつた——かうした思ひや悲しみや苦しみに、嫁み抜く女性が多過ぎるのである。

これは本人に結婚の意思がなかつたといふことよりも、慎重な態度で結婚しなかつた結果の場合も多からうがその大半は本當に當人に結婚する確かな意思がなくて、薄もなく嫁入したところから生ずる悲劇だ。法律は結婚の條件に、いろいろと厳格な規定を設けてゐる。それは民族の繁榮、國家の隆昌といふことが、一に結婚生活にかゝつてゐるから、嫁が上にも完全な結婚關係を、作らせたことの精神から出たものである。

さうして一旦成立した結婚は、なるべく維持せしめる方針になつてゐる。この嚴重な態度の中でたつた二つの無効の場合を認めてゐる。一つは結婚前を出さなかつた場合であり、もう一つは、當事者に結婚を爲すの意思のなかつた場合である。

然しこゝにいふ「結婚の意思のない」といふ意味は、三々九度の面を交はす意思のないこと、その人と夫婦になる意思のないことをいふのであるから、黙々のうちでも、暫時的でも、兎も何一旦夫婦關係の面を交はしたが最後、法律は最早「結婚の意思」はなかつたと言はさないのである。

第二節 自由結婚を忘れた戀愛當事者

社會的な運動の方面においてばかりでなく、インテリはあらゆる場合に果敢な者といはれてゐる。女性においても聰明な現代の女性は、一つのものを完成させやうとする努力が強いやうだ。結婚においては殊にさうである。

實際的な現代の女性は、貞操觀念などはブルジョア階級の價值しかないやうに考へ、そのやうに取扱ふことを誇りとする反面に、結婚などいふことも全く馬鹿にしてかゝつてゐる。だから適當な男性を見出しても、尙くまで彼と一しよに成らうといふ意に乏しく、彼を想ふ胸の奥底には三分ほどは、彼以外の男性を思ふ心に占領されてゐるのである。

その上割合に古風なところがある。この古風とは打算的といふ意味だ。だから聰明な女性は、打算的に見える場合が往々ある。彼との結婚を兩親が反對した、或は兄弟が反對したとなると、彼との婚約を簡單に見切つてしまふ。そして意外な方面に脱身して、人々の愕然たる間に、平気で見合結婚をするといふ實例は決して少くないのである。

さらに軽い女性になると、戀愛を完成しやうとはせず、わざ／＼墮落して兩親や兄弟や、罪のない愛人にならざるを得ない。その上軽い女性は簡單に脱身して、三原山參詣ともなるのである。

日本の法律では女性が二十歳になれば、両親の承諾はなくても結婚が出来ることになつてゐる。これが自由結婚と稱するもので、入籍の手続に両親の同意がなくても、立派に婚姻届は出来るのである。事實上の結婚生活はいつでも出来る。年齢に制限はないのだから、本當に相手の男を信じ、そして本當に相手の男がよい人であるならば、戀は飽くまでも終りを究うして、勇壯に自由結婚をすべきである。

かういつたからとて、何も初めから無理をせよと勧めるのではない。誠意を盡して両親の諒解を求むべきは勿論だが、如何にしても承諾を與へてもらへない場合をいふのである。この場合從らに離縁するのは早計だ。法律はその衝突を考慮に置いて、男子は三十歳、女子は二十歳に達したならば、離縁結婚して差支なしと、誰かの手を差しのべてゐるのだ。

このやうに正しい戀愛ならば、嚴しい法律でさへ同情して呉れてゐるのだ。二人があくまで正しく眞面目であつたならば、如何に頑固な親達の心も柔くであらう。要は一つのことを完成せしめる意志を持つことである。

二十四歳になる處女、小さいときに父に死別して後は、母と兄との二人暮らし、父のゐない後は、兄が一家を支配するやうになつて、私と兄との性が合はず、果すれば私を御へ付けやうとする兄に對して、何か反抗せねばゐられない氣持になり、一緒に生活するのが苦痛になつた。そのため私は女學校を卒業した年、母が極力反對したけれど、一人立ちする積りで上京して、或る職業に就いた。

私は兄と一しよの生活を考へると母には濟まない氣がするが、東京に對つてゐる或る青年と交際してゐる。

彼は大學前日な青年なので、一生を託しても考へてゐたところ、最近彼から、もう僕も三十になつたのだから、親達に相談して結婚してくれと申込んで来た。然し形式で頑固な母や兄に相談すれば、反對されるにきまつて居り、きつと連れ戻しに来るだらう。それで僕とも相談しないで結婚したいと思ふがどうだらうか。彼は正式な手續を履まない結婚だからといつて、決して私を欺くやうな人間でないことは信じてゐる。

これは都新聞の婦人相談欄に持ち込んで来た女性の煩悶の一つだが、二十四にもなつて相當親類あり、實社會の風習にも當つた女性であつて見れば、相手の青年に欺かれるやうなことはあるまい。果してさうだとすれば、こんな場合には先づ母や兄に相談し、重婚罪も承諾が得られないなら、あと一年待つて法律の許す自由結婚を行へばよい譯なのだ。法律を知らないから、いろ／＼と迷ひが生じて来るのも無理からぬことである。

第三節 一人娘には辛い結婚

毎日のやうに新聞の社會面を汚してゐる三原山病患者や、青酸加里心中病患者の中には、一人息子と一人娘同志といふ身分の者が甚だ多い。世の中は廣いやうでも狭いといふのか、僕は異なものといふのか、こんなに多く似合ふ二人はないといはれる程の青年男女が、一方は長男で家の後取り、一方は一人娘で他に餘にやることは出来ないといふ、因果な組合せも少くないのだ。

大體世の中は男と女の社會で、何れも相手を試しがつてゐるのだから、結婚はいつでも出来ねばならぬ筈のも

のでありながら、實際は一度好意を取り違すと、二度目のチャンスはなか／＼やつて来ないものである。そこで老練な年寄達は、双方とも相續人といふやうな場合は、親戚から男の子を一人借用し、戸籍面はそれを養子にしらへ、娘を愛人の計へ嫁がせたり、さうかと思ふと先づ事實上の結婚だけをさせて置いて、二人の間に生れた子供を實家の後取りにして家名をつがせ、同時に娘の籍を抜いて、事實上の結婚をそのまま、法律上の結婚に移したりする者がある。



こんなのは明かに戸籍を弄ぶ譯であり、法律の上からいつても親戚の届出をやることになるから感心出来ないが、法律を犯すやうな行爲をしてまでも、好いた男と一しよにして呉れるやうに、理窟ある術策を持った娘は幸福といはねばならぬ。世間の多くの罪業はかかる場合、總領息子だから婿にはやれないとか、一人娘だから嫁

にはやれぬとかいつて、果ては取返しのつかぬ悪戯に陥るのである。尤もこれは法律上からの理由のみでなく、經濟上の理由のある場合もあらう。法律上の理由の場合ならば、家督相續人たるものは、他家に籍を移すことは許されない。それはチャンスと規定されてゐるのだから仕方があるまいが、それでもこの規定の終りへもつて来て、かう書き加へてある。

「正當の事由あるときは、相續人は親族會の同意を得て、その職階を請求することを得」といふのだ。しかも大

同族以上には、理解のある今日の裁判所は、一人娘が他家に籍を移さうといふ場合には、この「正當の事由」に當てられるものと解釋してくれるのである。

つまり一人娘の嫁入については、今日では法律上實際には故障がなくなつてゐるのだ。一人娘だから、後取息子だからといつて、夫婦になれぬことを懸念し、三原山忠者となる必要は少しもないのである。従つて子を思ふ親心から、姑息な遺法手段を弄して、遺留の届出をする必要もない譯だ。正當な手續により、親族會の同意を得て裁判所に届ひ、相續人たるの地位を請いてもらへば、それで解決はつくのである。

先づつて某市の警察署で、百二十七組の内縁夫婦について、何故結婚届をして正式な夫婦にならぬかと、その理由を調査したところ、男女共に戸主または相續人の地位にあり、他に入籍出来ないといふのが五十組もあつた

これで見ても結婚といふ一大事を前に、一人子であるための懸念と弊害が想像以上であることが判るであらう。この種の内縁關係にある夫婦ならば、事實上結婚してゐるといふことを理由に、相續人の地位を解除してもらつて、正當な法律關係に置くやうにすべきだ。少し位の手数を面倒がつて、いつまでも内縁關係のまま置くより以上に面倒なことや、不利なことが生じて来るのである。

第四節 内縁では退職手當ももらへない

そよ／＼と秋風が立つて、日本國中の紳士が出世の國に集る頃にもなると、我國では結婚シーメスに入つて、

方々の神前から、町の祭壇から、幾組となく華やかな結婚の男女がスタートする。

正月を目前にして、結婚適齢の娘を持つ親達の間に嫁が打つ、可愛い娘がまた一つ年を取るからだ。そこで本人よりも親の方で、早く嫁を片付けたいと焦り出す。いろ／＼と奔走の毎旬仲人口よりしくあつて、見合も目出たく済まし、結婚を取交して賀道吉日を下し、晴れの結婚式が挙げられる順序となるので、社会の習慣から見れば、かうして立派に三々九度の面を取り交した以上、もうそれで間違ひもなく、一對の夫婦に相違なく、當面からいつても、これ以上に正式な結婚も夫婦もない筈である。

ところが法律の上では、三々九度を百重纏わり返したところで、結婚届を役場に提出しない以上は、夫とも妻とも認めては呉れないのだ。社会の習慣と法律とが、こんな風に懸け離れてゐることは甚だ不合理であり、不都合でもあるが、現在のところ何うにも仕方がない。理窟は後述にして法律の規定に従ふより外はないのである。

若し従はなければ何うなるかといふと、事實上結婚はしても、結婚届を出さないうちは、隠子とした妻でありながら、内親の妻といふやつで法律は、これを妻として取扱つてくれないのだ。

尤も現在でも内親關係の夫婦にして、夫たる者が悪意を以て妻を捨てた場合、裁判所は特別の同情をもつてその内親を救済しては呉れるが、たゞそれだけのことだ。

子供が生れたところで所謂私生子だ、幸ひ承主が認知してくれたとしても、僅かに庶子に出世が出来ただけで事實上立派に夫の家の相続人たるべき身分でありながら、家督を取ること出来ないのである。それに若し結婚

届をしないうちに夫が死亡した場合は、如何に立派な親族主に相続し、如何なる方法を講じたところで、今の法律では夫の子として届ける方法はない。永久の私生子となるのだ。

夫が官吏、軍人、職工などで死亡した場合、法律關係の夫婦ならば妻は政府の保護救済を受けることが出来るが、内親ではこの恩恵にさへ與かることは出来ないのである。また昭和十三年一月一日から施行された、工場労働者の退職積立金並に退職手当法を見ると、女子労働者が、結婚によつて退職する場合、特に退職手当を事業主から支出することに規定されてゐるが、その明文に「一行半ほどの但書がついてゐる。それは何かといふと、「六ヶ月以内に結婚の事實を證明し得ないときは、手當は支給しなくてもいい」といふのだ。ところでこの結婚の事實を證明するには、正式に結婚届を出して入籍し、その戸籍原本を事業主のところへ持ち込むより方法はないのだ。従つて結婚届を怠れば結婚の事實を證明する材料はなく、折角もらへるべき結婚手当金ももらへないといふことになるのである。

かういふ例を挙げるならば、法律上からも事實上からも内親關係から生ずる不利益は限りなくなるであらう。そこで政府でもこの不合理を除くため、法律の改正に着手してゐるけれども、なか／＼名案はないさうだ。

第五節 結婚の豫約取引と法律

「結婚は戀愛の裏面だ」とうたつた詩人があつた。だからといつて戀愛はたゞ戀愛のみに終つてよいものであら

うか。四十五十になつてまで、戀愛に浸り得る女性があるとしたら幸甚かも知れないが、親に小遣が寄る年頃になつて、色慾沙汰に身を墮してゐられる女性があつたら、世間は其の常態を疑ふに違ひない。

戀愛はバツと吹いた花だ。當然實を結んでこそ、その本然の姿ではなからうか。この意味から戀愛から婚約へ婚約から結婚へと一筋の筋を辿むことによつて、恵まれた戀愛なのである。ところが世間の實際を見ると、初戀の成就した例は甚だ少いのだ。中學四年のとき女學校三年の十六の娘と戀に落ち、互に將來を誓つたが、今日に至つて婚約は取消したいといつた例は餘りにも多いのだが、一旦約束した婚約を、後日に至つて取消してもよいものであらうか、破約した者に對する法律の制裁はないものであらうか、何とかして是れないものであらうか、かうした心配に悩む女性も少くないやうだ。

改まつていふまでもなく、「將來夫婦になりませう」といふ婚約は、結婚の豫約であつて、親と親とが約束した所謂「許嫁」とは性質が違ふのである。外國では婚約に關する規定を設け、若し約束を破つた者は、相手方やその親族に對し、一定の損害を賠償し、また破約された者は、既に相手方に捺した婚約の印の返還を受けることが出来るといふ風に、法律を以て當事者を保護してゐる國がある。

ところが日本の今日の法律では、婚約豫約については何の規定も設けられてゐない。裁理所で結婚の豫約といつてゐるのは内親の夫婦のことで、捨てられた女を救済するために案出された、法律技術的のこぢつけに過ぎない。本當の意味の婚約とは違ふのである。従つて婚約を放棄したところで、法律的には何等の制裁も受けること

はない。

「愛、あと一年で年が明くのよ、そしたら貴下の女房になるわ、見せてないでね、きつとよ」

この口癖で一ダース程の遊治郎を手に取つたお女房が、いよ／＼年が明いたとき姿をくらましたところで、誰がその不誠意に對して法律的の制裁を請求する者があらう。かうなると親族の殺文句も、セーター服の女學生を騙した中學四年の同輩少年の戀の憂きも、何等變りはない譯だ。



だから婚約者と一しよになることが、本當に二人の將來を幸福にするので無いことが判つたら、十分誠意を披瀝して相手方の諒解を求め、後顧りのないやう繪圖に別れてもらふがよく、またさうした相談を持ちかけられた者は、無い義と認めて手を切るより外はないのである。

尤も同じく婚約放棄でも、それが自分の我儘からとか、相手の名譽や地位を傷つけるやうな遣り方で解消したとなると、また別な意味から相當責任を負はねばならぬのは勿論である。殊に一旦婚約を取交はしたり、摺入をしたり、更らに進んで摺入までした婚約を放棄したとなると、その解消の理由が正當と認められない限り、相當の損害賠償に應じなければならぬのである。

第六節 結婚詐欺と法律

世の中が世智辛くなると、神聖な結婚までを詐欺の種にする「世の紳士」も横行するのだから、油断も振もあつたものでない。尤もかういふのは騙す男の罪状よりは憎んでも餘りあらうが、一面また騙される方も、あまりに無智であり軽率であるから、ついその毒牙に引つかけられることになるのである。

それも「騙す積りで騙された」といふ言葉もある通り、眞と偽の寄合ひのやうなものの中にあるが、たとへ一方だけが騙されて結婚したにしても、その結婚生活が長く続くなら諦めやうもあらうが、結婚するといふ口に乗つて、二三日ばかり弄ばされた上、賄賂を獲らず捲き上げた上乗てられたり、闇窟へ賣り飛ばされたりしたのでは泣くにも泣けない惨めさだが、これが世間には決して少くないのだから、用心の上にも用心をすることだ。

「求愛、當方士族血統正しく初婚三十三歳、大學生の官吏系無し、二十歳より三十歳の人を求む、身分支度等詳す人物本位、詳細本局留置何某」などいふ求婚廣告は、どの新聞を見ても毎目新を並べて三行廣告欄に出てるが、こんなのは少しもあてにならない。それを正直に信じて會見し、あたら直操を失ふ女性もあるかと思へば、金儲主義の仲人に騙されて、飛んだ目に逢ふ女性も甚だ多い。被害の少いものに至つては騙で騙させるほど澤山あるのだから、仲人口などは虎の穴のやうに心得てゐる方が安全といふものだ。

相手は醫師で先妻に死別し、母親と二人で家事が不如意だからといふ仲人口に乗せられ、同様して見ると醫者

といつたは眞赤な嘘であつたばかりか、田舎から正妻と名乗る女が、子供を二人まで連れて上京して来たため、一悶着が起つたといふやうな記事が、最近の新聞にも載つてゐた。

本當に結婚する意思もないのに、女を籠絡して虎の子の賄賂を捲上げ、あとはボンと投げ出すといつた手口は所謂結婚詐欺で、被害者が告訴すれば相手は刑法上の罪となるのだ。

また民事からいふと、不法行為による貞操毀損だから、損害賠償の請求が出来るのであるが、結婚詐欺の常習者などは、煮ても焼いても喰へぬ手合だから、訴へたところで一文も取れる筈はない。こんな狼のやうな手合は別として、相當地位のある者とか、それ程でなくとも普通の生活をしてゐる者から騙されて結婚し、婚姻届まで出してしまつた場合はどうなるであらうか。

法律は詐欺や脅迫によつて結婚したものは、その結婚の取消しを裁判所に請求出来ると規定してゐる。然かしこの請求は騙されたり、脅迫されたことを知つた日から、三ヶ月の間になければ無効だ。騙されたことに気がつきながら、メロ／＼ベツタリに遣りつ放して置いては、裁判上の取消は出来なないことになるのである。

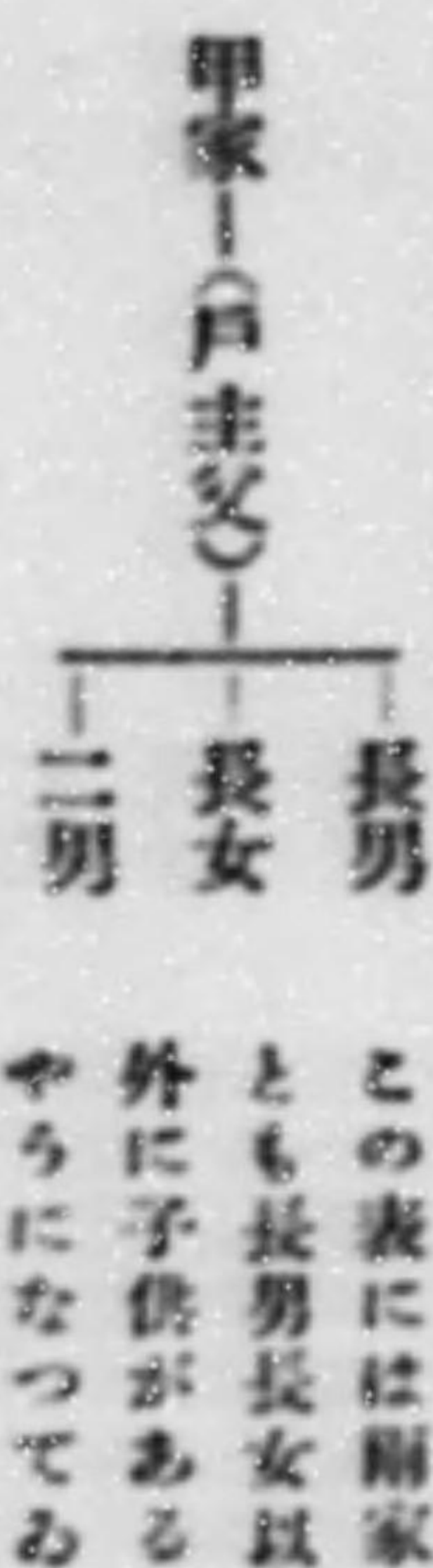
第七節 結婚出来ぬ時の法律上の手續

世間には法律上の手續を踏まなければ、結婚の出来ない場合が往々あるし、また家督の相続といふ問題についても、いろいろと面倒な問題が起るものだ。

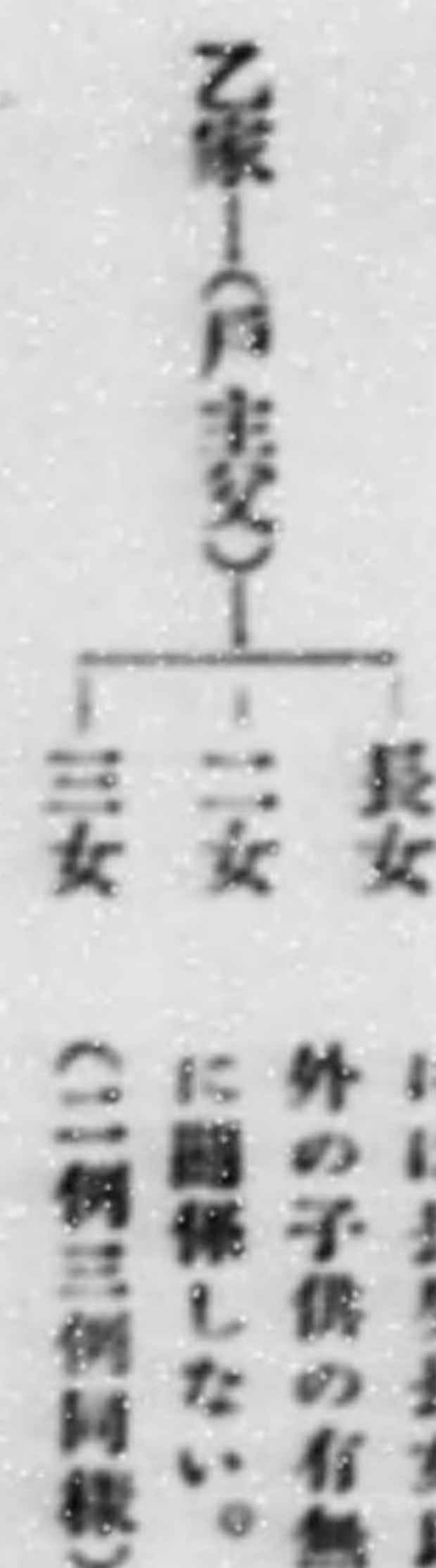
法律的地域から既婚に説教したのでは遅くなるから、こゝでは誰でも心得て置かねばならぬ常識について、少々述べて置かうと思ふのである。

長男と長女同志の結婚 甲家と乙家とがあつて、或る事情のため甲家の長男が、乙家の長女の許へ婿子にならねばならぬ場合もあるものだ。尤もこれは第一例に示す如く、乙家は女の姉妹ばかり、語り當人達が双方とも家督相続人である場合の話である。

かういふ場合に甲家から乙家へ入婿しやうとするには、男の父親(戸主)が原告、その息子が被告となつて裁判所へ廢嫡の訴訟を起さなくてはならぬ。

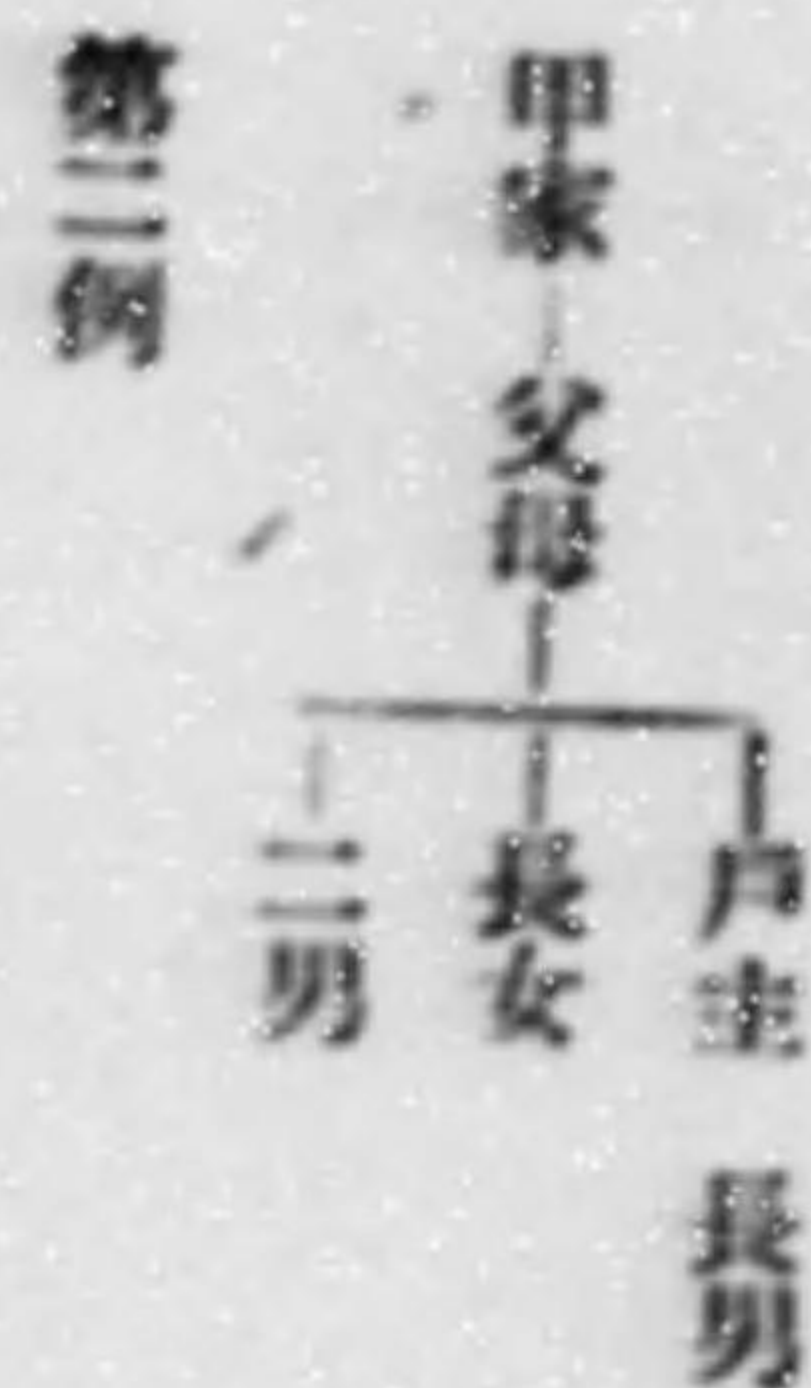


この表には兩家とも長男長女以外に子供があるやうになつてゐるが實際の場合には長男長女以外の子供の有無に關係しない。

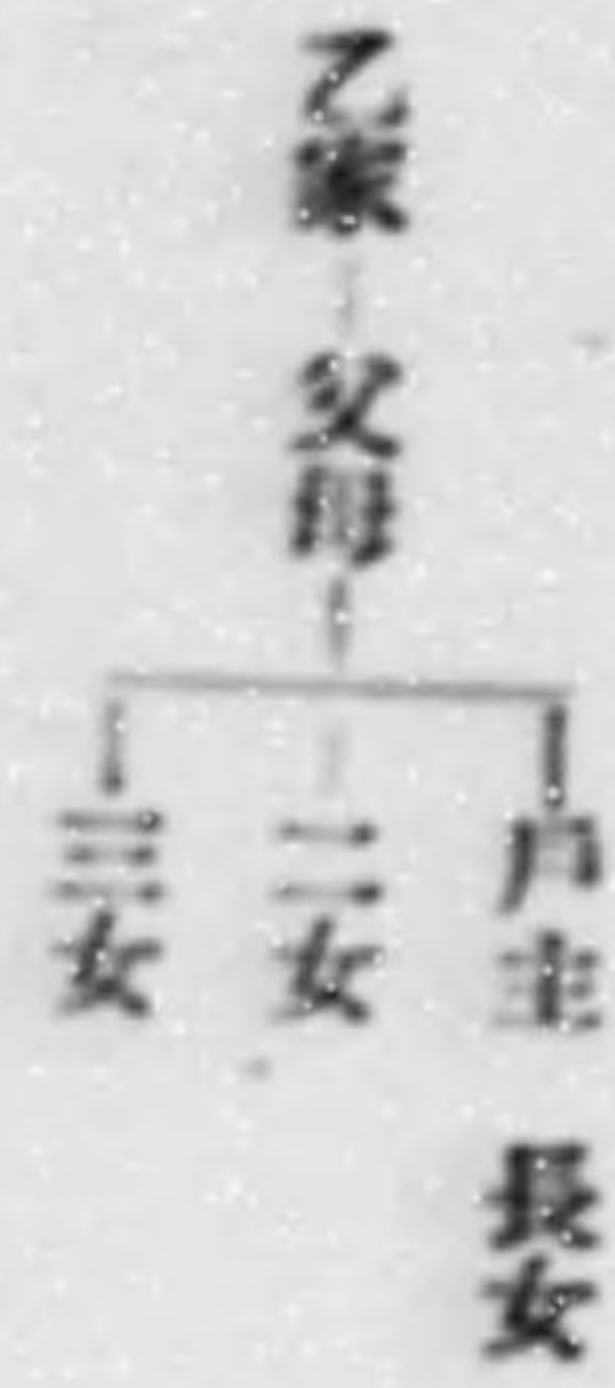


男親と長女で共に戸主同志の結婚 第二表は男が戸主で兩親や弟妹等の家族のある甲家と、同じく女も戸主で同様に家族のある乙家との場合を示したものである。即ち甲家の戸主も妻を失ひ、また乙家の戸主も夫を失つた場合である。つ

まり双方とも夫たり妻なりが死んだまたは夫婦別れをすると、かうした關係が生じて来るものだ。ところが戸主同志の結婚は、法律的には認めてもらふことは出来ない。然かし家督相続によつて戸主となつた者は、その家を廢することは出来ないが、男の戸主が相手の女戸主の家へ入婿したいと思ふならば、病氣其他を事由として、自分の家は弟なり、其他適當な人を養子に立て、戸主權を譲り、自分は廢居することにして裁判所へ申請すれば、許可してもらへるのである。



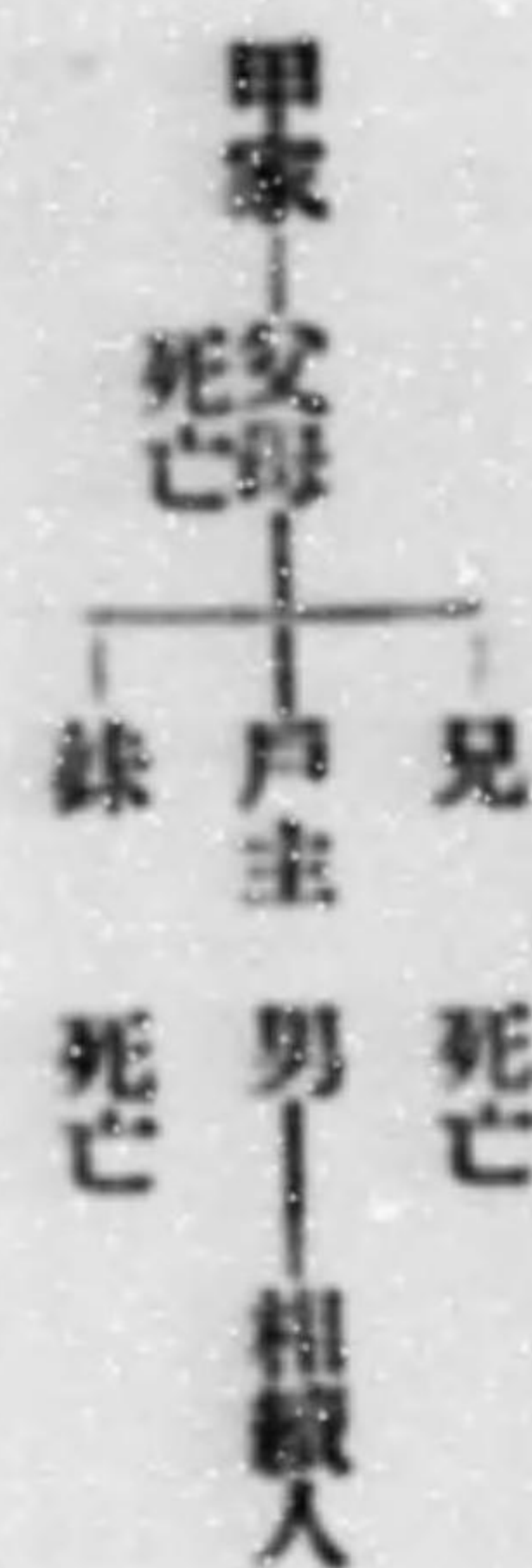
また女戸主が他の男戸主と結婚したいと思ふならば、女戸主の場合の廢居はいつでも裁判所で許可してもらへるから、勝手に廢居の手續をとつて、相手方へ嫁入することが出来る。この廢居上の手續は、たゞ戸籍吏に届出さへすればよいのである。



廢居といふことは法律では、滿六十歳以上の場合は、各自の自由といふことになつてゐるから、六十歳以上であれば男戸主の場合であつても、何等法律上の手續を必要としないから、いつでも廢居して女戸主の方へ入婿出来るのだが、そんな年頃になつての結婚は、まづ／＼無いものといつてもよいだらう。

單身戸主同志の結婚 自分は戸主の身分であるが、家族は幾らず死亡した後、他の女戸主の許へ入婿したいといふ場合がある。自分が出てしまへば、その家は潰れる譯だから、法律はこれを許さないが、若し親戚の者か誰かを適當な相続人に指定し、自分は前述第二例の場合と同様の方法で廢居すれば、目的の女戸主の許へ入婿す

第九編 男女法律の巻



第二例

乙家—戸主—女—相続人

自分が分家した女の場合だと、自由に家を出ることは出来るが、親の家を相続した女の場合になるとさうは簡単に行かない。家を出ることは許されないのだから、適当な相続人を指定し、自分は隠居の形式を取った後でなくては、結婚することは出来ないのである。

自由結婚の場合 結婚は家にある両親の同意を得た上でなくては成立しない。従つて事実上の夫婦生活が行はれて居つたとしても、双方の両親の同意がなければ、法律上から見ても正しい結婚ではないのだ。

また社会的立場から見ても、自由結婚は何となく薄つべらで、餘り感心したものでないかも知れない。それで正式の夫婦にならうとするには、何うしても両親を説き伏せて、その承諾を得なければならぬが、これには年齢に制限があつて、男子ならば満十七歳から二十九歳まで、女子ならば満十五歳から二十四歳までとなつてゐる。それ以上の年齢になれば前にも一寸述べた通り、両親の承諾はなくとも、自由結婚の形式によつて正式に婚姻をなし、重も角晴れて夫婦になることは出来るのである。

ることが出来るのである。

これと反對に乙家の女戸主が、甲家の男戸主のところへ嫁入する場合は大分面倒だ。例へば、出戻りの娘が分家した場合の如く、自分が新しく分家して戸主となつた場合と、さうでない場合とによつて、法律上

の手續が違つて来るのである。

内縁関係の場合 正式に仲人を立てて式を済ました結婚であつても、戸籍面に書入れを怠らぬ中は、その妻は正式の妻ではないのだ。これも前に述べた通りである。

世間では正式に結婚を取交し、正式な式を挙げて結婚したのに、何年かの後に自分が正式の妻でなくて、内妻であることが判り重畳るといふ例は少くない。よく田舎などでは呑気だから、用出をすることを忘れることがあり、巧妙な詐欺結婚の場合などは、故意に用出をしないで置いたりするものであるから、かうした法律上の微妙な事情は、目明から常識として心得て置かねばならない。

第八節 妻から離婚を要求された人々

同居に堪へぬ妻 或る男は、正當な理由なくして、長さ二三尺、直徑一寸位の竹棒で妻を殴りつけ、倒れたのに嘸して尙ほ厭罷ばした。こんな行爲はたとへ一時の憤激の結果でも、また夫婦間の不和合の結果でも、妻を倒す處ではないといふので、離婚を餘儀なくせられた。

この男にしたところで、離婚までする氣でなかつたことは、妻から訴へられて二年の間、法廷で争つたことが説明してゐる。何かといへば、二言目には、妻を打つたり蹴つたりする良人にとつてはよい戒めだ。尤も「正當の理由なくして」であるから、妻の方に打たれたり蹴られたりするやうな落度のあるときは、妻に對する虐待にはならぬといつて、野蠻な制裁を加へるなどは勿論要められた話ではない。



或る男は、結婚生活十八年にもなつて、妻との間に不和を生じ、時々殴りつけることがあつたが、この男が或日強か酒を飲んで歸つた末、妻が一寸たしなめた言葉に腹を立て、暴力を以て表裡にした。これには妻の方でも堪忍の緒を切らせ、裁判所へ離婚の訴訟を起したところ、男は遂に、妻は他の男と姦通してゐて、自分と別れたために事實無根の事を捏造したと訴へて抗辯した。裁判所で訊べて見ると、男の抗辯は出鱈目であるのみか、相當嫉妬心の深い男だから、妻を打つたり表裡にする位はやり兼ねないだらういふことになり「同居に堪へない處待であるから、離婚の原因となる」と判決された。酒の上だから粗暴してよい譯はない。泥酔した上に暴行すれば、罪は二重になる。

器物で殴打したり、足で蹴つたりするなどの、體力を用ひた暴力だけではなく、例へば数年の久しい間、理由なくして妻に一家から出ることを禁じたり、口を利かなかつたり、性生活を回避したり、性的暴虐を加へたりする行為なども、離婚を請求する理由となるのである。

また妻を殴打したにしても、非常に健康な妻と病身な妻との間では、だいふ事情が違つて来る。健康な妻ならば問題にならないやうな軽いことでも、病身な妻に取つては、十分同居に堪へない虐待となるのである。同様に妻を擧にする場合でも、片田舎の一軒家と、東京の眞中とは餘程事情が違つてゐるし、上流の家庭と

始終馴み合ひばかりしてゐる下層の家庭では、その標準は同一でない。華族や名門の中に、普通の家庭ならば問題にならない程な、ホンの些細なことを法廷に持出して争ふことのあるのは之れがためだ。

同居に堪へぬ重大な侮辱 或る男は、妻と妻母の二人を相手に、些細な事から、口論して突然家出し、他の女と内縁の夫婦となり、その女の名義で商賣を始め、一年半ばかりも家へは寄りつかなくなつた。この場合男の家出には相當の理由があり、また他の女と同棲したことも、生活上已むを得ぬものであつたに拘らず、是等の行為は妻に取つて重大な侮辱であつたから、裁判所に訴へて離婚してしまつた。

或る男は、かねて脚氣の癩癩を身患し、妻として困つたため妻との間に不和を生じ、離婚の訴を起された結果、妻の主張が通つて離婚が成立した。このとき裁判所では、かういつた現代の社會生活では、婚姻以外において、これに類似の共同生活を目的とする。所謂妻といふ私通關係は認められることは出来ぬ。夫婦は互に誠實を基調とし、共同生活の平和と幸福に協力すべきもので、妻を持つて妻を顧みないやうな行爲は、善良の風俗に背くばかりか、妻の名譽を害し、妻を侮辱するも甚しいものであると言つた。世の浮氣男たる者は用心せねばならぬ。

或る男は、妻が小姑と折合がわるく、家庭の調子が保ち難いので、縁合の上妻を實家に歸してゐる間に、女中として雇入れた女に手を出し、子供を生ませたが、これが妻に對する重大な侮辱と認められ、訴へた結果夫婦は離婚した。妻が實家に歸つたのは良人との不和のためではなく、小姑との和合を缺いたためであるから、

男は別居後、妻に堪へかね、しばしば妻に對して復讐同様の切迫したが、妻はこれに應じなかつた。かうした良人に同情すべき事實はあつても、女中に手をつけて子を生ますことは妻に對する重大な侮辱だ。妻の訴へによつて結婚解消となるも已むを得ないだらうが、世の中には女中に生ませた子を、妻の子として届出てる者も少なくないやうだ。こんなのは更らに重大なる侮辱である。

或る男は、來客の前で、自分の女房が罵詈雑言を口外したため、妻は重大なる侮辱を與へられたものとして離婚の訴を起した。他人の面前で妻が罵詈雑言を働いたなどいひふらすことは、常識から考へては事實の有無に拘らず、妻に對する重大なる侮辱だ。離婚を請求されても仕方はない。

良人のかうした行爲は、妻その者に對する場合のみでなく、妻の祖父母、父母などの直系尊屬に對して加へた場合も、妻に取つては同様に堪へぬほどの重大な侮辱となる。例へば他人に向ひ、愚妻の父は前科者だなど口外するなどは、立派に離婚の理由となるのである。

また自分では妻を虐待しなくても、自分の直系尊屬である祖父母や父母が虐待した場合も、同様に「同居に堪へぬ云々」の賣刀を抜くことが出来る。姑が無能に働いびりなどをやると、可愛い息子の女房から、いつ離婚の訴を起されるかも知れないのだから、この點姑婆など十分頭に入れて置くことである。

悪妻を以て懲罰 或る男は、他國へ出張に行くといつて家を出たまま、自分が仕送りしなければ残した家族が食つて行けないことを知りながら、二年間一文の遣金もせず、一本のハガキもよこさなかつたので、その妻は

懲罰に捜査官を出したが、遂に行方不明といふことになつた。これは家を出る當時から、既に悪意を以て妻を遺棄する意思であつたと認められた結果、妻の離婚の請求が通つて別居になつた。

或る男は、自分の妻の實家から家政の整理について、來投を求められたに拘らずこれを拒絶し、妻を實家にやつて要領よく働かしむるが如く装ひ、その後整理事件も一段落つき、妻が婚家に歸らうとしたところ、その夫は實家を許さざるのみならず、親戚人に對して何の罪もない妻を、可愛さうだが已むを得ないといふ旨を漏らした。妻の實家が財政的に没落したため、これと婚姻關係をつゞけてゐては、後日自分の方に迷惑の及ぶことを心配し、親戚を未然に防ぐ積りで兩家の關係を断つべく、妻を實家に追ひ返へしたものであつたから、惡意を以て遺棄したものとして離婚請求の離婚が成立した。

罪を犯し懲罰された場合 良人が姦淫罪を犯し、刑に處せられたとき、賭博、買娼、強姦、強盜、詐欺等の犯罪を犯して罰せられたとき、または以上の犯罪でなくとも、他の罪によつて三年以上の懲役に處せられたときは、たとへば執行猶豫になつてゐても、妻から離婚の請求をすることが出来る。然るに實際問題としては姦淫事件やその他の犯罪のため、刑務所に入れられてゐる人は十萬人以上もあるが、離婚請求の少ないのは、善良な妻が良人の罪をゆるし、眞心からその更生を祈つてゐるからである。

第九節 離婚による慰養料の問題

離婚を作つて三千元 妻が離婚の訴を起しそれが裁判所で認められたならば、相手の良人に對して慰養料を請求することが出来る。無論これも直接交渉では駄目だ、矢張り裁判所に訴へてその裁決を仰ぐのである。

或る男は婚費子となつて十八年後に帰郷をこしらへて、家を買はず、果は妻に暴行を加へたので、妻から訴へて離婚となり、三千元の慰養料を支拂はされた。妻子親類のときこの男は無資産で、妻の内助によつて資産を作り、京都市内に數百坪の借地権と、一ヶ月六百四十圓の賃料の上る家屋を所有する程になつたのだ。それにも拘らず最早四十九歳になつて、離婚になつても、再婚の望みもない精養軒の妻が、離婚すべく餘儀なくされたのだから、精神上の損害を賠償する意味で、三千元の慰養料が相當と認められた譯である。

妻を騙して一萬圓 或る男は結婚後八年で、料理店の女中と情交を通じ、一家を借りて妻として住ませ、妻を疎んずるのみでなく罵倒打した。この事待た堪へかねた妻は離婚の訴へを起したが、それに對して男は「自分は尋常小學校卒業、妻は高等小學校中退で共に教育の程度も低いし、その居住地は花柳界の中で、男女の性的交通に關する觀念は低級である。また妻には結婚後五年になつても子供が出来ない。かうした事情の下に血統を斷絶せしめぬ目的から妻を騙つたのは、決して妻に對する虐待でも侮辱でもない」と抗辯したが、裁判所は「たとへ教育程度や環境がさうであつても、良人から同居に堪へない虐待を受けて、いつまでも堪へ忍ばねばならぬ理由はない。また正妻があるにも拘らず、罵倒他の女と情交を通じて妻とするのは、妻に對する信實義務の義務に反し、その人格を侮辱したものである。夫婦は共同生活を営むための結合であつて、たゞ子供が出

東ぬといふだけの理由で、恣に他の女と關係を結ぶことは許されない」と反駁した。

さうして慰養料の額は、男の方に時價二十萬圓の土地家屋と、時價一萬圓の遊樂場があり、尚ほ海苔製菓業によつて、年額五六千圓の収入のあること、妻の實家には二三萬圓の財産があることなどを考慮し、金一萬圓が相當であると決定されたのだ。

二十年放蕩の末五千元 或る男は生れつき淫逸な性質で、結婚後間もなく遊里に通ひ始め、二十年の永い間放蕩

三昧の生活を送つた。その間妻を待遇する態度は殘忍冷酷を極めたから、遂に妻は同居に堪へられなくなつて

離婚訴訟を起し、裁判の判決を得たが、そのとき妻は毎時虐待の實例として、次の六ヶ節を申立てた。

- 一 來客の前で、妻を罵詈雑言はりした。
- 二 妻の顔を蹴つて負傷せしめた。
- 三 火吹竹で蹴らうとして追ひ廻したが顔に引き止られた。
- 四 他人の面前で、妻は自分の弟と共謀し、婚家の財産を奪取しやうと計畫してゐると罵つた。
- 五 最愛の娘二人に暴力を加へ、その頭髪を剃んで引きずり廻し、その母親である妻に對して甚大な侮辱を與へた。

六 良人の弟の妻を同伴して旅行し、夫婦と偽つて同居し、姦通して妻を侮辱した。

この妻は中流以上の資産を持つ家に、二人の娘の母として且つ主婦としての地位を持つてゐたのだが良人の癖

待に堪へずして婚家を去り、二人の縁とも離断してゐるが、雖も既に再婚の望みはなかつた。かゝる孤獨寂寥の生活に入るに至つた事情については、良人たる者に十分損害賠償の義務あるものとして、五千圓の慰養料の支給を命ぜられた。

妻を懐ひ離断して二百圓 成る男は、某年の十二月二十一日十七歳の女性と結婚し、数日後名古屋の祖父母の宅に伴ひ、翌年一月九日東京に歸つたが、このとき新妻を成婚人宅に匿去りにし、そのまま音信不通となつた。成婚人が入方捜索した結果、男の居所は判明したが、結婚は繼續する意思はないといつて来た。

これは結婚わづか二十日にして、悪意を以て妻を遺棄した行爲であるから、女は名譽を毀損せられ精神上少なからぬ損害を蒙つた。そのため男は女に對し、相當の慰養料を支拂ふ義務あることを認められたが、その金額について裁判所は、女子には商業學校卒業程度教育ある事實、男は喜多波の謠曲の師匠として、一家を支持するに十分の實力ある事實、また女が男と夫婦關係を結ぶことを拒絶した事實のあつたことなどを參照し、女の受けた精神上の苦痛は、金二百圓を以て慰養することが出来ると決定された。

この例は妻が餘りに若くて、十分夫婦關係を理解してゐなかつたために、良人の要求を拒んだものである。それにも拘らず男は、遺棄といふ不正な手段を取つたがために、慰養料の支給を命ぜられたのだ。

第二章 貞操問題

第一節 男女何れが強者か

女は生理的にも男の下になる運命にあるといふと、男女間の性生活を描写する淫猥な言葉のやうにも取れるが明治の初年漸進を極めた男女同權論者に向つて、男性保護の義務を守る國粹主義者たちが叩きつけた抗議文の一節なのである。

つまり極端なマギーの手から、シグスの主權を奪還せよ、お米の研究専門家に、政治のことがわかつてたまるかといふ議員の言葉だつたのだが、その鋭くましい努力にも拘らず日清戦争の頃には早くも、平塚雷鳥以下一帯の女軍が買物社を組織し、女性の政權確立を目ざして、鋭く男性界へ斬り込んだ。

最近でこそソメイソメイ革命とか、フアッシュンとか、世界戦争とかの轟に、影の薄くなつた感がないではないが、たとへ男女間の性の關係とは、

「引込め山の神、乃木大将だつてナゲレオンだつて、昔男だぞ」と怒鳴れば、

「だつて、グイカトリア女王でも、クレオパトラでもそれに入江たか子だつて、みんな女ですわよ」と下からすねるなど、マダムとイヴの昔から未解決の問題だが、何れにしても女軍の進出は近頃目ざましいも

のがある。いよ／＼今度は女の騎士も出来ることになった。男女同權でなくして、女が男を越く時代も遠くはないかも知れない。折も折昨年あたり頻りに男女同權論者を興奮させた、映画「洞窟の女王」さながらの女の理想郷が最近亞弗利加で発見された。



クレオパトラの昔から、傳奇の亞弗利加だ。エチオピアの裸の兵隊さんが、祖先傳來の鎧を腰に吊し、哥瓦斯と組討をしたり、ゴンプの筒先のやうな首をした、靴鳥が歩きまはつてゐたり、「世界文化史大系」を一寸開いて見ても、南阿に住むズール種族の女は、角力取のやうな立派な體格で、肩までしかない亭主を見下したり、メンディ種族の女は、ブンドゥといふ秘密結社をつくり、横暴な男性に對抗したり、ゲウエレ種族の女などは腹中毛だらけで、木の枝から枝へ七十呎も飛んだり、要するに未開の大陸であるだけに、そしてクレオパトラの生れた大陸であるだけに、女が一體に優勢で、それによつて酷される傳奇の方が、數も多ければ強烈でもあるのだ。

然かし是等にしたところで、今度発見された女の理想郷はアフリカと比べると、まるで問題にはならない。然かもその國は「洞窟の女王」そつくりの國なのだ。映画「洞窟の女王」は、元來がH・ライダー・ハガードの小説「被女」を脚色したものだ、この小説では最初の無名がロンドン・レオといふ、オックスフォードの大

學生が、巖の中から奇怪な古文書を発見し、それに釣られて亞弗利加探險の途に上ることになつてゐる。

そしてあらゆる辛苦の後「洞窟の女王」の住む女の理想郷を発見する、こゝは女が支配する國で、男は女に頭が上らない。牧畜をしたり洗濯をしたり、ときとすると子守さへさせられたり、貴一がお宮を脱走すのでなく、お宮が貴一を脱走す國なのだ。従つて男からいへば極めて怪奇な、そしてまた不都合な女王を現實の世界に存在せしめてゐる譯で、だからこれを発見したベルセルバニヤ大學教授のウィレロフ博士も、その発見の剽窃には、「丸で夢のやうな氣がする。ハガードの著作被女そつくりな、興味深い魅惑的な女主人公を、舞臺も同じ亞弗利加で私が発見しようとは！ 然かもハガードの死後數年を出ないうちに……」と驚嘆した譯だ。

第二節 傳奇的な女性の理想郷

この奇怪な國は亞弗利加の南端、南阿非利加とリンゴ河をへだて境を接する地方にあつて、南部ローデシヤと稱してゐる。英國の植民地で北端にム・トコ湖といふのがあり、その一部にマシヨナ族に屬するバブタヤ人が住んで居る。四面山に囲まれ、處々に沼地の盤在する要害の地だけに、貧乏な資本主義國の魔手もこゝまでは届かず、たゞ一度バロスイ族を率ふるチャンガイルの侵入を受けた以外は、曾ての植民王ポルトガルでさへこの地を敬遠し、一人の探險家すら未だ訪れたことのないといふ、世界の秘密郷なのである。その癖この國は「全く世界の驚異である、こんな遠地に列強の支配をいさ／＼も受けぬ、完全な獨立國を発見しようとは、夢に

も思はなかつた」

と、獨逸フランクフルト大學の、亞弗利加地探險隊員の一人として、世界ではじめてこの國へ足を踏み入れたウイネン博士を驚かしてゐる。

然かしエチオピアと比較しても、更らに千五百哩も南方の奥地だから、野蠻なことも相當なもので、例へば王が死ぬとイイラにして保存する習慣があり、イイラに禮拜する者があると、番人の坊さんが頭に水を注いで清める。これが古い汲み置きの水なので、やがて子孫がわく、するとこの子孫は王の化身だとして非常に喜び、隨喜の涙を流すといった調子だ。

こんな國に絶對的な専制君主として君臨する問題の女主人公を、ウイネン博士が発見したのである。彼女は

「星は四角である」

といひ出したら、この國では星は四角なものになるし

「戀をしてはいかん」

といふと、國民は一人として戀をすることを許されないのである。然し彼女も女性にして、レナレッツと呼ぶ有雙の尼さんだ。従つて絶對的な女性の味方である。

彼女は部落から五十哩も離れた、峻険な山中に祭壇を築へ、その周囲には各部落から、ピツク・アップした處

女を集め、樞要な男性には指一本も觸れしめない。國中で美人といはれる程の處女は、悉くこゝに集められるのだから、各部落は賣れ残りの醜婦のみの世界と化し、男子に取つてはまさに恐怖時代だ。彼等は面のまづい女房に愛想をつかしながらも、我慢すべく餘儀なくされてゐるのである、しかも

「ヤイ、すべため、出て行け」などいふものなら、レナレッツはそこまで出張し、夫婦喧嘩は昔男の罪として裁かれるのだ。それでウイネン博士も

「有史以前に母系中心の時代のあつたことは、モルガンやエンゲルスが立證してゐる、この場合も有史以前の遺物が、地理的に外界と絶縁したこの土地に、そのままの姿で残つてゐるといふより説明の方法はない、然かしレナレッツ及び一群の聖女は、この外にも酋長の任命權、結婚の許可權、裁理權、さういつた一切の政治的權力をも握つて、男を壓迫してゐる、かうなれば男女は同權どころか、全く女性横暴である」といつてゐる。かういふ世界には「男性の直權」といふ思想はあつても「女性の直權」といふ思想はないであらう。さうかと思ふと世の中には、あんまり餘りが故に、女の直權に殆ど一文の價値もないやうな世界もあるのだ。

第三節 女ジプロも誕生する田里の屋根の下

佛蘭西は自由主義の旗幟を確守する國だ。モーパッサン以来の文學者たちは、戀の話しかしないし、太陽は美しく輝いてゐる。従つて女も男も早熟で短氣で、勝手に戀の火遊びは全國を蔽ひ、リョコなぞと性的産業を喧嘩

にする悪の業が巴里の暗黒街に咲く譯でもある。そしてこのジョロは生業過程を刑罰法的に説明するとかうだ。金持の男は女どもを質屋屋にし、美男子の男は戀とは即ち快楽に過ぎぬと、女共を以て致へる。

戀を知つた娘たちは、最後の一フランが無くなるまで、あらゆる快楽を貪らうとし、ムーラン・グーエルジュの舞臺會に行き、時にはモンパルナス座へオペラ見物に行く。

然かし、その最後の一フランが無くなつたとき、彼女は男の周囲に男妾やヌリを仕事とする友達、ウヨクしてゐるのを發見し、淫賣婦として別段美人の風儀と違つたことをするのでもないことを教へられ、彼女は二人の快楽を維持するために、實收の少い女工生活を捨て、淫賣婦になるのである。そして彼女はジョロとして彼女に寄生生活をはじめるのである。

日本では親父を質において酒を飲むとき、佛蘭西ではズロームまで質に置いて快楽を迫及するのだ。それで不道徳でなくて國民性である點に、佛蘭西が世界に誇る暗黒街の王者ジョロを、大量生産したのである。

安物の鳥打帽に革手な靴を穿いた男、映画「巴里の屋根の下」に出て来る風流だが、その相手は單に娼婦のみではない。令嬢でも貴婦人でも、それが女とさへ行がついてゐるなら、あらゆる種類の女を商品として取扱ひ、それで足りないときは強請、阿片密輸、殺人などの犯罪を、實は風流遊びに敢行するのだ。

然かしこのジョロは、亞米利加のギャングとは性質が違つてゐる。亞米利加ギャングは近代的な機械主義の所産で組織的だが、巴里のジョロは自由主義の温床に育つた一本立ちだ。

世界の暗黒街を二分するものには違ひないが、あくまでも伊達と稱とに生きてナイフが市を利かせ、いまだに娼婦なんか持たぬギャングである。然かし彼等の生命線が戀であることを取上げて

「女を喰物にするなんか、藥丸のない男達だ」といふのは當らない。彼等は藥丸のない男のところか、寧ろそれとは反対に、藥丸だけの男なのである。何をいふも女を相手の職業であるからだ。

そしてこの風流ジョロに三種類ある。喧嘩や殺人を渡世とするアパッシュと、美人局や強請の女を主とする犯罪に陥られた純正ジョロと、純然たる男妾に満足するマクロとがそれだ。

ところでジョロの本場といへば、巴里においては廣場イタリヤとモンマルトンだが、このモンマルトンの奥に大戦直後、ジョロの世界を震撼させた一事件が起つた。男の女遊屋が出来たのである。そしてその結果男妾に暴くふ腕りだねの、女没義漢が誕生し、新たな職業分野を開拓した。

舞臺は千九百二十一年の戦勝気分にあつた頃の巴里であつた。有閑マダムの發祥地といはれる豪華なホテルHの客間で、上流社會の夫人達が露西亞の亡命者ニコライ皇親殿下と稱する貴公子を圍み有頂天になつてゐた。この貴公子はグエラ夫人の案内で、一回のお茶の相手として現はれたのであつた。

このとき仲間を離れて片隅から、人一倍熱っぽい眼差しを透つてゐる一人の夫人があつた。軍醫成金ザハロフの愛妾で、上から下まで寶石に埋つた、ドンヴァム男爵夫人だ。ところが何時の間にか、その後ろへグエラ夫人が忍びよつて、そつと覗いた。

「如何でございますか奥様、殿下も佛蘭西は始めてとお淋しいので、お取持ち致しませうか奥様」

「アア、私に……」

「いええ、奥様のお心持はよく輝きますわ、たゞ殿下は革命騒ぎで、大變困つておいでなので……」

「いくら、御用立すればいいの？」

「四千フランほど」

「それでいいの」

やがて四千フランの小切手がグエッタ夫人の手に渡された。その翌朝に至つて「昨日は本當に、素晴らしい方を感
謝しますわ、何しろ殿下といつたら、アノ方にかけては全く天啓的で……」といふ手紙が、グエッタ夫人の許へ舞
ひ込んだほどであるから、男爵夫人は至極満足されたに違ひない。

ところがこのグエッタ夫人こそは、實は女ジョロであつたのだ。

それから一ヶ月ばかり後のことである。夫黨に有閑夫人の淫蕩へ落ち込んだ男爵夫人は、何處からか男爵の本
據がモンマルトルンにあることを聞き、新しい戀の陣地に舞をときめかしながら出かけた。そしてバエツ酒に醉を
染めながら、舞つた空気の中に踊る男爵の舞を、いとも満足氣に眺めてゐたが、突然夫人の顔色が蒼白となつた
かつて夫人が四千フランを投げ出して、限りなく愛撫した佛蘭西貴族を、その男爵の中に發見したのである。
急いで表へ飛び出した夫人は、グエッタ夫人の家へ馬車を牽りつけ、ヒステルカルに喚き立てた。

「……」
「御用立でせう」
「……」

グエッタ夫人は、果然女ジョロの正體をあらはし、遂に男爵夫人を脅迫して、その名譽のために六千フランをせ
しめた。

巴 　　そしてその翌日は辯護士を、男爵夫人邸へ差向けて、口留料
黒 　　として一萬フランをファンだくつたのだが、それだけでは濟まな
の 　　かつた。二萬フラン三萬フランとせり上げて、最後には十五萬
女 　　フランの無心だ。

こゝで男爵夫人はたまりかねて、ニスまで逃げ出した。女

ジョロは勿論その後を追つかけた。しかし彼女が手に入れたのは、同類の十五萬フランではなくして、恐怖と絶
望のあまり、監獄から身を投げた瞬間の、男爵夫人の後妻だけだつた。

からした世界に、女の貞操があるものとは思はれない。



第四節 貞操と女性日本の再吟味

昔から我國では、娘の一人歩きは危険とされてゐる。「月夜に外を歩くと色が黒くなる」といつたのも、そんなことは無いのだが、月に浮かれて娘が一人歩きしては、甚だ危険だから、それを止めるための戒めであつたのだ。娘の夜歩きほど危険なものはない。それは必ずしも、誘惑の魔手に身をさらす機會が、多いからといふ意味だけではない。

押籠を切られた、破産を浴びせられた、お尻を刺されたなどの事件があるからといふのでもない。そんなことどころか、時には命まで取られる危険があるからいけないのだ。

最近の司法省の統計で見ると性的犯罪で、裁判所に送つた事件が一千三件ある。この中には姦通罪も加つてゐるが、その大部分は強姦罪と強姦未遂だ。然かもその殆んどすべてが、男から女に對して行つたものである。

それには何等の性的犯罪となると、被害者が名簿を考へて、本人から告訴しなければ、強ひて問題とはしないことになつてゐるから、表沙汰にしないで泣き入りになつたりしてゐるものや、内済にしたものなど、統計に表はれない被害者の数は、これよりも更に多いことゝ考へなくてはならぬ。

學校歸りの女學生や、遊園歸りの娘たちや、夕暮の道を通ぐ女教員や、山や野良に働く田舎の娘や、是等の女性が一番多く犯はれてゐるが、その九割までが獨身者である。そして犯行は山道や野道の多い、田舎で發はれる場合が多いが、必ずしもさうとは限つてゐないのだ。繁華な大通りの多い都會でも随分犯されてゐる。先年は東京の代々木の某所附近に衝動が出現し、多量の女性が被害を受けたが、犯人はとう／＼捕らなかつた。

男女間の情事に、誘惑したとか誘惑されたといふのには、まだ自由の世界があるが、不意の暴漢の襲撃には考慮の餘地はない。然かも娘の一人歩きは、常にこの危険を背負つてゐるものとすれば、虎穴に入ることは常に氣をつけて、自から避けるほかはないのである。

デパート、オフィスなど洋山若い女性を使用するところでは、密閉制度なり密閉勤務制度なりを設けて、この點の保護をすべきであるし、娘を勤めに出す家庭では、その復讐の身の上に、十分考慮してやらねばならぬ。女教員の襲はれた事件などにつき痛切に思ふことは、使ふ方も使はれる方も、それが女であることを餘りに忘れてゐるはせぬかといふことだ。この點から最近方々の女學校で、護身術を科目に入れて教授してゐるのはよいことである。

暴漢に襲はれた女性が、周章狼狽して抵抗すると、必ず死の不幸を招くやうだ。不逞漢の怪しからぬことはいふまでもないが、無茶苦茶な抵抗には犯人も狼狽して、ついに心にもない殺生をする例が少くないのだ。それが護身術でも心得てゐると、直接には犯人を倒さぬまでも、心にゆとりがあるから、窮地を脱出する機會も自から出るといふものだ。

持つてゐる洋傘で暴漢を突くことが出来れば、それこそ護身術の賜物である。反撃の結果加害者を殺してしまつたら何うかといへば、法律はこれを正當防衛として科めないのだから、女性たる者は大に武勇を養つて、眼のやうな男性に抵抗すべきである。

先頃新聞紙下にあつた事件だが、山中で一人倒れてゐる娘に狭ひかゝつた暴漢があつた。暴漢が押したふして強制的な態度に出たので、娘は持つてゐた鐘の柄で、相手の頭部を二回重打し、昏倒するのを見て更に一撃を加へた。そのため暴漢は即死した。

この事件に對し當局では、正当防衛の範圍を越えた過剰防衛だといふので娘を起訴したが、裁判所は女が貞操を守るために相手に反撃を加へるのは、尙ほ正当防衛の範圍であるとして無罪を宣告した。

「過剰防衛」といふ法律が昭和五年に出来たが、その中には「貞操に對する現在の危険を排除するため、犯人を殺傷したるときは、正当防衛行為であるとして、これを處罰しないと規定してゐる。女性に取つては貞操は實に生命で、これを失ふことは命を失ふよりも苦痛だから、法律で保護するのは當然である。

貞操は女性の特權であり、人格權である。妻の貞操を犯された良人は夫自ら夫權侵害、名譽毀損で訴へる權利さへ與へられてゐる位だ。それほど女性の貞操は尊いのである。この貞操を暴力で奪ふなどは、言語道斷といはうか、東洋の刑罰といはうか、實に惜みても餘りある野蠻だ。

そんな畜生のやうな男に、道理がわかる譯はない。宜しく一撃を加へるの外問答無用である。獨り女學生といはず、オフィス・ガールといはず、世のすべての女性たちのために、萬一に備へるための護身術をすゝめたい。獨逸の國から、露や日本の柔道を學びに来る女性もある今日の世の中である。野球やビンゴなどに費す時間があるならば、運動にもたり貞操護身にもなる護身術で心身を鍛錬し、女性日本のために氣を吐いてもらひたい

ものである。女ならではの夜の明けぬといふ意味はかういふところにもあるのである。

第五節 暴漢の貞操料二千五百圓

昔から戀は思案の外ともいつて、これをしては斯うなるといふことは、百も承知して居りながら、何うすることも出来ないで、ズル／＼に盗問へはまつてしまふのが男女の仲だ。

戀愛教科書や、結婚虎の巻なんて、とうの昔に承知してゐる善の人が、いざとなるとその公式通りにはいかぬ。殊に大商賣の女などになると、男心の裏の裏まで知り抜いてゐながら、それでゐて矢張り、戀を追つて情死の夢を見るし、聰明な科擧者も戀の奴隷となるし、敬虔なマルクス主義者も、四角とか三角とかの關係になやまされるのだから、戀といふ奴は曲者である。

況して春の目ざめにうづく女性が、ひた走りに戀の一筋道を斷絶するのは、寧ろ若い女性本然の姿で、止めやうにも止まるものではないが、その結果を承継ならしめ、被害の程度を最少限度に止めることについては、世の父兄や教育家等に與へられた義務であつて、法律家は如何なる場合でも結果から出發する。この場合もまた生じた不幸を、如何にして救済するかの一途に歸着するのだ。

男の眞心を信じ身も心も捧げつくした梅匂のはてに、秋の團扇とすてられた女性を、たゞ馬鹿であつたとアツチリ諦めるも、一つの人生の生き方であらうが、破産累な男性や無節操な男性を、そのまゝ見のがして置いて

は、更らに同じことを繰り返す危険がある。女性のため社会のために、これに制限を加へるのは、當然すぎるほど當然である。

また被害者である女性の立場からいつても、自分の不幸な経験を積極的に、世の利益のために生かすことは、現代の進歩的な所以であるが、さらばといつて自分の無智を補に上げ、相手方だけを責めよといふのではない。

自分の不明を差引いても、尙ほ餘りある相手方の不徳義や、卑劣な振舞を暴露して、これを罰せよといふのである。このやうな訴へには、裁判所も心よく協力してくれるのである。

それは單に良家の子女に限つたことではない。昭和十二年の春、東京府人本相談の及川係長は、或る藝妓と男との事件を取上げて、一千二百圓の慰養料を男から女へ支払はせた事件があつた。



然かもこれは單純な手切金といふ意味ではなく、今までは殆んど世の中から隠匿にされなかつた、藝妓の貞操を認め「藝妓にも貞操あり」と人生の機微に觸れ、道義的意味を持たせたものであるだけに、この判決は大なるショックを社会に與へた。その内容や精神については、次に記す及川係長の談話を見れば驚くわることと思ふ。

人本相談の仕事が世間に露見して来るにつれ、此頃は多くの女の人が、堂々と我々の前に現はれて、男の不

誠意についての悔みを解決してくれと持ち込んで来る。

そして男との間が巧く機が戻ればよいが、若しこの工作が失敗すると、結婚契約の不履行といふことになつて、結果的に見れば貞操と金銭との取引といふ、醜いところを見せ合ふのだ、さういふ人の内情からいふと、一歩多いのは素人だ。女は藝妓と素人と女と女といふ點で、藝妓は年に一人か二人位である。藝妓は全く来ない。

ところが藝妓や素人の場合は、いくら貞操が何うの婚約してゐるといつても、初めから貞操を賣物にしてゐるのではないかとの觀念が先立つて、誰しも相手になる者はない。法律的に男の責任を追及しようとしても、そのときの男の適口上は「賣物賣物じゃないか」といふ一言に盡きてしまふ。またかうしたときに法律的に女を保護する方法はないのだ。

然しこの賣物賣物といふ言葉から、人間を認めないものはないと思ふ。肉體的には或は已むを得ず、金銭の對價として貞操を賣供する場合もあらうが、若し心の純潔を後女が捧げたとしたならば、この純潔の愛情に對して、何を男は對價として支払つたかといふことになると思ふ。

千二百圓の場合は男の方からいへば、手切金といふものであらうが、出させた私の方では、立派な慰養料だと考へてゐる。これは女は某處のダンス藝妓で、自分の身分だ。月々の稼ぎの中から、故郷に残した母親や、弟妹のところへ、百圓づゝ仕送りをしてゐたのが、愛人が出来た。まだ學生だつたが、必ず結婚するといふ言葉を信じ、世話を抜いて眞心を盡し、五ヶ月間同棲してゐたのだ。

ところが男は學校を卒業し故郷に歸つて就職すると、それきり女に用はないといふ態度に出た。そして家の方では養女などは家風に合はぬ、どうせ賣物買物の身ではないかと斬つてつけた。然かし女は多少文字も讀める程度の頭があつたから、私のところへ相談に來たのだ。

私は女が養女を扱いたといふことだけでも、十分その誠實を買つてやつてよいと思つた。それを養女だからといつて相手にしないといふのは、餘り無慈悲と考へたので、道義上からこれを解決しようとして、千二百圓といふ結果を生み出したのである。

或はこの養女に對して、反對する人もあるかも知れないが、私は自分達の弱い職業の故に、餘儀なく泣き入りをしてゐる被養女達のために、人間としての生活を與へてやるのが、至當だと思つてこの裁斷を下したのである。

この事件があつてから間もなく、或る養女を弄んでこれを捨てた某伯爵に對し、裁判所が二千五百圓の慰養料の支拂を命じた事件があつたが、さらにカフェーの女給にも貞操ありといふ新しい旗を掲げ、女給を騙して同棲し、眠になつたからといつて置去りにした百萬長者の息子に對し、七百萬圓の慰養料の支拂を命じた裁判所もあつた。

數榮商の客商賣をしてゐる女性でさへ、これだけの權利が認められてゐる世の中である。男性の被害を受けた一般の女性は、もつと勇敢に權利を主張すべきである。

第六節 女の貞操料はどれ位か

資本主義の世の中では、何んでも一應は金に換算して見ることになる。女の貞操料はいくらかと露骨にいつたところで、何も怒るには當るまいと思ふ。

財物的な信用はいふまでもなく名譽、人格、地位、夫權等何でも、貨幣に換算するのが現社會の實際だ。女性の貞操の如きは眞先きに商品化され、商品化されないまでも裁判所において、立派に評價されてゐるのだから、現代的な女性である以上、貞操といふものがどれ位の價値あるものか、これは常識として心得て置かねばならぬことである。

世の中の實際には三萬圓の貞操料、五萬圓の貞操料といふのも、必ずしも無いことはないであらう。然し事件となつて法廷に現はれ、嚴正公平な裁判を受けて評價された貞操料では、一萬圓といふのが最高のレコードとなつてゐる。これは大正十一年五月八日、東京地方裁判所で言渡されたものだ。

尤もこの事件は單純な貞操料といふよりも、結婚して十三年もたつて捨てられた女性に對する慰養料だから、これを貞操料の標準とすることは出来ないかも知れぬ。

姑からいびり出され、夫がそれに加害したといふので、二千圓の貞操料慰養料なるものを取つた女があつた。また因縁をつけて迫出され、その上女として不具だと懸賞傳されて、三千圓を賠償してもらつた勇敢な婦人

もあつた。

純粋の貞操料では青年奉還師と婚伴になつて、嫁した上捨てられた看護婦が八百圓、見習科公中に勤め先の資遣費の件に可愛がられ、嫁すると身分が違ふといふ理由で結婚を拒まれ、これが五百五十圓だつた。また温泉前で知り合つて、間もなく捨てた處女料がたつた四百圓、それに男からうつされた性病代四百圓、年廻りがわるいと断られて五百圓、女学校の先生をしてゐた女性ですてられて五百圓、高等女学校卒業後、行儀見習をしてゐた女性が八百圓、二十四歳の女性で初めて挿げた處女料が三百圓、かういふ風に實例は山ほどあるが、千圓を突破するやうな貞操料は殆んど聞かない。尤も裁判所に訴へるときは、何萬圓とか何千圓とかの請求をするのだが、いろいろと調べ上げた結果、多くの場合はその五分の一か三分の一位に評價されるのだ。

それでは貞操料は何うして算定するかといふと、第一は貞操を失つた事情が左右する。次には双方の地位、身分、年齢、職業、年齢といった順序だが、殊に資産状態が大きな影響を持つてゐる。財産高い女といふ者は、餘り感心したものでないが、懸するにも相手のチャラリなり、實家の資産なりを調べた上にすれば、捨てられても貞操料が多く取れるといふことになる。

主家の息子から汚された女中や、先生なる者から弄ばれた患者や看護婦や、仇し男から捨てられた愛人たちは、たとへばに女性相補償で安價な同情を求めてゐるよりも、寧ろ裁判所に持ち出す方が、手取り早いことを記憶して置くがよい。

第七節 男性にも貞操あり

最近では女が浮遊になつた、貞操観念が弱くなつたといふ事を聞くが、現代の社會の風潮は、全體として薄つべらになつてゐるので、何も女性だけが特に浮遊になつたといふ事ではない。

今までは別居恋愛の女子が、急遽にその地位が高まり、社會的に活動するやうになつた結果として、一寸した動きや些細なスキャンダルも、女子だけが特に目立つのである。然しながら現代の女子が男女關係に對して、ルーズになつたのは争へない事實だ。貞操を捨て歩くことを得意とする女、放縱な性交渉を持つ女、男を享樂の道具とするにしか考へてゐない女、かうした女性が多くなつて少くないのだ。女性自らの人格を要求し、女性の權利を主張せんとするには、先づ自ら守備を固くし、同時に男性の立場や人格を尊重しなくてはならぬ。

餘りいゝ氣になつて男性を誹弄すると、女といへども容赦なくお灸を据えられるのだ。貞操は女性の獨占物ではない。男性にもこれはあるのだ。若し男性の貞操を疑ふしたならば、被害者の訴へによつて慰謝料、資遣料を支拂はねばならぬのである。

結婚同様わづかに四十日で逃げ出した花嫁があつたが、この女性には前から言ひ交はした男性があつて、その男の子まで生んだことが暴露し、花嫁の顔に泥を塗つた代償として、資遣料六百八十一圓八十七錢を支拂はせられた事件があつた。

また正式の結婚により將來を契りながら、こつそりと叔父の家に隠れ、婚家は血縁がわるいからと誤魔化し、隠れせんとしたため、二百七十九圓六十一銭の慰養料を支拂を命ぜられた女性もある。何故か男の貞操料は、妙にやゝこしい額定になつてゐる。

見合の結果これならば三國一の花嫁よと、一家して張り切り嫁入の式まで挙げながら、後になつて厭とかぶりを振つた娘があつた。このため相手の青年はあたら婚の口と、六十圓の月給を給に振つてしまつた。これが表沙法になつたところ青年の貞直には異状はなかつたが、娘の我慢は許せぬとあつて千二百圓の支拂が命ぜられた。是等の實例は女の貞操料はほどに深刻ではないが、外にも同様な例は澤山あるのだ。娘のお禮も笑つて済ませる程度ならよいが、その我慢が氣儘となつて、果ては男を困らせたり罵したりすると、たゞでは済まないのである。

男女の平等といふことは、女の墮落や放蕩を意味するものでは決してないのだ。女性の尊重を主張する者は、先づ女性としての義務を履行しなくてはならぬ。義務の件はない権利といふものは無いのである。

第三章 後家と法律

第一節 扶助料の問題

私は六十二歳の女。夫は日露戦争に出征戦死し、爾後二人の子供をかゝへ、恩給によつて生活して來ました。ところが昨年七月恩給金の交付を受けた後、恩給局より戸籍謄本を送れとの通達のため、早速村役場からその手帳を致しましたが、「分家した貴殿は恩給法第二十九條第四號の規定に該当するから、扶助料は同日より失權する。また分家した大正十年三月七日より現在までの扶助料は誤謬に付返還すべし」と申して來ました。夫男である夫の家族としまして分家は當然でよし、また右申上げました大正十年に村役場から、分家しなければ扶助料の下付が停止されるから、急にその手帳をするやうにと申して參りましたので、言はれるまゝに手帳を完了したのです。

其後現在まで何等の支支なく交付を受けてをりましたのに、今度突然右様の始末になりました。誤謬の金額を返還すべしと申されましたも、その日暮しの無資糧な私には、到底それは出来ませんし、老いての今日から急に扶助料を停止されると、その日から困ります。村役場の通知が誤りでせうか、何だか細りなく思はれます。

遺憾ながら此際、扶助料のことは思ひ切るの外はない。それは大正十二年九月三十日まで、軍人恩給法が行はれてゐた結果、大正十年に分家したことによつて、扶助料を受ける権利が無くなつたからだ。尤も大正十二年十一月一日からは、恩給法が改正されて、妻は分家しても扶助料は取上げぬことになつたのだが、それ以前に一度失つてしまつた権利は、最早取返すことは出来ない。(大正十二年改正恩給法第八三條、第八四條、第八〇條、第一〇〇條第三項)。

また相続を受けた金額については、時効にかゝつた分は別として（満十年より以前のものは時効にかゝる）用済むだけ返還するやう努めねばならぬ。

第二節 婚姻届前に夫の死亡

私は二十七歳の人妻です。夫は二人の子供を残し先月他界致しました。一昨年八月、夫は婚姻届及び長女の出生届を、本籍地に届出るべく手続をしましたが、長女の出生届が半年ほど後れて書いてあるため、罰金を出しても夫の生年月日に届けた方がよいからと私が申したので、それではまた書き直さうといつて居りました。



その後直ぐ書き直し、届出は済んでゐることゝのみ思つて居りましたのに、夫死亡後整理のため夫の手文庫を開いて見ましたところ、婚姻届も出生届も郵送すべく封入したまゝ中に入れてありました。夫死亡後は戸主（夫の兄）の同意を得たとしても、また如何なる手段を講じましても、夫の子として入籍出来ぬものでせうか。私は子供を私生児として、一生置く苦しさに堪へられません。戸主は子供のため入籍してもよいと申しますが、何かよい方法は無いものでせうか。

婚姻届の意づてあつたことは手紙だが、さりとて正當な夫婦であつたことは事實だから、それが證明出来さへするなら、子供は夫との間の嫡出子として、法律はこれを認めて然るべきであるが、現在のところそれが出来ない。この點は我が民法の缺陷だ。戸主が承諾してもよいといつて呉れるのは、戸主の子として入籍するといふ意味ではないのか。若しさうだとすると、子供は母たる貧女とは他人になるから、それでは尙更ら淋しいであらう。

私生子といふ名稱は好ましくないに違ひないが、そのため一生日蔭者になるなど考へるのは思ひ過ぎだ。今日においてさへ私生児の名稱は問題になつてゐて、裁判官議會でもこれが改稱について苦心してゐるし、既に議會にも提出された程である。だからその子が大きくなる頃には、世間もこれを意に介しないやうにならうし子供連自身もまた、このことに氣のつく年頃になれば、事情を説明するであらうと思ふ。

取たる名稱のことに因はれてク／＼するよりは、兎も何立派な人間に育てることに意を用ひるがよい。

第三節 夫の遺した取引先の負債

私は夫と二人に子供二人の四人暮らしで、キャンプを遊んで廻々と暮して居りましたが、一昨年の夏夫が死亡しました。二人の子供を抱へて遠方に逃ひ、一度郷里へ歸りましたが、いつまでも世話になつてゐるのが心苦しく、去年の暮再び上京し、夫の仕事を手傳つたとき見舞えた焼物を始めました。家外費行がよくて、食ふには

心算がなくなりましたところ、夫の取り立てる店から、昭和八年十月頃の鑑定が、まだ八十圓ほど残つてゐるから、據つて呉れといつて取りました。先方では大分長くなるから、差押しても聞くと思つて居ります。

近所の人にきくと、心算はないもう時効にかゝつてゐるから、據つて取つて下さいませうと、何ういふことになりませうか。今支拂ふ自分の金は少しもありません。

先づ夫の生前に、さうした負債が本當にあつたか否かを確かめねばならぬ。その上で、本當に債務があつたとしたら、これを支拂ふのは道徳上當然のことといはねばならぬ。然しそれは取り立てた店からの、昭和八年十月頃の鑑定だとのことなら、購買または小賣商人からの商品の買換代金かと思はれる。買換代金であつたならば二年で時効にかゝるから、法律的には債務は支拂はなかつてもよいことになるのだ。

第四節 騙された未亡人

私は當年四十歳の未亡人です。主人が突然腦溢血で亡くなりましたから、二人の子供を抱へ、何よりも生活の體を存じ、家の廣いのを幸ひ女中二人で、商人街を始めて何うにか暮らしてまゐりました。

去年の六月、私のふとした心の迷ひから、泊客のKといふ男と、誤つた關係を結んでしまいました。Kは妻のある身でありながら、自身だと申して私を騙つたばかりでなく、他にも若い妻のあることが後になつてからわかりましたので、私は随分Kを買めました。Kは「彼はお前を騙した覚えはない」と、空憤けるやうな始末で

始めてKに誠意のないことを知つたものゝ、もうそのときはKのために言葉巧みに欺かれ、Kの商賣に使用する金を、私の名義で成る金貸から月一割の利で借りましたので、沼田に落ちたやうな次第で、田舎には兩親もあり姉や弟もありますが、こんな奴は知らせたくないと思つて、一人苦しんで居ります。

私の窮乏を憐れへたKは、それを善いことにして、いつかな返す気色もなく、何と都合つても相手にして呉れません。真一私から別れ願を提出した場合、この借財はどうなるでせうか。また手切金を出せといはれたら出さねばならぬでせうか。

男に誠意のない限り、その借財は、貴女が支拂はねばならぬ。別れるについて手切金を出す必要はない。さうした男との醜い關係をいつまで継続したところで、寧ろ来るとは考へられない。男の脅迫に屈しては、益々窮乏にはまるのみだ。この親子供の行末のためにも、一日も早くすべてを清算して、強く正しい母となつて欲しいと思ふ。

第五節 空閑五年後に出た再婚の話

私は今から八年前二十歳の時、足袋職人と結婚し一人の女児を生みましたが、生活が苦しいので、夫がいくらかの資金を作るまでの約束で、私は子供と共に實家の厄介になつて居りました。六七ヶ月の間は小遣錢や玩具を遣つて來ましたが、遣ふと減少して行つて遂には、手紙を出しても返事さへ來なくなり、餘り心算のため見届

に依頼し、心當りを押して頂きました。夫の行方は全く知りません。

私はもう気が狂ひさうで、當時は死ぬ覚悟までしましたが、母や兄に認められて漸く平生の氣持に立ちかへりました。けれど、實家の苦しい家計を知る私は、兄の世話になるのが辛く、製紙工場に働いて居ります。すると最近製紙廠の方から、良い職があるが考へてはどうかと相談を受けました。本當にあてにならない夫を持つてゐては仕方がないと考へますが、私も子供も夫の籍に入つて居りますので、このまゝで再婚することは法律が許さぬと存じます。夫の籍には私と子供だけで外に誰も居りません。普通不通になつてから滿四年経過して居ります。

生活に窮したからといって、夫婦が分れて暮すといふことはいけない。一人分のものを半分づゝ、また子供と三人で三分の一づゝ食べても、同じく一しよに暮して協力してゐる中には、またどうにでも僅は開けて來るものだ。それだのに一時の困難に負けて分れて暮すから、夫婦の中に入つた一寸した亀裂が後には、破壊にまで進んでしまふことになるのだ。

然しこれは今後についての注意で、今の夫との間はもう、何うにも仕様がなれないと思ふ。子供に父を失はせることは誠に遺憾千萬だが、滿四年も普通不通であるといふ事實は、若し生きてゐるとすれば無責任も甚だしいし、死んでゐるとすれば勿論待つても仕方がない筈だ。

それで法律は「配偶者の生死が三年以上分明ならざる」ときは、離別の理由の一として、規定してゐるのだ。子供の籍を抜くことは難かしくが、再婚は離婚の手続をした上で、いつでも出来ることだから、條件次第

で再婚した方がよいだらう。

第六節 未亡人と同居する兄

兄は三十一、未亡人は四十以上とのことで、二人の間には九つと六つの男の子さへ出来ました。そんなことは少しも知らず、昨年から父の知人の娘との縁談に氣乗りになつてゐるのです。兄がその未亡人と手を切れば、子供に対する責任は立派に持つてゐるのです。今の縁談の相手方も、兄の二人の子供のことは承知して居ります。

それにこの縁によつて、父のある立場も救はれることになるのですが、このことを兄に話し、犠牲になつて呉れともいひ切れないのです。未亡人は却々しつかりした人ださうですが、兄と未亡人との生活は、將來とも幸福でせうか。兄は眞面目な人で人のよい人間です。兄の癖心に喰ひ入つたその婦人を、今更ながら想ひしく思ひます。その女の人にしても前夫に對して、あまり節操が無さすぎはしませんでせうか。この兄と未亡人との籍を切る方法はないでせうか。



第九編 男女法律の巻

兄が未亡人と手を切らなければ、両親が兄との縁を切り、將來のことは關知せぬと父は申して居ります。兄もいづれはかうした不純な生活に目ざめるでせうが、母は今手を切るやうにと、たつての願ひを兄に申して居ります。兄の幸福のため子供のため、両親のため目ざめて、心を入れかへてくれるのを待つてゐるのですが、かうした場合どうすればよろしいでせうか。

目ざめて心を入れ替へといふけれど、兄のその生活が眞面目で、眞實なものであるならば、別に目ざめやうもないではないか、兄の罪か未亡人の罪かと、あたまたからこの二人の關係を、眞實視するところに錯誤があるのだ。

亡夫に對する節操を守ることが以て、終生を送り得るなら、これは女性としては最高の理想的生活だが、それが出来ないからといって、不貞呼ばりをするのも間違つた話だ。

そして再婚可なりとすれば、眞實な心と心がピッタリ結びついてゐる以上、年の相違や先夫の子の有無などは問題ではない。父の立場を救ふためといふやうな、御都合主義的結婚こそ不正である。

別親としては大切な息子の縁について、色々の理想もあつたらうに、意外な人と子供まで産んでしまつたのでは失墜立腹も無理はないが、ことごとくに至つては不幸をより大きくしないことにつき考へねばなるまい。兄と未亡人の將來が幸福であるかどうかは未知數だが、無理に分れさせることによつて皆が不幸となり、その不幸の餘波は別親の上にも及ぶであらう。二人の縁には不正は何一つないことを認識し、事を寛立てない方がよくはなからうかと思はれる。

がよくはなからうかと思はれる。

第七節 再婚か一生獨身か

私は二十三歳になる三歳の男児の母であります。夫は三年前に死去いたしました。が内縁關係でありました。に、子供は私生児であります。現在は親の許に居りますが、いつまでも此儘で居られるものではない、さりとて物質的背景のある譯でもなし、自分で働いて育てるか、子供を連れて再婚するかですが、働くには子供か女中に子供を任せねばならず、それでも私が働いて育てる方が、子供のために幸福でせうか。

また再婚するとなれば、職を請ひて子供の養育をしてくれることを、承諾してくれるやうに願ひたいのです。一生私生児でも、私一人に育てられた方が幸か、親父でも内縁上の父のある方が幸か、それについて迷つて居ります。

子供本意に生きて行かうとする心はよくわかる。しかしまだ二十三の若い女性だから、これからメツと獨身を過すのは氣の毒だ。さうかといつて適子として嫁に行くのは困難な話だが、若し幸にしてよき相手があれば再婚をすゝめたい。

それには先方の人格をもよく確かめ、暫く深い交際をつゞけて、本當に誠意のある人と認められた上でなくてはならぬ。それだけ信託するに足る相手がなければ、なまじい人と結婚して子供を養育維持ひにされるよりは、

書いて育てるがよい。女中を置くだけの資力がなければ、託兒所か育児所へ相談すれば、便宜な方法もある筈である。

— (終) —

人生讀本



昭和十二年十月十五日印刷
昭和十二年十月二十日發行

(有所権版)

定價 金貳圓四拾錢

特價 金壹圓八拾錢

著作者 福井才平
東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六
發行者 志水松太郎
東京市神田區猿樂町二ノ八
印刷者 小泉準一
東京市板橋區板橋町三ノ六四
印刷所 帝都印刷株式會社

發行所

東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六
東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六
東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六

大日本出版文藝社

發賣所

東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六
東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六
東京市豊島區雑司ヶ谷町セノ三〇六

東京堂

發賣所

東京市神田區神保町一ノ三〇九
東京市神田區神保町一ノ三〇九
東京市神田區神保町一ノ三〇九

栗田書店

